

※修正箇所は下線を引くこと
適用は ■印を記入する。

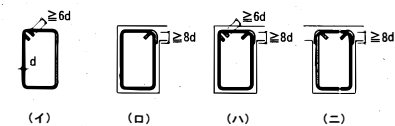
6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

備考			発注者	新潟県 村上市				工事名称	道の駅「朝日」(地域振興施設)建築工事		図面番号	
			図面名称					縮尺	意	電		
								構造設計標準仕様	A1: S=1/non A3: S=1/non	(構)	機	

●	●	

3.2 あばら筋（小梁、片持梁、基礎梁含む）の組立て形及び割付け等

(1) あばら筋組立の形及びフックの位置

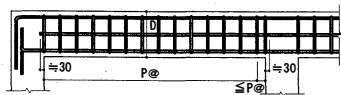


- (イ) 形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
- フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

図3.5 あばら筋組立の形

(2) あばら筋の割付け

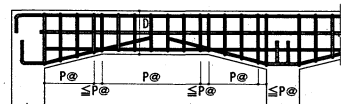
(ア) 間隔が一律でハンチのない場合



- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中P@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.6 あばら筋の割付け（その1）

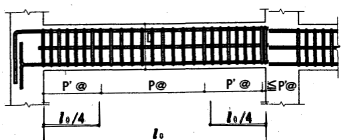
(イ) 間隔が一律でハンチがある場合



- あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
- 図中P@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.7 あばら筋の割付け（その2）

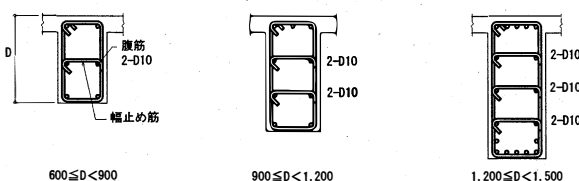
(ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合



- あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
- 図中P@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図3.8 あばら筋の割付け（その3）

(3) 腹筋及び幅止め筋



- 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

図3.9 腹筋及び幅止め筋

3.4 小梁主筋の継手、定着及び余長

(1) 連続小梁の場合

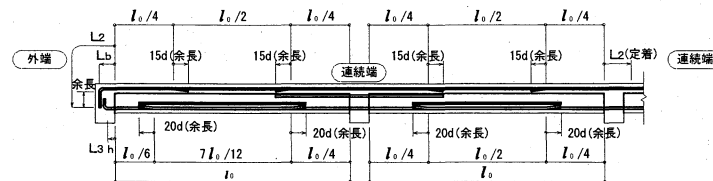


図3.10 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(2) 単独小梁の場合

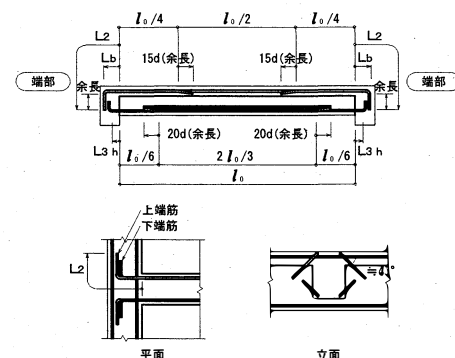
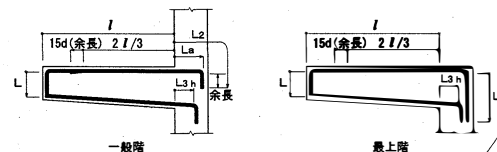


図3.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

- 印は、余長位置を示す。
- 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしても良い。
- 図示のない事項は、1.3及び3.1に準ずる。
- L3hを確保できない場合は、標準仕様書（5.3.4(5)(イ)）によることができる。

3.5 片持梁主筋の継手、定着及び余長

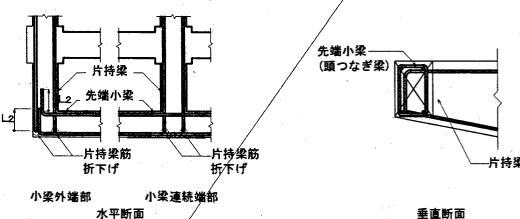
(1) 先端に小梁のない場合



- 印は、余長位置を示す。
- 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
- 図示のない事項は、3.11による。
- L2の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
- L3hを確保できない場合は、標準仕様書（5.3.4(5)(イ)）によることができる。

図3.12 片持梁主筋の定着及び余長

(2) 先端に小梁がある場合



- 図示のない事項は、(1)による。
- 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図3.13 片持梁主筋の定着

4.1 壁の配筋

(1) 壁の配筋は表4.1による。

表4.1 壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(2) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表4.2による。

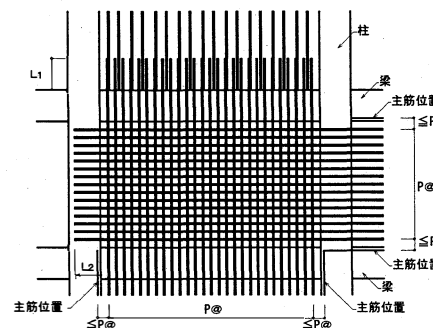
表4.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別(表6.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	KA1
	横筋	D10-200@ダブル	KA3
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	KA2
	横筋	D10-200@ダブル	KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(3) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

4.2 壁の継手及び定着



- 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。
- 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とし、鉄筋の継手位置は柱・梁以外とする。
- 幅止め筋は、縦筋ともD10-1,000程度とする。

図4.1 壁の配筋

4.3 壁の交差部及び端部の配筋

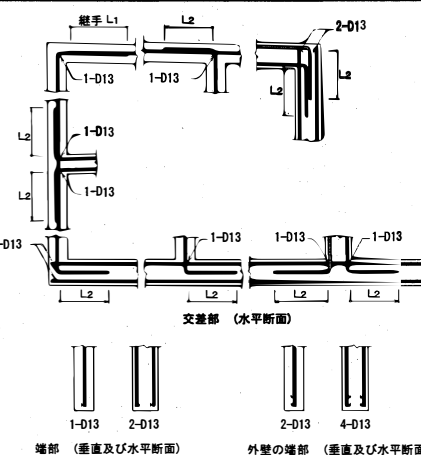


図4.2 壁の交差部及び端部の配筋

4.4 壁の開口部補強

(1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表4.3、B形は表4.4とする。

表4.3 壁開口部補強筋（A形）

壁の種別	補強筋
W12、W15	1-D13
W18、W20	2-D13

表4.4 壁開口部補強筋（B形）

壁の種別	補強筋
W12、W15	2-D13
W18、W20	4-D13

(2) 壁開口部補強筋の定着長さは図4.3による。

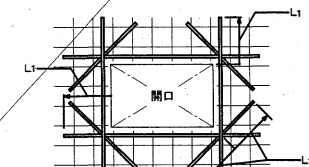


図4.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を縦やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(4) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

4.5 バラベットの配筋

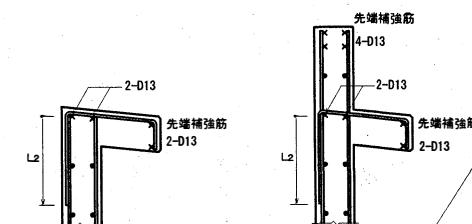
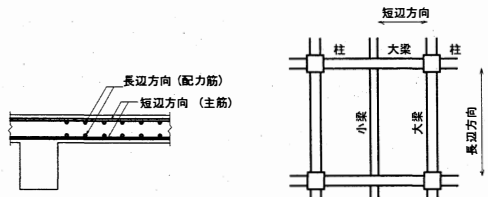


図4.4 バラベットの配筋

5.1 スラブの配筋

表5.1 スラブの配筋				
配筋種別	短辺方向（主筋） 全域	長辺方向（配力筋） 全域	配筋種別	短辺方向（主筋） 全域
S 1	D13-100φ	D13-100φ	S 8	D10、D13-150φ
S 2	同上	D13-150φ	S 9	同上
S 3	同上	D10、D13-150φ	S10	D10、D13-200φ
S 4	D13-150φ	D13-150φ	S11	同上
S 5	同上	D10、D13-150φ	S12	同上
S 6	同上	D10-150φ	S13	D10-200φ
S 7	D10、D13-150φ	D10、D13-150φ	S14	同上

（注）上端筋、下端筋とも同一配筋とする。



- 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
- 鉄筋の重ね継手長さは、 l_1 とする。
- 土間コンクリート補強筋の配筋及びコンクリート厚さは、構造図による。

図9.1 スラブの配筋

5.2 スラブ筋の定着及び受け筋

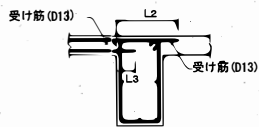


図5.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)

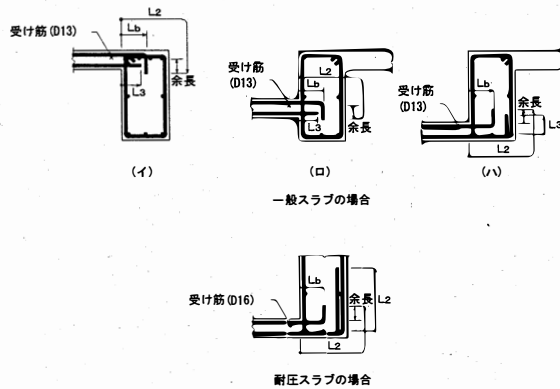


図5.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

5.3 片持スラブの配筋

表5.2 CS形配筋			
配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100φ	CS5	上 D10-200φ
	下 D13-200φ		下 D10-400φ
CS2	上 D13-150φ	CS6	上 D10、D13-200φ
	下 D13-300φ		下 —
CS3	上 D10、D13-150φ	CS7	上 D10-200φ
	下 D10、D13-300φ		下 —
CS4	上 D10、D13-200φ		
	下 D10-200φ		

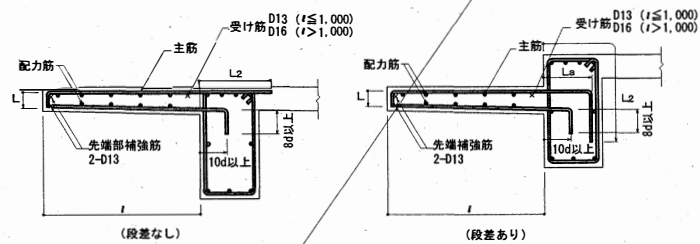


図5.4 片持スラブの配筋 (CS1 から CS5)

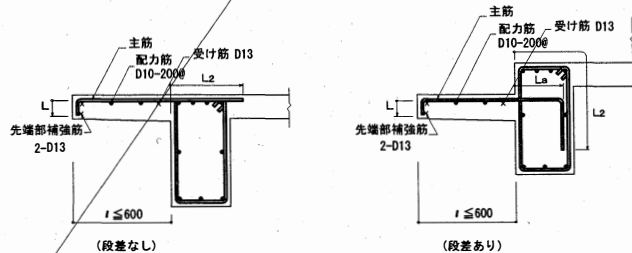


図5.5 片持スラブの配筋 (CS6 及び CS7)

- 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

5.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋

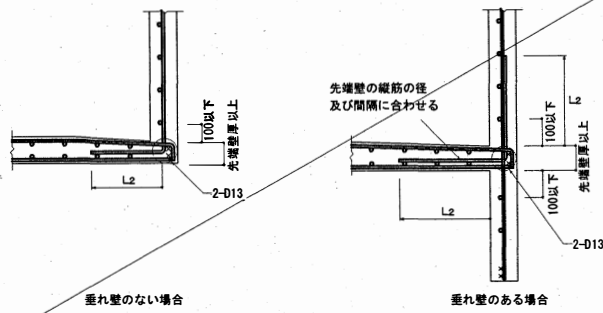
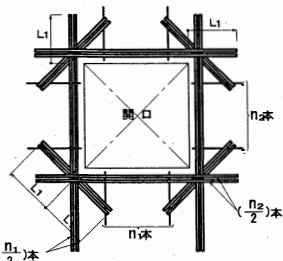


図5.6 先端に壁が付く場合の配筋

5.5 スラブの開口部の補強

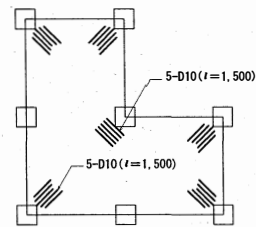


- スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($l=2l_1$) シングルを上下筋の内側に配筋する。
- スラブ開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げるにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- スラブ開口の最大径が700mm以下の場合に限る。

図5.7 スラブ開口部の補強配筋

5.6 出隅部及び入隅部の補強

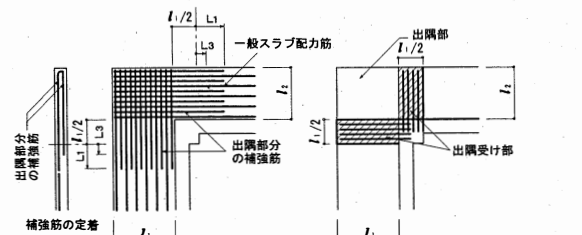
(1) 屋根スラブの出隅及び入隅部



- 補強筋を上下筋の下側に配置する。

図5.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(2) 片持スラブの出隅部



- $l_1 \geq l_2$ とする。

出隅部分補強配筋

- $l_1 \geq l_2$ とする。

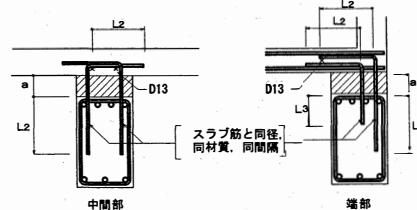
- 出隅受け部配筋は柱又は梁に l_1 定着する。

出隅受け部配筋

図5.9 片持スラブ出隅部の補強配筋

5.7 スラブの打継ぎの補強等

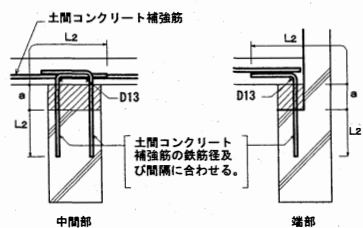
(1) 土間スラブの打継ぎ補強（基礎梁とスラブを一体打ちとしなくて、打継ぎを設ける場合の補強を示す。）



- 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
- a が300mm以下の場合に限る。

図5.10 打継ぎ補強配筋

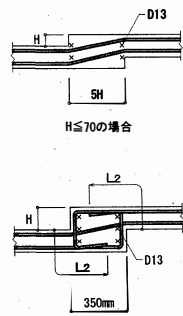
(2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



- 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接地盤へ伝達できるものをいい、それ以外は土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
- a が300mm以下の場合に限る。

図5.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

5.8 段差のあるスラブの補強



- 150mm以下の段差のあるスラブの場合に限る。

図5.12 段差のあるスラブの補強配筋

6.1 片持スラブ形階段の配筋

表6.1 片持スラブ形階段の配筋		
配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

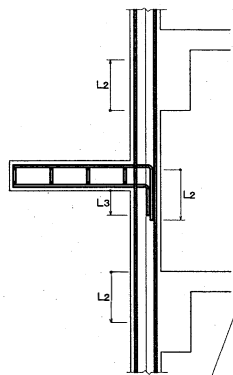


図6.1 片持スラブ形階段配筋の定着

1. 壁配筋は、4.1(2)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから壁に下ろす。
3. スラブ配筋の継手及び定着長さは、標準仕様書（表5.3.4）の L₃とする。

6.2 二辺固定スラブ形階段の配筋

表6.2 二辺固定スラブ形配筋		
配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)	
KB1	D13-200φ	
KB2	D13-150φ	
KB3	D13-100φ	
KB4	D13, D16-150φ	
KB5	D16-150φ	
KB6	D16-125φ	
KB7	D16-100φ	

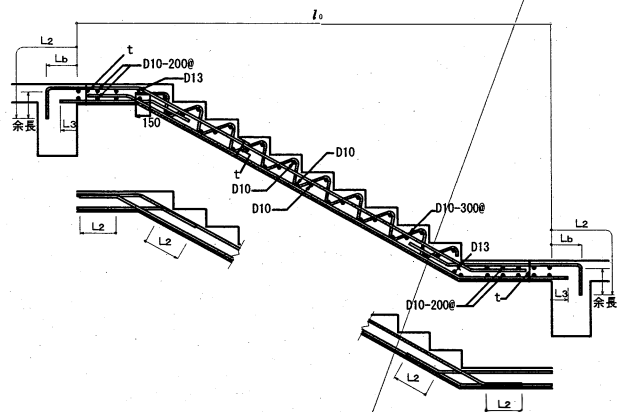
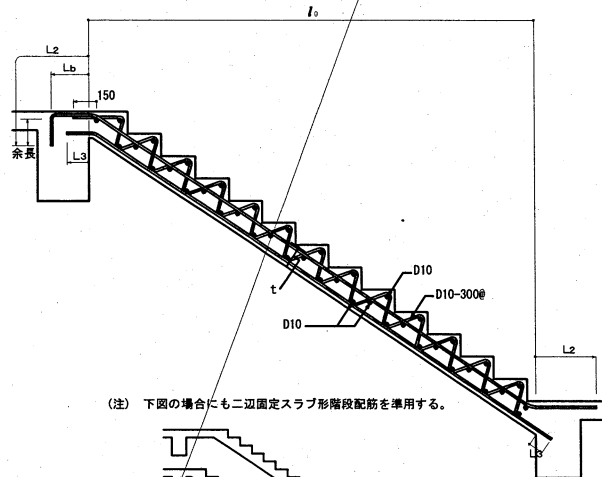


図6.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

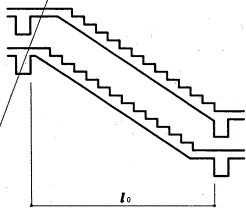


図6.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

7.1 梁貫通孔の配筋

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1Iによる。
- (2) 孔の径は、梁せい1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3（Dは梁せい）の範囲には設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付等梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7.2による。
- (8) 孔の径が梁せい1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- (12) 他の開孔を設けない範囲は図7.3Iによる。

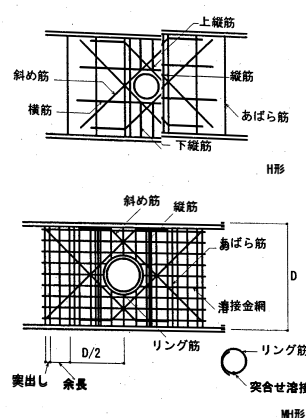


図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

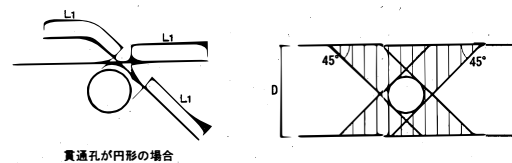
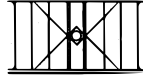
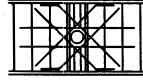
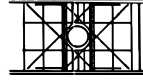


図7.2 補強筋の定着長さ

図7.3 他の開孔を設けない範囲

7.2 梁貫通孔の補強形式

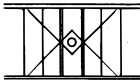
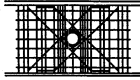

表7.1 H形配筋					
配筋 種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

表7.2 M形配筋			
配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100φ	
M4	6-2-D13		

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

表7.3 M形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
層H1	2-2-D13	なし	なし	
層H2		2-2-D13		
層H3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	
層H4	4-2-D13			
層H5	4-2-D16			
層H6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	
層H7	4-2-D19			

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

7.3 コンクリートブロック横壁との取合い

(1) 控壁の配筋

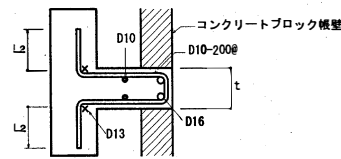


図7.3 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(2) 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

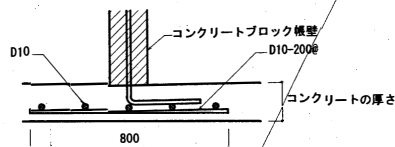


図7.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

意	電	
構	機	

木造軸組接合部標準図(1)

1. 一般事項	2. 材料	3. アンカーボルト	4. 接合一般
<p>(1) 適用範囲</p> <p>※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。</p> <p>木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。</p> <p>(2) 設計図書</p> <p>設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。</p> <p>(3) 準拠する図書</p> <p>設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。）</p> <p>「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修）</p> <p>「公共建築木造工事標準仕様書 平成25年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）</p> <p>「木造計画・設計基準 平成23年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）</p> <p>「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年版）」（日本住宅・木材技術センター）</p> <p>「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」（2015年改訂版）</p> <p>上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。</p> <p>(4) 設計図書の優先順位</p> <p>設計図書の優先順位は下記による。</p> <p>1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書）</p> <p>2. 設計図</p> <p>3. 特記仕様書</p> <p>4. 本標準図</p> <p>(5) 疑義</p> <p>疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。</p> <p>(6) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出</p> <p>工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。</p> <p>(7) 施工図及びプレカット図の提出</p> <p>工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。</p> <p>(8) 製作工場の選定、承諾</p> <p>設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける</p> <p>(9) 各種試験・検査報告書の提出</p> <p>施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。</p> <p>(10) 接合工法</p> <p>本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。</p> <p>・継手仕口による在来工法</p> <p>・梁受け金物、及びホソパイプ等による金物工法</p> <p>なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。</p> <p>また、本標準図は在来接合工法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。</p> <p>本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。</p> <p>(11) 加工部材に関する留意事項</p> <p>本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。</p> <p>・梁:部材断面が幅90mm～150mm、梁成が幅と同等～450mm、及び材長6m以下</p> <p>・柱:90°～150°角の正方形断面、長さ6m以下</p> <p>これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。</p>	<p>(1) 木材及び木質材料</p> <p>主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。</p> <p>(2) 接合金</p> <p>a)くぎ</p> <p>主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ（N釘）または太め鉄丸くぎ（GN釘）または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせっこうボード用くぎ（GN釘）を用いる。</p> <p>b)木質構造用ビス</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。</p> <p>使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>c)ボルト・ナット・座金</p> <p>1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。</p> <p>・ボルトはJIS B 1051、ナットはJIS B 1052 に規定される機械的性質を満たす炭素鋼</p> <p>・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット</p> <p>【 Zマーク表示金物 】</p> <p>【 Dマーク表示金物 】</p> <p>【 Sマーク表示金物 】</p> <p>・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット</p> <p>2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。</p> <p>3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。</p> <p>※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。</p> <p>d)ドリフトピン・ラグスクリュー</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>e)木栓・木ダボ</p> <p>主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。</p> <p>樹種・径等については、特記仕様書で指定する。</p> <p>節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。</p> <p>(3) 接合金物</p> <p>a)規格金物</p> <p>構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。</p> <p>・JIS A 5531：木構造用金物</p> <p>・公益財団法人日本住宅・木材技術センターによる規格に準じた金物：</p> <p>・Zマーク表示金物、又は Cマーク表示金物</p> <p>・同等認定金物：Dマーク表示金物</p> <p>・性能認定金物：Sマーク表示金物</p> <p>上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用できる。</p> <p>使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。</p> <p>b)製作金物</p> <p>製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。</p> <p>(4) 接着剤</p> <p>原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。</p> <p>建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。</p> <p>(5) 防腐防蟻処理及び耐候処理</p> <p>防腐防蟻処理及び耐候処理（塗装）は特記仕様書で指定する。</p> <p>土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。</p> <p>適切な防腐防蟻処理については特記仕様書で指定する。</p>	<p>※共通事項</p> <p>・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。</p> <p>(1) 土台固定用アンカーボルト</p> <p>a).アンカーボルトの埋設位置： アンカーボルトの埋設位置は以下による。</p> <p>-1.耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部：</p> <p>耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置（柱芯より200mm内外）とする。</p> <p>-2.土台切れの端部及び、土台の継手仕口：</p> <p>土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。</p> <p>当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。</p> <p>-3.その他： 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。</p> <p>(2) 引張金物専用アンカーボルト</p> <p>a).引張金物専用アンカーボルトの径</p> <p>引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。</p> <p>b).引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ</p> <p>引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。</p>	<p>(1) 釘接合</p> <p>・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。</p> <p>・面材表面に対し、釘頭がめり込んではいならない。</p> <p>・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。</p> <p>・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。</p> <p>・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>(2) 木質構造用ビス接合</p> <p>・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。：</p> <p>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</p> <p>上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %</p> <p>※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2／3程度とする。</p> <p>(3) ボルト接合</p> <p>・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</p> <p>・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付けない。</p> <p>・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。但し、座振り座金等、ナットと座金为一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。</p> <p>・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。</p> <p>(4) ラグスクリュー接合</p> <p>・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。</p> <p>・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</p> <p>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。：</p> <p>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</p> <p>上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %</p> <p>※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。</p> <p>・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。</p> <p>・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。</p> <p>・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。</p> <p>・呼び径 M12以下：+1.0mm</p> <p>・呼び径 M16以上：+1.5mm</p> <p>(5) ドリフトピン接合</p> <p>・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</p> <p>・ドリフトピンは、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、孔に対しテーパのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>(6) 木栓接合</p> <p>・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</p> <p>・木栓は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないように注意し、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。</p> <p>(7) グルードインロッド接合</p> <p>・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等を挿入して樹脂接着剤等を入力・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。</p> <p>・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。</p>

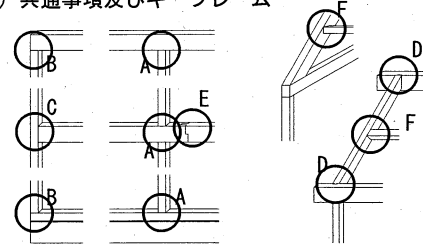
平成27年 9月15日発行 一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会

備考	発注者	新潟県 村上市	工事名称	道の駅「朝日」（地域振興施設）建築工事		図面番号	S-008	
				図面名称	縮尺		電	機
				木造軸組接合部標準図(1)	A1: S=1/100 A3: S=1/200			

木造軸組接合部標準図(2)

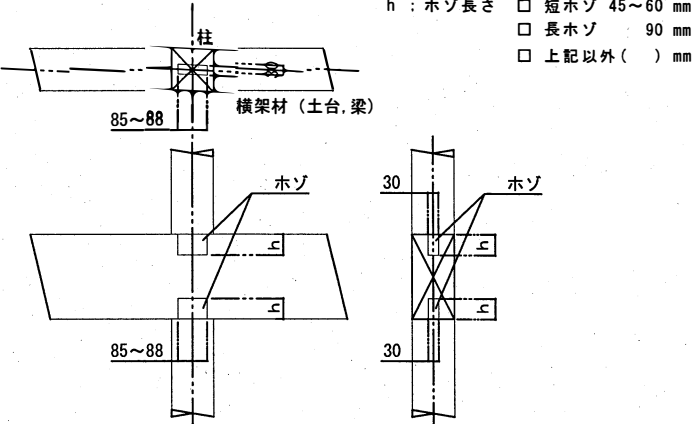
5. 軸組標準接合部

(1) 共通事項及びキープレーム

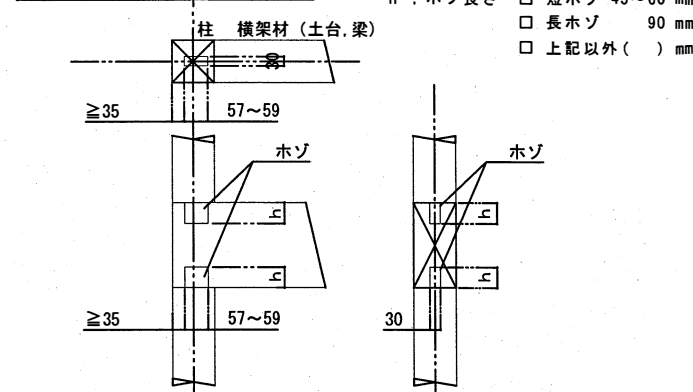


(2) 標準的な継手仕口 (mm)

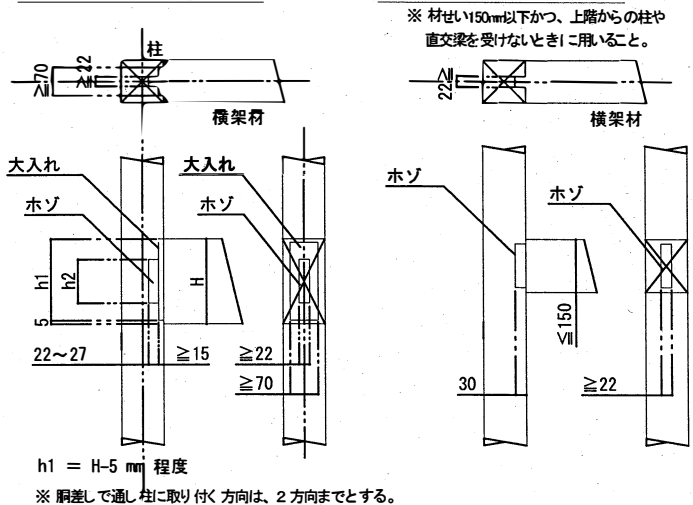
A 柱-横架材仕口：一般部 (土台共通)



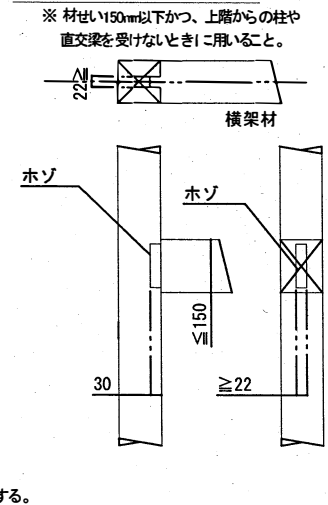
B 柱-横架材仕口：出隅部 (土台共通)



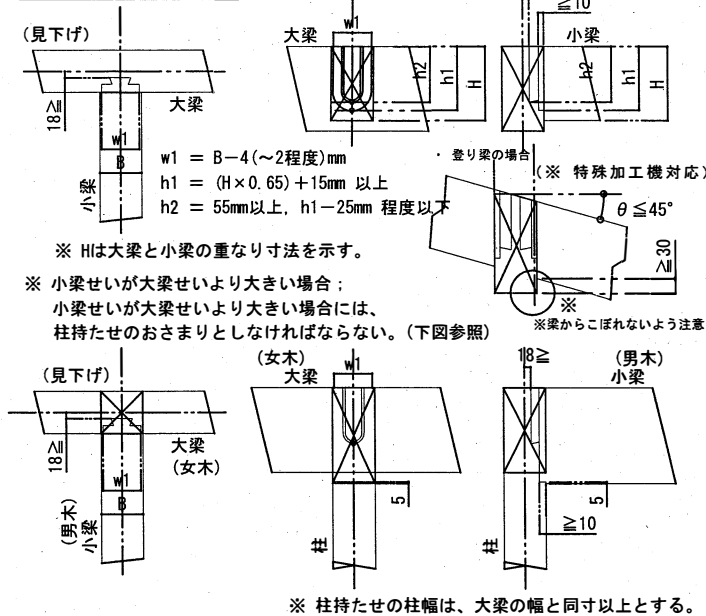
C 通柱-横架材仕口：胴差し



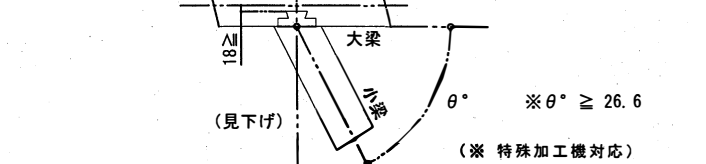
C 通柱-横架材仕口：折差し



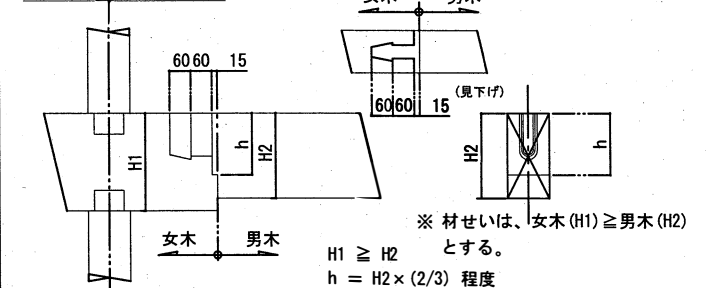
D 大梁-小梁仕口：蟻仕口



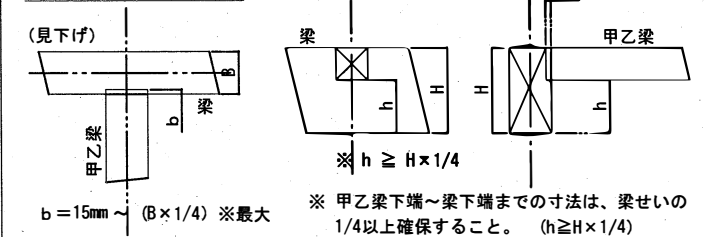
※ 斜め蟻の場合：



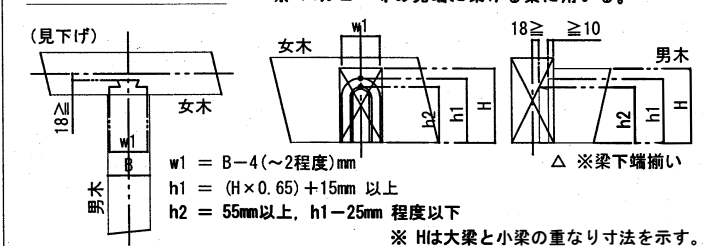
E 梁-梁継手：腰掛継ぎ



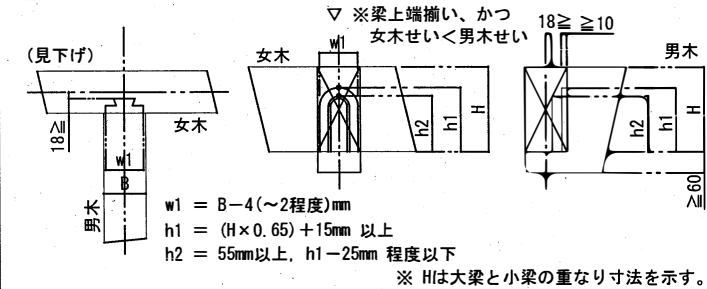
F 梁-甲乙梁仕口：大入れ



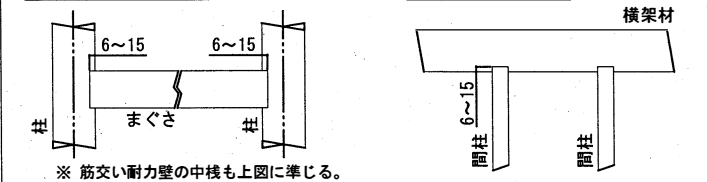
G 梁-梁仕口：逆蟻仕口



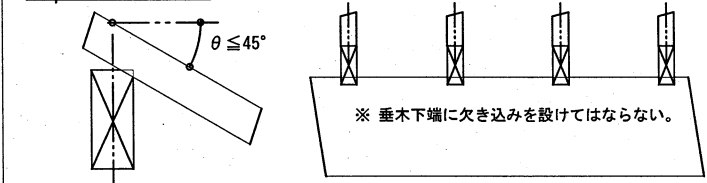
H 梁-梁仕口：茶臼仕口



I その他：まぐさ欠き



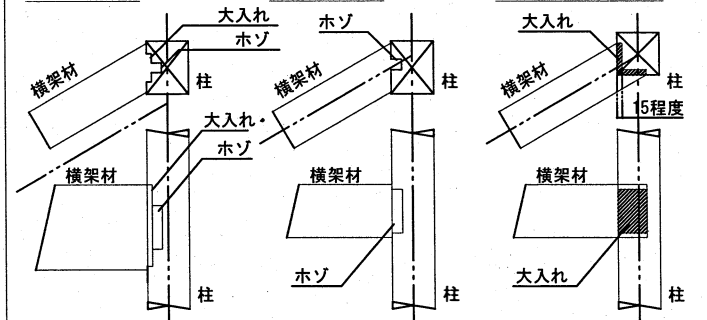
K その他：垂木欠き



(3) 特殊加工機を用いた標準的な継手仕口 (mm)

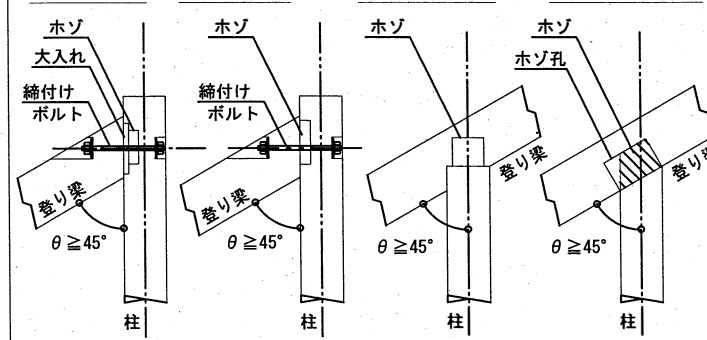
特殊加工機を用いることにより対応可能な継手仕口の一例を、本節に示す。
特殊加工機を用いた継手仕口は、加工工場が限定されるので注意すること。
特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

L 斜め胴差し



※ L, Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。
※ L, Mともに、柱梁の緊結には引きボルトの代わりにコーナー金物を横使いとする。
使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。

O 登り胴差し



P 登り折差し

Q 登り斜めホゾ

R 登り座付きホゾ

S 登り梁合掌部

T 登り梁合掌部

U 方杖-梁仕口

V 方杖-柱仕口

W 渡り頭

X 登り梁渡り頭

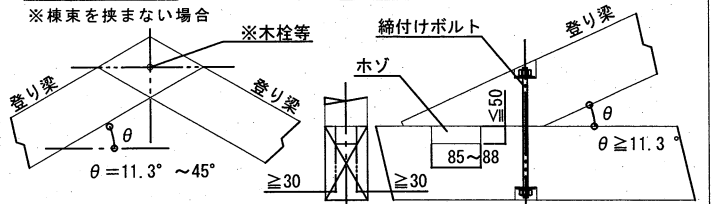
Y 山形プレート等

Z 短冊金物

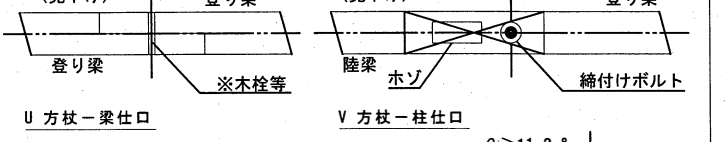
AA 両引きボルト

AB 羽子板ボルト

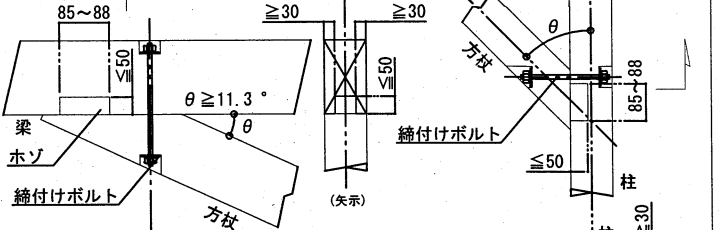
S 登り梁合掌部



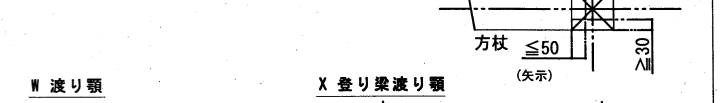
T 登り梁合掌部



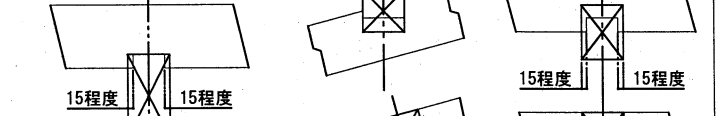
U 方杖-梁仕口



V 方杖-柱仕口



W 渡り頭

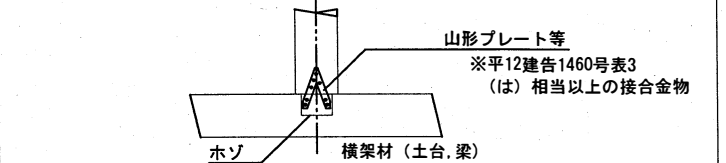


X 登り梁渡り頭

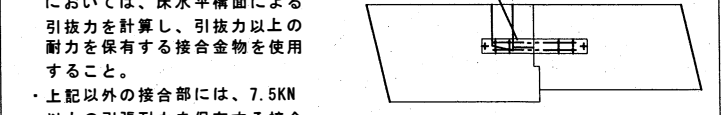


(4) 継手・仕口の補強金物

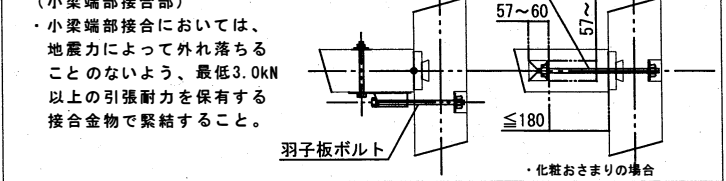
・耐力壁柱の柱脚・柱頭においては、耐力壁による引張力を計算し、引張力以上の耐力を有する接合金物を使用すること。
・上記以外の柱脚接合部には、5.1kN以上の引張耐力を有する接合金物(平12建告1460号表3に対応する表符号の"は"相当以上)を使用すること。



(梁-梁接合部)
・水平構面の外周部横架材接合部においては、床水平構面による引張力を計算し、引張力以上の耐力を有する接合金物を使用すること。
・上記以外の接合部には、7.5kN以上の引張耐力を有する接合金物を使用すること。(右図参照)



(小梁端部接合部)
・小梁端部接合部においては、地震力によって外れ落ちることのないよう、最低3.0kN以上の引張耐力を有する接合金物で緊結すること。



平成30年4月5日改訂 一般社団法人 中大規模木造プレカッタ技術協会

木造軸組接合部標準図(3)

6. 面材耐力壁

6.1 共通事項

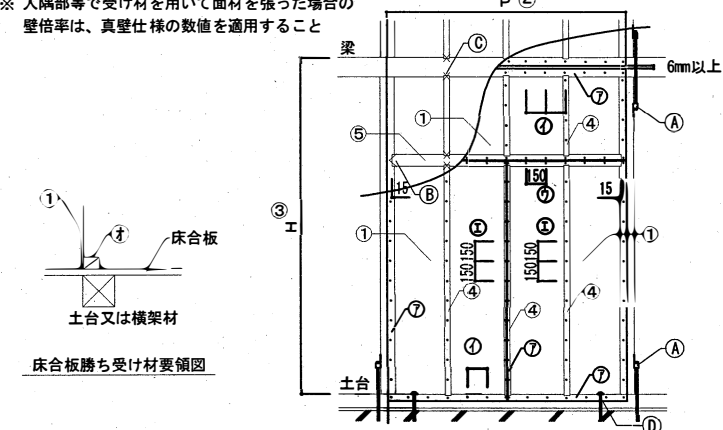
各部仕口形状は、(3)高耐力仕様構造用合板張り耐力壁を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。
面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、面材厚の10%未満かつ1mmを限度とする。左記を超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。
耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。
柱の有効細長比(断面の最小二次半径に対する座屈長さの比)は、150以下とすること。

6.2 面材耐力壁の仕様

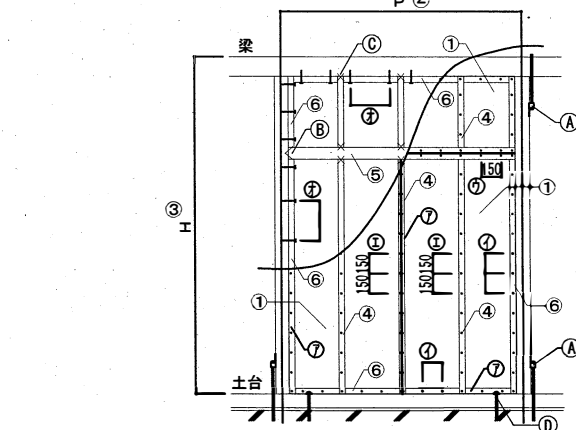
(1) 昭56建告1100号に準じた耐力壁 面材種類: 構造用パーティクルボード、構造用MDF、構造用合板、構造用パネル(OSB)

a. 面材張り大壁仕様耐力壁

※ 入隅部等で受け材を用いて面材を張った場合の壁倍率は、真壁仕様の数値を適用すること



b. 受け材付き真壁仕様耐力壁



a-1. 高倍率仕様大壁耐力壁

壁倍率: 4.3または3.7

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm ... 4.3 倍 構造用合板 t=9mm以上、構造用パネル(OSB) t=9mm以上 ... 3.7 倍
② 柱間隔	600mm ≤ P ≤ 2000mm
③ 高さ	H ≤ 6000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下
④ 間柱	幅45以上、間隔500mm以下
⑤ 中柱	幅90mm以上
2) 各部仕口形状及び性能	
⑧ 各階の柱頭柱脚部	ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
⑨ 中柱端部	まぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
⑩ 間柱端部	間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
⑪ アンカーボルト	耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置

b-1. 高倍率仕様真壁耐力壁

壁倍率: 4.0または3.3

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm ... 4.0 倍 構造用合板 t=9mm以上、構造用パネル(OSB) t=9mm以上 ... 3.3 倍
② 柱間隔	600mm ≤ P ≤ 2000mm
③ 高さ	H ≤ 6000mm、かつ一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下
④ 間柱	幅45以上、間隔500mm以下
⑤ 中柱	幅90mm以上
2) 各部仕口形状及び性能	
⑧ 各階の柱頭柱脚部	ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
⑨ 中柱端部	突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
⑩ 間柱端部	突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
⑪ アンカーボルト	耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置

⑦ 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする。

面材に対するへり空き	10mm以上
柱はりのへり空き	12.5mm以上

⑦ 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする。

面材に対するへり空き	10mm以上
受け材のへり空き	12.5mm以上

a-2. 標準仕様大壁耐力壁

壁倍率: 2.5

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm ... 2.5 倍 構造用合板 t=9mm以上、構造用パネル(OSB) t=9mm以上 ... 2.5 倍
② ③ ④ ⑤	a-1. (高倍率仕様) に同じ
2) 各部仕口形状及び性能	
⑧ ⑨ ⑩ ⑪	a-1. (高倍率仕様) に同じ
⑦	
④	
⑨	
⑫	
⑬	

b-2. 標準仕様真壁耐力壁

壁倍率: 2.5

① 面材および壁倍率	構造用パーティクルボード t=9mm、構造用MDF t=9mm ... 2.5 倍 構造用合板 t=9mm以上、構造用パネル(OSB) t=9mm以上 ... 2.5 倍
② ③ ④ ⑤ ⑥	b-1. (高倍率仕様) に同じ
2) 各部仕口形状及び性能	
⑧ ⑨ ⑩ ⑪	b-1. (高倍率仕様) に同じ
⑦	
④	
⑨	
⑫	
⑬	

(2) 高耐力仕様構造用合板張り耐力壁 (JIS A 3301標準仕様): 短期許容せん断耐力 $\Delta Q_a = 29.6 \text{ kN/m}$

本耐力壁を採用する場合は、設計図書に試験成績書を添付すること。

a. 条件及び仕様

1) 各部材料

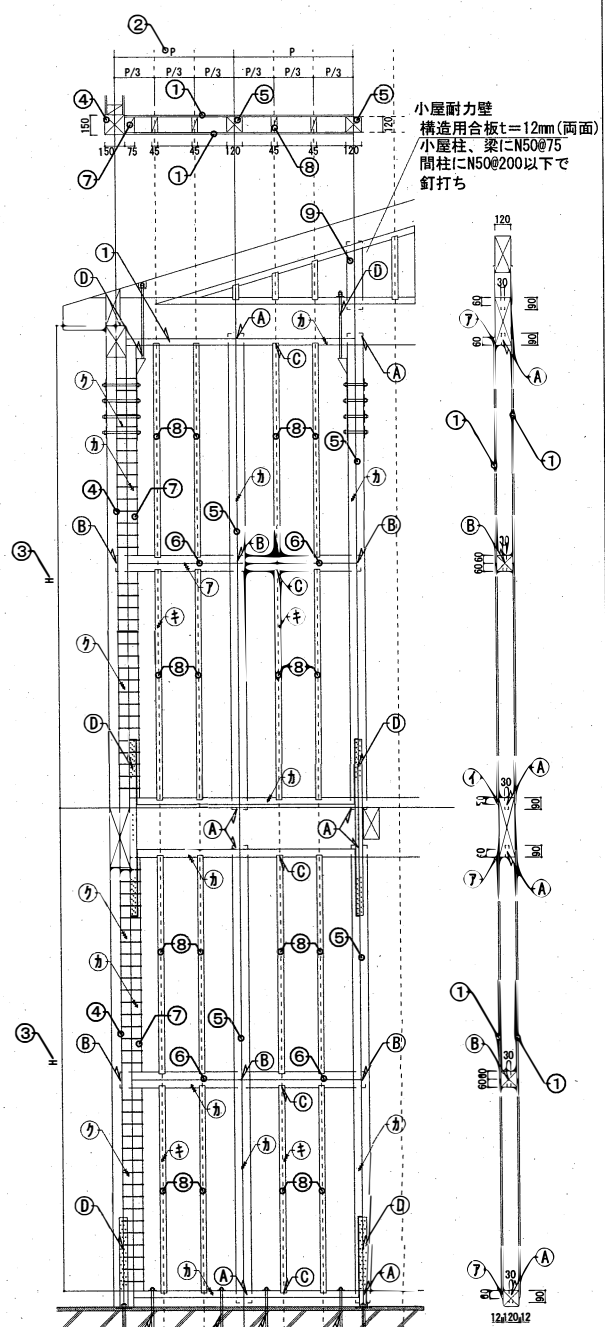
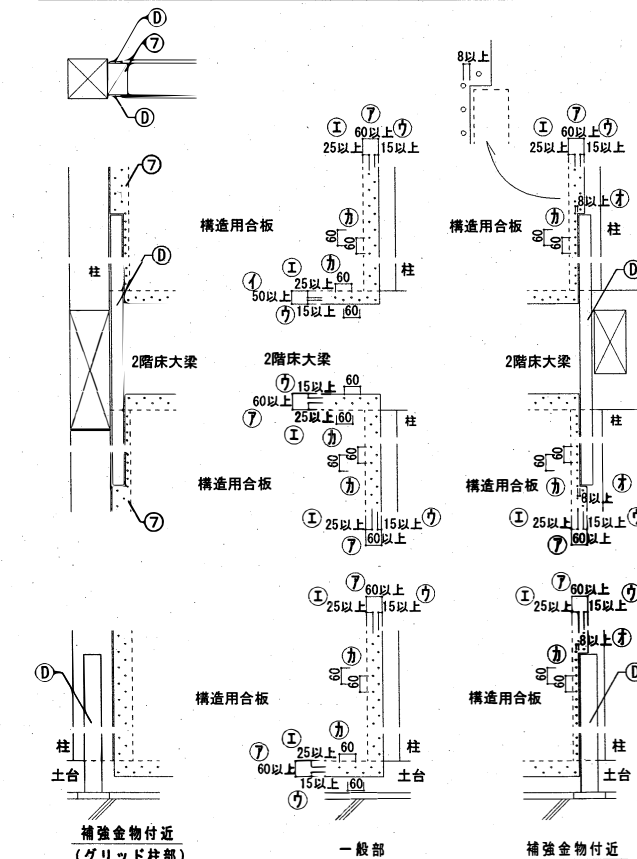
- ① 面材: 構造用合板 t=12mm 両面張り
- ② 間隔: $900 \text{ mm} \leq P \leq 1000 \text{ mm}$
- ③ 高さ: $1800 \text{ mm} \leq H \leq 3650 \text{ mm}$
- ④ 高耐力壁を用いる場合のグリッド柱: $150 \text{ mm} \times 150 \text{ mm}$ 以上 (グリッド柱: X方向とY方向の主要鉛直構面の交点の柱)
- ⑤ 高耐力壁の端部および合板継ぎ目部の柱: $120 \text{ mm} \times 120 \text{ mm}$ 以上
- ⑥ 構造用合板継ぎ目横つなぎ材: $120 \text{ mm} \times 120 \text{ mm}$ 以上
- ⑦ グリッド柱に取付く受け材: $75 \text{ mm} \times 120 \text{ mm}$ 以上
- ⑧ 間柱: 見付け45mm以上、見込み120mm以上、間隔P/3以下
- ⑨ 小屋柱: $120 \text{ mm} \times 120 \text{ mm}$ 以上

2) 各部仕口形状及び性能

- ⑧ 柱頭柱脚部: 厚さ30mm × 深さ90mm以上
- ⑨ 中柱端部ホゾ: 片側から柱に取り付く場合: 厚さ30mm × 深さ90mmホゾ差し
両側から柱に取り付く場合: 厚さ30mm × 深さ60mmホゾ差し
- ⑩ 間柱両端: 横架材への溝加工及び15mm程度大入れ
- ⑪ 各階の柱頭柱脚部: 水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑫ 耐力壁のせん断を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M16アンカーボルト耐力壁1P当り2本設置

3) 各部への釘打及びビス止め

- 構造用合板はたて張り、4周を釘打ちする
- ⑦ ④を除き、柱及びはりに対するかかり寸法: 60mm以上
 - ④ 2階耐力壁合板を2階床大梁へ留め付ける場合かかり代: 50mm以上
 - ④ ④を除き、合板に対するへり空き: 15mm以上
 - ④ 柱はりのへり空き: 25mm以上
 - ④ 金物が干渉しへり空きが確保できない合板部分のへり空き: 8mm以上
 - ④ 横架材・柱・受け材: N50@60mmチドリ打ち
 - ④ 間柱: N50@90mm打ち
 - ④ ⑦の受け材とグリッド柱: 木質構造用ビスφ6、L130~150@100(2列)で留め付ける。



主要鉛直構面の交点の柱(グリッド柱)は $150 \text{ mm} \times 150 \text{ mm}$ 以上とする

6.3 その他の耐力壁

- ・木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2017年版)の詳細計算法による面材張り耐力壁については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- ・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された耐力壁については試験成績書の仕様に基づき準拠することとする。
- ・大臣認定を取得した耐力壁については、認定書に記載された適用範囲及び仕様を守ること。

令和4年6月1日改訂 一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会

発注者 新潟県 村上市

工事名称 道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事

図面番号 S-010

図面名称 木造軸組接合部標準図(3)

縮尺 A1: S=1/100 A3: S=1/200

意 電 機

木造軸組接合部標準図(3A)

6 B. 昭56建告第1100号第1第一号に基づく面材張り大壁耐力壁納まり図

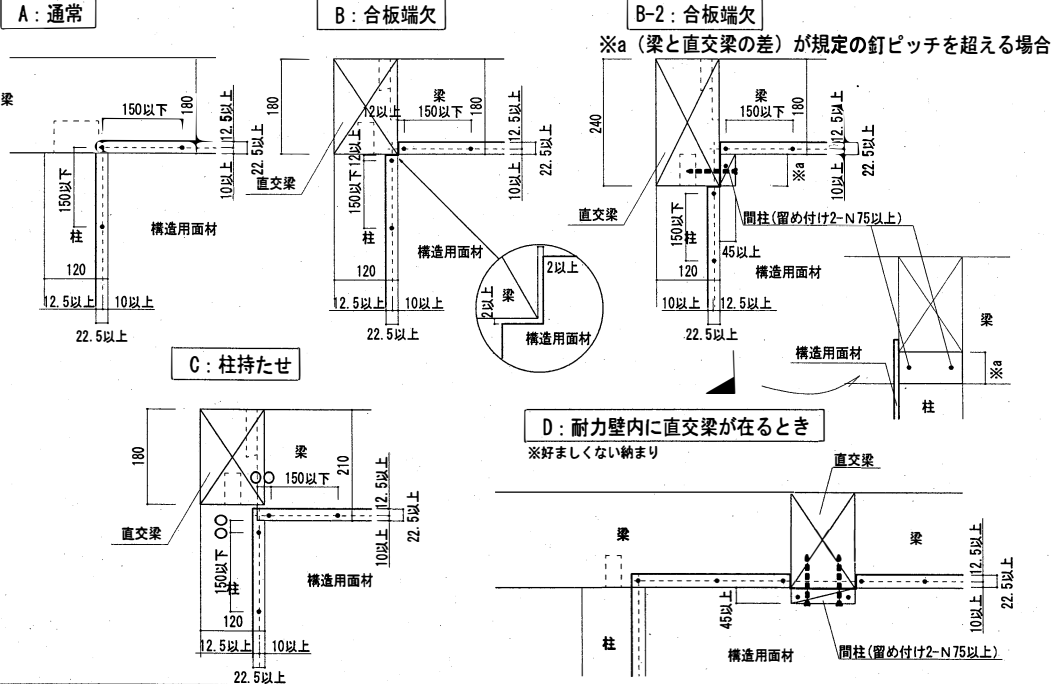
(注) (単位)mm

<共通事項>

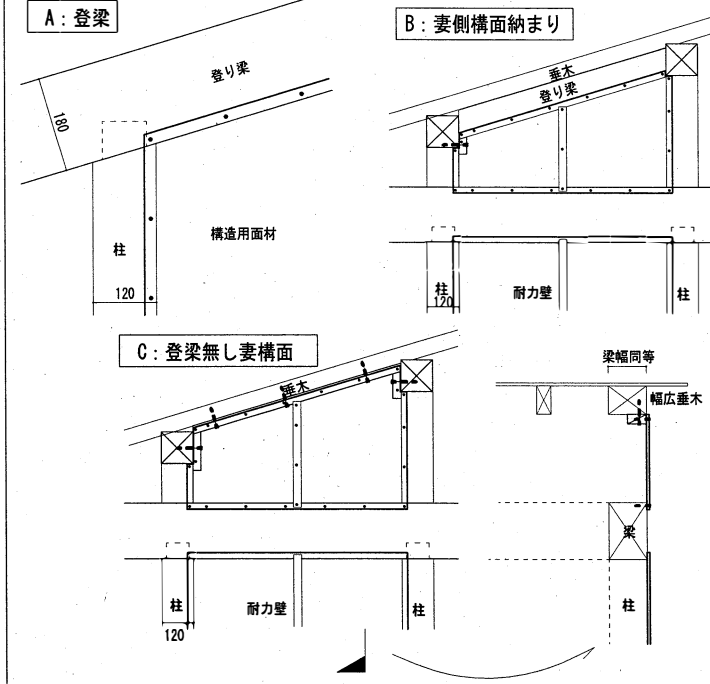
- ・面材は、9mm以上を標準とする。
- ・梁仕口部及び柱頭柱脚部の接合金物は、木造軸組接合部標準図(2)を参照すること。
- ・間柱・受材・筋違等構造に関わる羽柄材の品質については、未乾燥材および皮付き材は不可とし、四面ビン角、ねじれ、反りの無い物とすることを原則とする。
- ・釘ピッチの基準は使用釘本数を満たしている必要がある。記載のピッチは「辺の長さ÷ピッチ+1本」と読むこととする。

- ・開口直下の梁への間柱欠きは、原則行わない事。
- ・間柱(受材)を梁等へ留め付ける場合、釘及び木質構造用ビスの長さは、受け材厚さの2.5倍以上を標準とする。
受け材厚30mmの場合は、N75、CN75 以上
受け材厚45mm(耐力壁：水平力のみを負担する場合)は、N90、CN90(真壁の受け材留め付けと合わせる)以上
受け材厚45mm(水平構面：鉛直力と水平力を負担する場合)は、N115、木質構造用ビスL110 以上

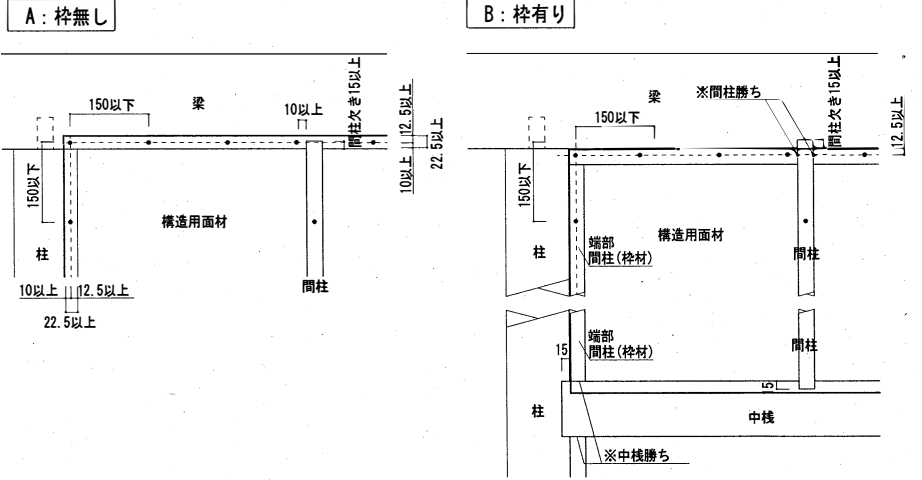
1. 直交梁との取り合い



2. 勾配屋根の納まり

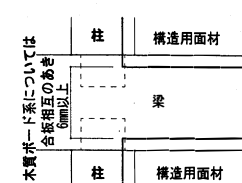


3. 受材・間柱勝ち負けルール

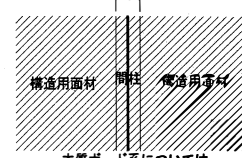


4. 面材相互あきのルール

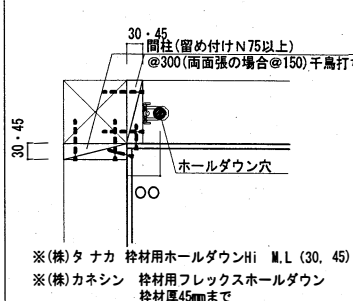
A: 上下面材あき



B: 間柱取付面材あき

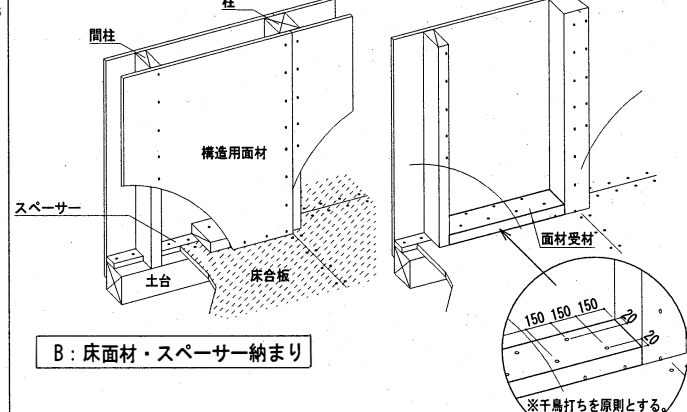


5. 入隅時納めおよび 枠材用ホールダウン納め

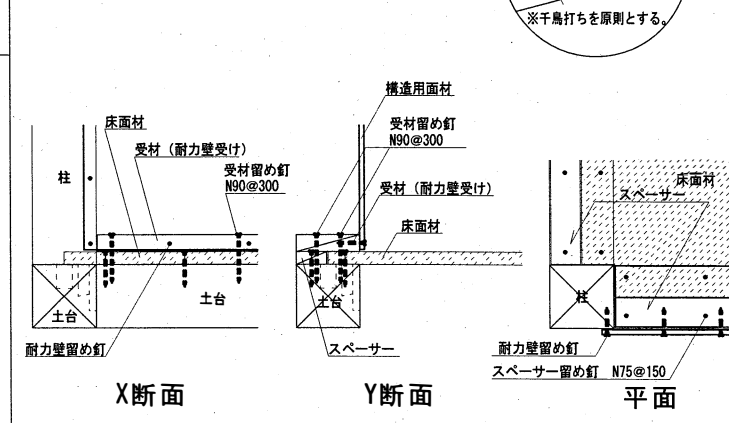


6. 床勝面材との取り合い

A: 面材受材納まり

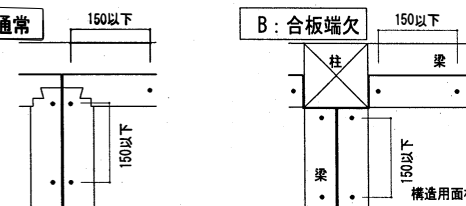


B: 床面材・スパーサー納まり

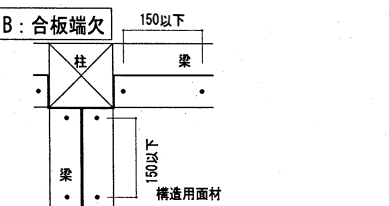


7. 水平構面

A: 通常

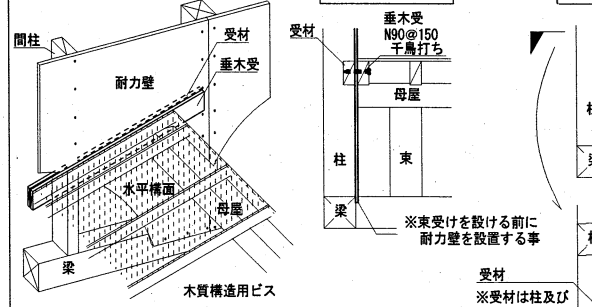


B: 合板端欠

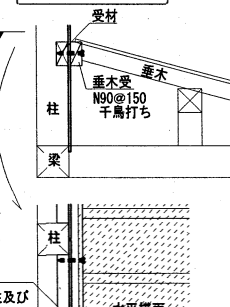


8. 下野部分の納まり

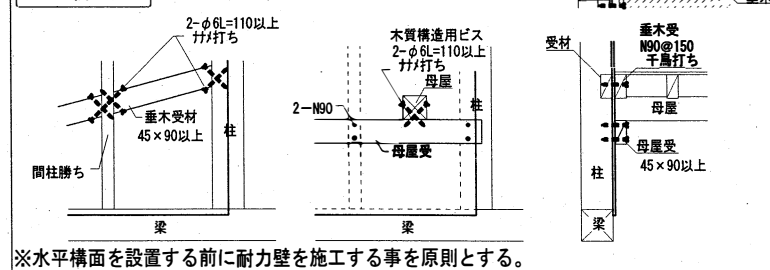
A: 前束仕様



B-2: 垂木受仕様

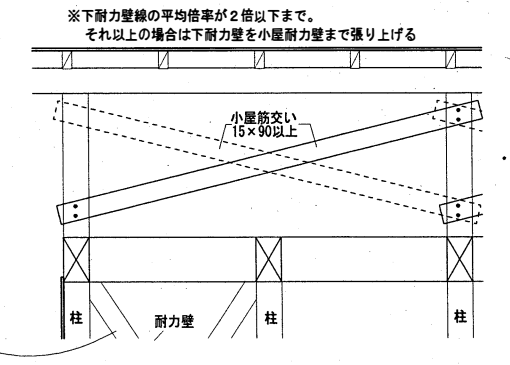
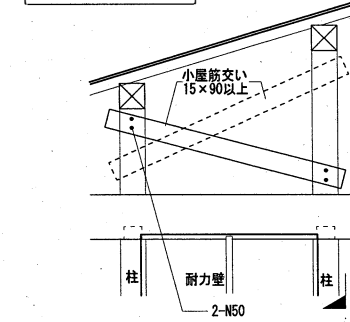


B: 中棧仕様

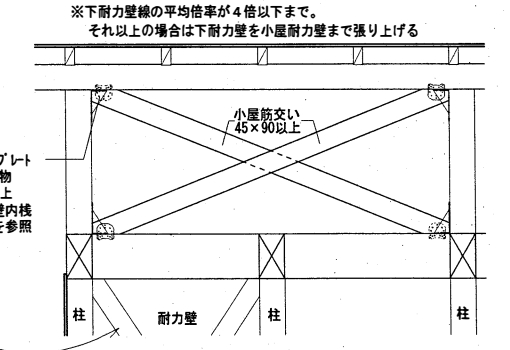
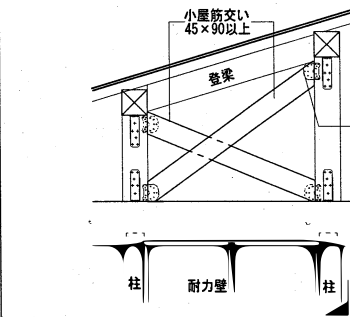


9. 小屋筋交い

A: 2倍耐力壁仕様

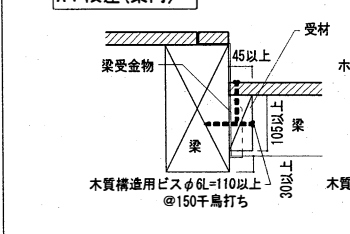


B: 4倍耐力壁仕様

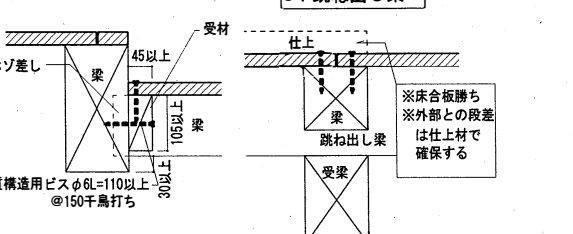


10. 段差

A: 段差(梁内)



B: 跳ね出し梁



平成30年4月5日改訂 一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会

発注者 新潟県 村上市

工事名称 道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事

図面番号 S-011

図面名称 木造軸組接合部標準図(3A)

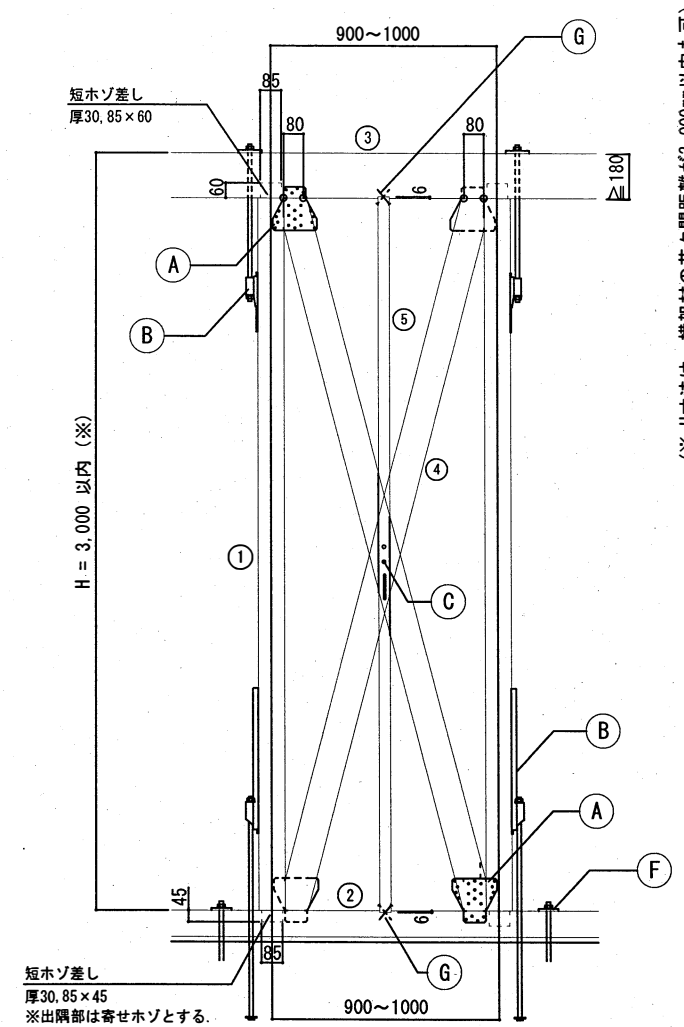
縮尺 A1: S=1/100 A3: S=1/200

機

木造軸組接合部標準図(3B)

1. 令46条に定められた仕様に準じ、かつ実験で性能が確認された筋かい耐力壁 (PWA 推奨仕様筋かい耐力壁)

A. 二つ割: 45×120の構造用製材の筋かいたすき掛け 壁倍率: 4.0



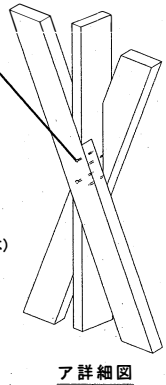
- 部材断面
- ① 柱: 105×105, または120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
 - ② 土台: 105×105, または120×120 ※ 樹種はスギ、スプルース等、比重の低いものを除く。
 - ③ 横架材: 梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上、かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
 - ④ 筋かい: 45×120以上

E70相当以上のヤング係数を有する材とすること。
※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、80mm程度とする。

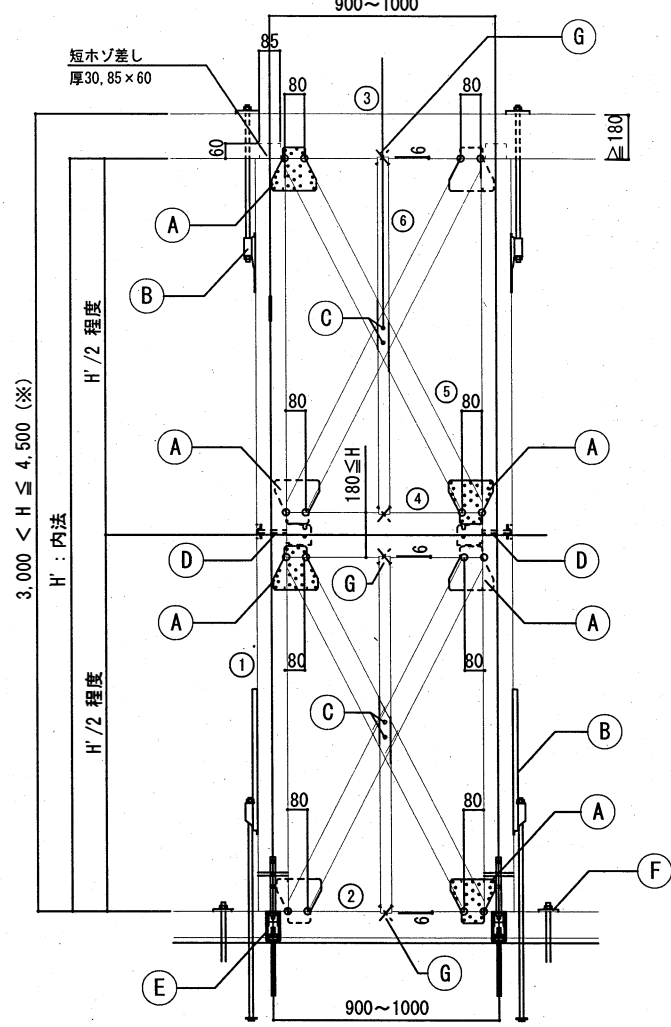
- ⑤ 間柱: 45×105, または45×120以上

金物例示仕様 木質構造用ねじφ6-L100 (片面2本×両面、計4本)

- ① 筋かい金物: 柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かい<ブレイン> (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、
ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
- ② 柱頭・柱脚金物: ※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
- ③ 筋かい-間柱接合: 木質構造用ねじφ6、L100 (片面2本×両面、計4本)
Xポイントビス_DXP6100 (若井産業)
パネリドII+P6×100II+(シネジック) (ア詳細図参照)
- ④ 土台固定用アンカーボルト: M12
- ⑤ 間柱端部接合 2-N75釘 ※ 斜め打ち



B. 二つ割: 45×90の構造用製材の筋かいたすき掛け 壁倍率: 4.0



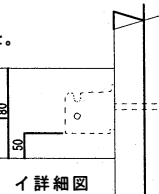
- 部材断面
- ① 柱: 120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
 - ② 土台: 120×120以上 ※ 樹種はスギ、スプルース等、比重の低いものを除く。
 - ③ 横架材: 梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上、かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
 - ④ 中間横架材: 梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上
 - ⑤ 筋かい: 45×90以上 ※ E70相当以上のヤング係数を有する材とすること。

※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、80mm程度とする。

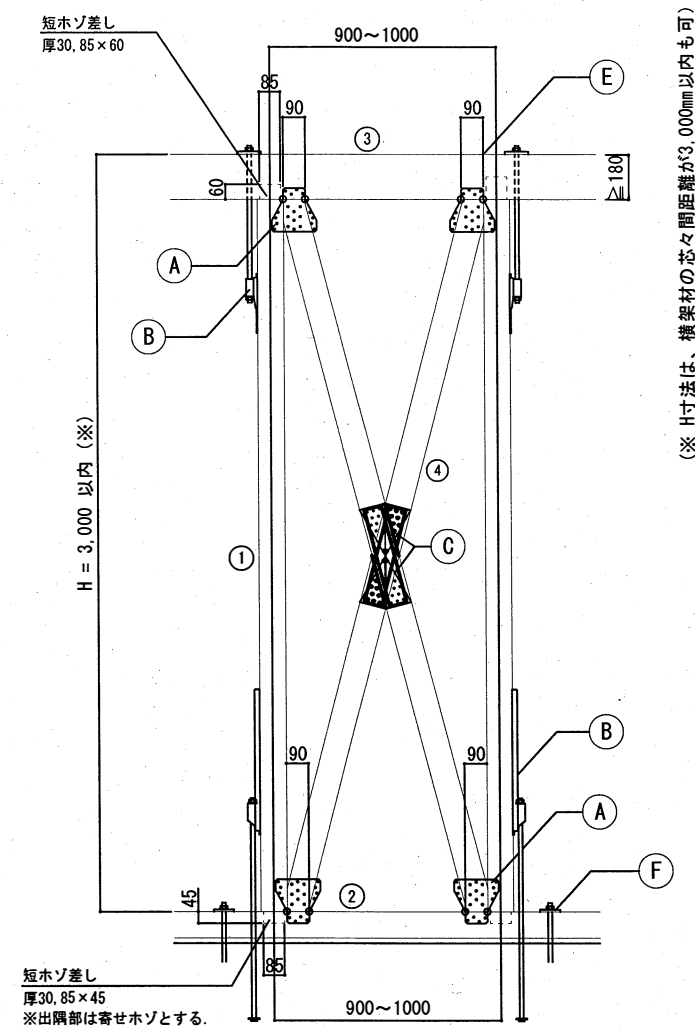
- ⑥ 間柱: 45×120以上

金物例示仕様

- ① 筋かい金物: 柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かい<ブレイン> (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
- ② 柱頭・柱脚金物: ※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
- ③ 筋かい-間柱接合: 木質構造用ねじφ6、L100 (片面2本×両面、計4本) (ア詳細図参照)
- ④ 中間横架材端部梁受け金物: 金物工法用梁受け金物 ※ h105用を梁せいの中心に取付 (イ詳細図参照)
TH-10 (タツミ)、PS-10SU (BXカネシン)、MH-90 (タナカ) 同等以上
(短期耐力: 引張8.0kN以上、せん断および逆せん断5.5kN以上)
- ⑤ 柱-基礎直結型柱脚金物: PS-OP_120角用 (BXカネシン)
- ⑥ 土台固定用アンカーボルト: M12
- ⑦ 間柱端部接合 2-N75釘 ※ 斜め打ち



C. 柱同寸: 柱と同等の構造用製材の筋かいたすき掛け 壁倍率: 5.0



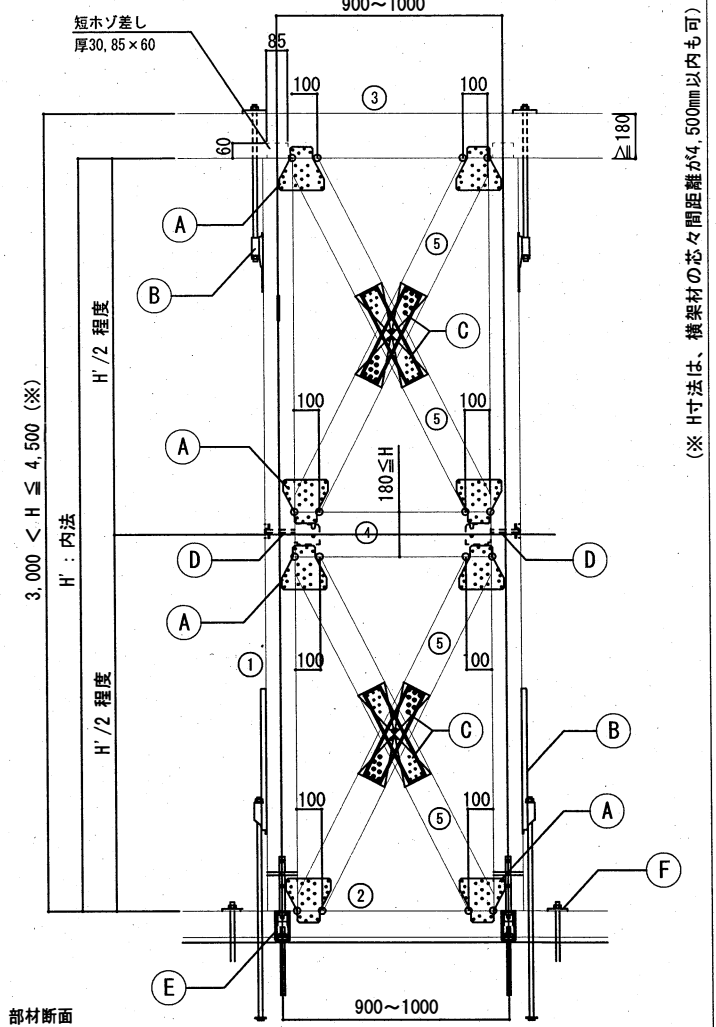
- 部材断面
- ① 柱: 105×105, または120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
 - ② 土台: 105×105, または120×120 ※ 樹種はスギ、スプルース等、比重の低いものを除く。
 - ③ 横架材: 梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上、かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
 - ④ 筋かい: 105×105, または120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する材とすること。

※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、90mm程度とする。

金物例示仕様 (※C、D、共通)

- ① 筋かい金物: 柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かい<ブレイン> (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
- ② 柱頭・柱脚金物: ※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
- ③ 筋かい交差部: 柱同寸筋かい交差部補強金物 (ウ詳細図参照)
PL-4.5x70x400 (使用鋼材: SS400) ビスφ6x75-18本/枚 ※ 両面張り
※ 補強金物の取付面は、筋かい全幅に9mm影込みとする。
※ 補強金物は、タナカまたはカネシンBXで製作可能。
- ④ 中間横架材端部梁受け金物: 金物工法用梁受け金物 ※ h105用を梁せいの中心に取付 (イ詳細図参照)
TH-10 (タツミ)、PS-10SU (BXカネシン)、MH-90 (タナカ) 同等以上
(短期耐力: 引張8.0kN以上、せん断および逆せん断5.5kN以上)
- ⑤ 柱-基礎直結型柱脚金物: PS-OP_120角用 (BXカネシン) ※ D に適用
- ⑥ 土台固定用アンカーボルト: M12

D. 柱同寸: 柱と同等の構造用製材の筋かいたすき掛け 壁倍率: 5.0

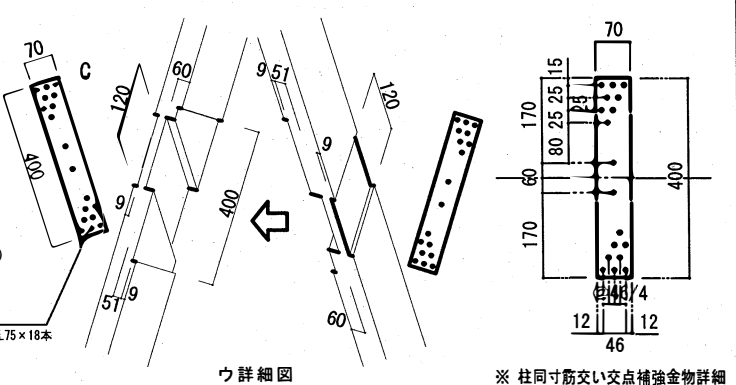


- 部材断面
- ① 柱: 120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する製材または集成材とすること。
 - ② 土台: 120×120以上 ※ 樹種はスギ、スプルース等、比重の低いものを除く。
 - ③ 横架材: 梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上、かつ地震時の応力負担が可能な断面寸法とする。
 - ④ 中間横架材: 梁幅、柱寸法と同等以上、梁せい180以上
 - ⑤ 筋かい: 120×120以上 ※ E65以上のヤング係数を有する材とすること。

※ 節・目切れの少ないものを用いること。
筋かい端部の横架材に対する胴付き面の見付幅は、100mm程度とする。

金物例示仕様 (※C、D、共通)

- ① 筋かい金物: 柱梁3点留めフラットタイプ
ヘキサプレートSD または 2倍筋かい<ブレイン> (タナカ)、
DP-2ジャステンプレート (BXカネシン)、ターミネーションプレート (カナイ) 同等以上
- ② 柱頭・柱脚金物: ※ 計算によって求めた必要な耐力を有すること。
- ③ 筋かい交差部: 柱同寸筋かい交差部補強金物 (ウ詳細図参照)
PL-4.5x70x400 (使用鋼材: SS400) ビスφ6x75-18本/枚 ※ 両面張り
※ 補強金物の取付面は、筋かい全幅に9mm影込みとする。
※ 補強金物は、タナカまたはカネシンBXで製作可能。
- ④ 中間横架材端部梁受け金物: 金物工法用梁受け金物 ※ h105用を梁せいの中心に取付 (イ詳細図参照)
TH-10 (タツミ)、PS-10SU (BXカネシン)、MH-90 (タナカ) 同等以上
(短期耐力: 引張8.0kN以上、せん断および逆せん断5.5kN以上)
- ⑤ 柱-基礎直結型柱脚金物: PS-OP_120角用 (BXカネシン) ※ D に適用
- ⑥ 土台固定用アンカーボルト: M12



令和元年9月1日発行 一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会

備考	発注者 新潟県 村上市	工事名称 道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事	図面番号 S-012
		図面名称 木造軸組接合部標準図(3B)	縮尺 A1: S=1/100 A3: S=1/200

木造軸組接合部標準図(4)

7. 水平構面

7.1 共通事項

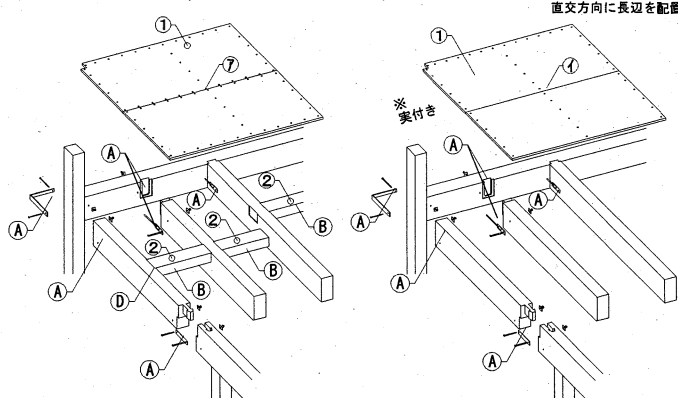
- 各部仕口形状は、(3)高耐力仕様屋根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。
- 木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年)の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- 指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に基づき準拠することとする。

7.2 水平構面の仕様

(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

(a) 日の字釘打ち
短期許容せん断耐力
7.84kN/m

(b) 川の字釘打ち
短期許容せん断耐力
3.53kN/m



1) 各材料および寸法

- ① 面材: 構造用合板 $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
- ② 甲乙梁: 幅45mm以上×せい45mm以上・梁及び甲乙梁の間隔1000mm以下

2) 各部仕口形状及び性能

- ③ 各仕口部分:
水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
- ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ N75 1本斜め打ち

⑦
④

組み等に注意する事

告示耐力壁-床納まり
大壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)

真壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)

筋違耐力壁-床構面
(筋勝)

認定仕様例示) 日合連 (JPMA) 仕様耐力壁-床納まり
大壁合板耐力壁-床勝
認定番号: FRM-0296

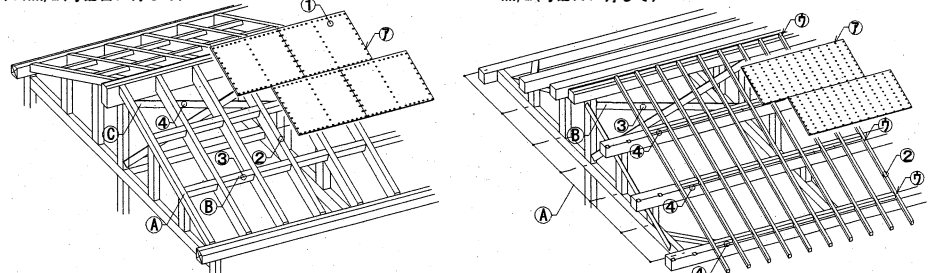
真壁合板耐力壁-床勝
認定番号: FRM-0298

筋違金物による床勝ち納まり
筋違耐力壁-床構面
(床勝: 大臣認定仕様)
会社名 ()
認定番号 ()

(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面

(a) 登梁-厚合板
短期許容せん断耐力
7.84kN/m (勾配面に対して)

(b) 垂木-合板
短期許容せん断耐力
1.96kN/m (勾配面に対して)



1) 各材料および寸法

- ① 面材: 構造用合板 $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
- ② 登梁: 幅105mm以上×せい105mm以上 間隔1000mm以下
- ③ 甲乙梁: 幅45mm以上×せい45mm以上 間隔1000mm以下
- ④ 小屋耐力壁: 15mm以上×90mm以上
(端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)

2) 各部仕口形状及び性能

- ⑤ 各仕口部分: 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑥ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑦ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁 (くも筋違い) を設ける事

⑦

1) 各材料および寸法

- ① 面材: 構造用合板 $t=9\text{mm} \sim 15\text{mm}$ (横置)
- ② 垂木: 幅45mm以上×せい45mm~90mm@500mm以下
- ③ 小屋耐力壁: 15mm以上×90mm以上
(端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)
- ④ 転び止め: 45mm×60mm程度

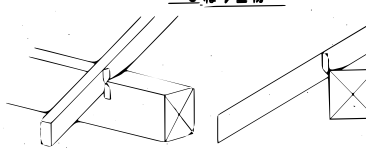
2) 各部仕口形状及び性能

- ⑤ 母屋ピッチ: 1000mm以下
- ⑥ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁 (くも筋違い) を設ける事

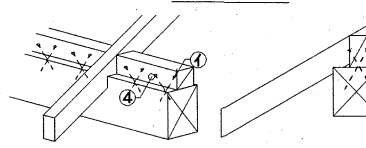
⑦
④
⑥

の上面に対してN75釘2本打ち

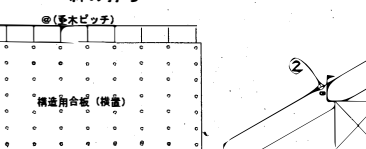
ひねり金物



転び止め



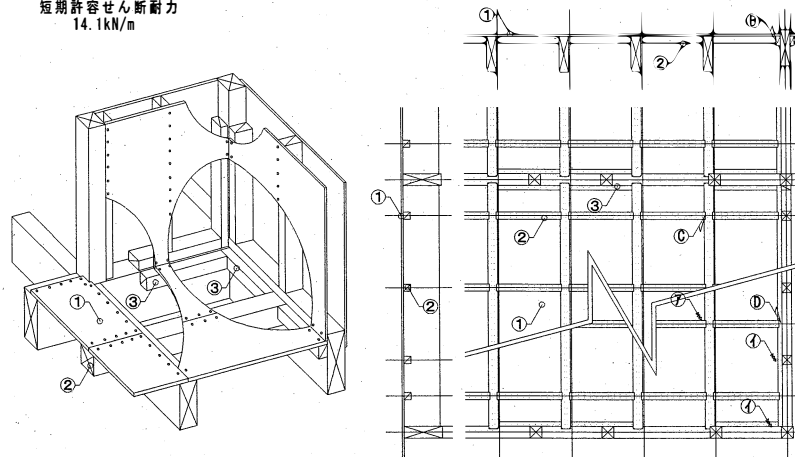
斜め打ち



a: 面材上下端まで10mm

7.3 JISA3301仕様高耐力水平構面

(1) 2階床水平構面の条件及び仕様
短期許容せん断耐力
14.1kN/m



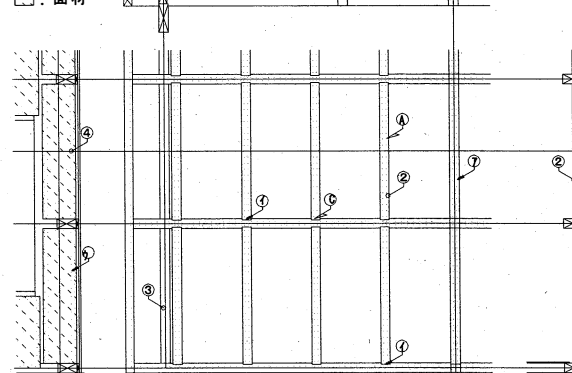
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

を150mmピッチの二列打ちとして留め付ける

(2) 屋根水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
13.5kN/m (合板釘ピッチ75mm)
19.1kN/m (合板釘ピッチ50mm)

面材



①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧

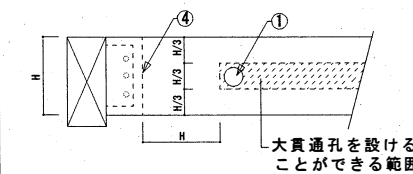
ねじ部長さ50以上) 1本を斜め打ちとする

千鳥打ちとして留め付ける

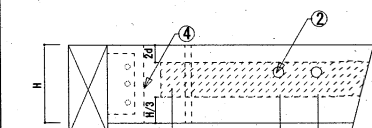
8. 貫通孔

8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

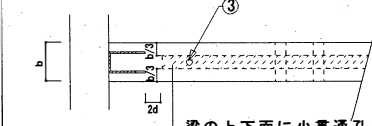
①
②
③
④



大貫通孔を設けることができる範囲



梁の側面に小貫通孔を設けることができる範囲

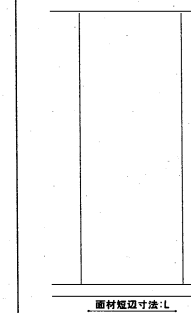


梁の上下面に小貫通孔を設けることができる範囲 (大貫通孔は不可)

8.2 耐力壁貫通孔

(1) 小開口付耐力壁: 木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)
※壁倍率7倍までの孔開けルール
剛性・耐力に影響しない面材耐力壁の小開口の設け方

面材厚: t



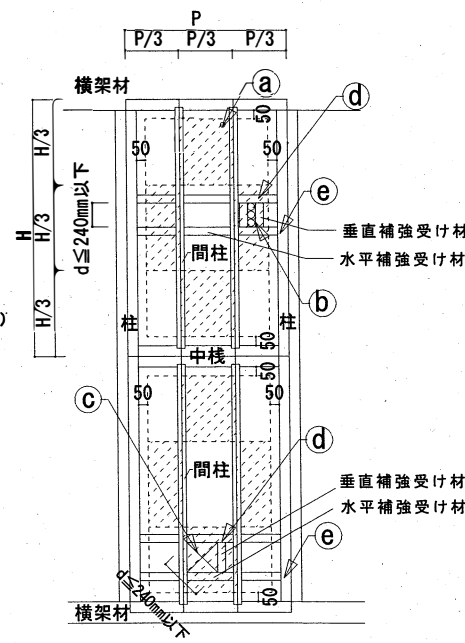
(2) 高耐力仕様合板貼耐力壁 (JISA3301標準仕様)
※壁倍率7倍を超える場合の孔開けルール (JISA3301仕様)

a) 貫通孔基準

- ① 小貫通孔 ($d \leq 30\text{mm}$)
1区画につき1か所までなら補強不要
- ② 小貫通孔 $\times 3$ (外接円の径 $d \leq 240\text{mm}$)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可
- ③ 大貫通孔 ($d \leq 240\text{mm}$)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可

b) 釘打ち及び断面

- ④ 合板から補強受材へN50@90mmで釘打ち
補強受材は間柱と寸法以上の断面
- ⑤ 補強受材の留め付けは斜めビス2本止め



令和2年 2月17日改訂 一般社団法人 中大規模木造プレカッタ技術協会

図面

発注者

新潟県 村上市

工事名称

道の駅「朝日」(地域振興施設)建築工事

図面番号

S-013

木造軸組接合部標準図(4)

縮尺
A1: S=1/100
A3: S=1/200

意 電

機

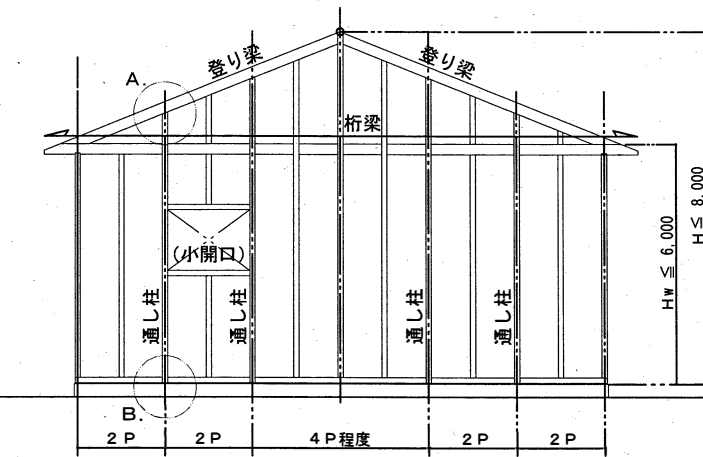
木造軸組接合部標準図(5)

10. 妻構面

平屋建物の妻構面の標準架構(耐風仕様)

(1) 共通事項及びキーフレーム

・無開口または小開口(開口幅 $\leq 2P$)有の場合



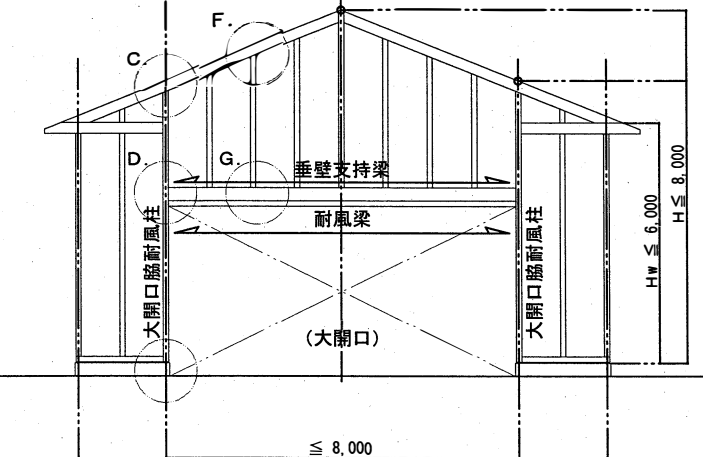
※1Pは柱・柱間の1モジュール寸法を示し、面材耐力壁に用いる構造用合板の1枚分の短辺幅を標準とする。

但し、面材耐力壁のとき、 $P \geq Hw/5.0$ (m)

筋交耐力壁のとき、 $P \geq Hw/3.5$ (m)

$Hw \leq 6.0$ (m)

・大開口(開口幅 $> 2P$)有の場合



・妻構面の耐風柱の最高高さは、基礎立上り天端から、8m以下を標準とする。

・妻構面の柱幅は120以上、柱成は以下の寸法以上とし、構造計算により安全であることを確認する。

柱長さ $L_c \leq 8,000$ (mm) ; 柱せい $D_c \geq 210$ (mm)

$\leq 7,000$ (mm) ; ≥ 180 (mm)

$\leq 6,000$ (mm) ; ≥ 150 (mm)

$\leq 5,000$ (mm) ; ≥ 120 (mm)

・妻構面の柱は2Pごとに、基礎から登り梁までの通し柱とする。但し、棟を挟んで4P程度の範囲は、1Pごとに通し柱とする。

・妻構面に設けた小開口(幅2P以内)の両脇の柱は、登り梁下端まで通し柱とする。

・妻構面に設けた大開口(幅2P超)の長さは、8m以下を標準とする。

・妻構面に設けた大開口の両脇には大開口耐風柱を、上部には耐風梁を設ける。

また、垂壁支持梁を耐風梁の上部に設け、耐風梁と構造用ビスにて緊結する。

・大開口耐風柱は平角柱として、風圧力による面外方向の曲げ応力に対して、安全であるものとし、構造計算によって求めた断面寸法、樹種、強度等級とする。

・耐風梁は平角材を平使いで用い、風圧力による面外方向の曲げ応力に対して安全であるものとし、構造計算によって求めた断面寸法、樹種、強度等級とする。

但し、計算上、垂壁支持梁の断面性能のみでも長期鉛直荷重と風荷重の両方を負担できる場合は、耐風梁を設けなくてもよい。

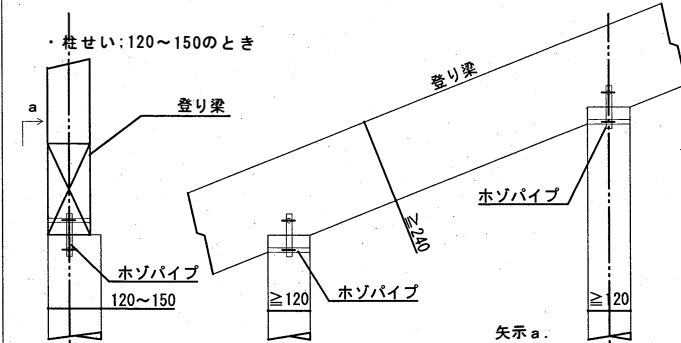
・垂壁支持梁および耐風梁は、両大開口耐風柱の間に1本の通し材を用いなければならない。途中に継手を設けることは、絶対に行ってはならない。

・母屋は登り梁を欠き込み、勝たせううで、けらば側に片持ち梁としてはね出すことができる。

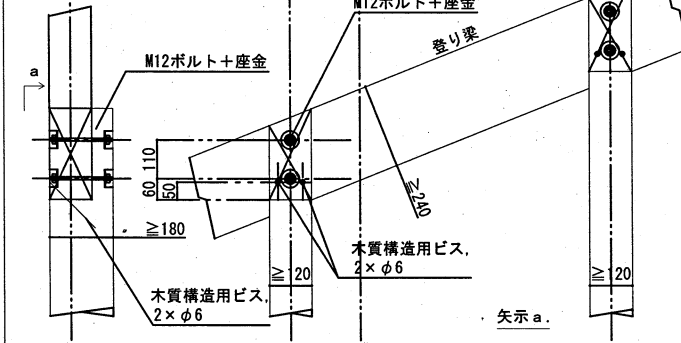
(2) 継手仕口

・一般部

A. 登り梁-柱頭_接合部



・柱せい ≥ 180 のとき



B. 土台-柱脚_接合部

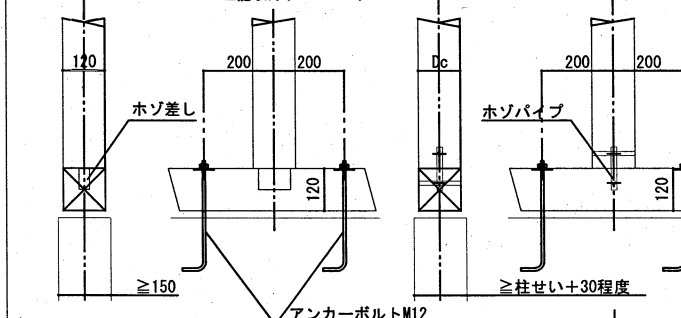
※土台の幅は、柱幅以上とすること。

※アンカーボルトを柱の両脇200mmの位置に設けること。

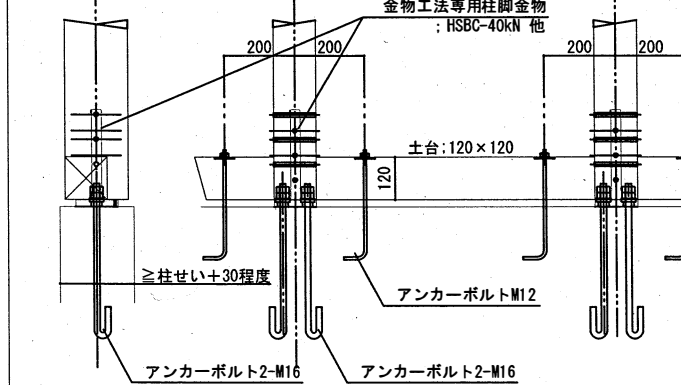
※柱間隔が1Pを超える場合、面外風圧力による負担せん断力を計算の上、決定すること。

・土台勝ち: ホソ差しの場合

※ホソの種類: ☐ 短ホソ ☐ 長ホソ ☐ 左記以外

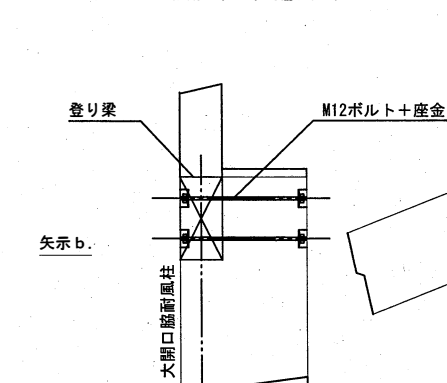


・柱勝ちの場合

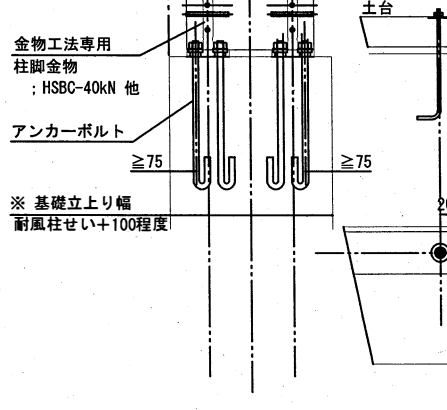
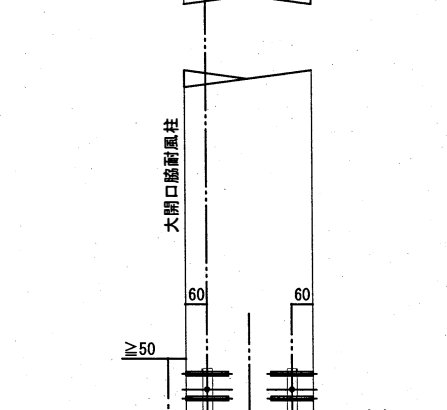
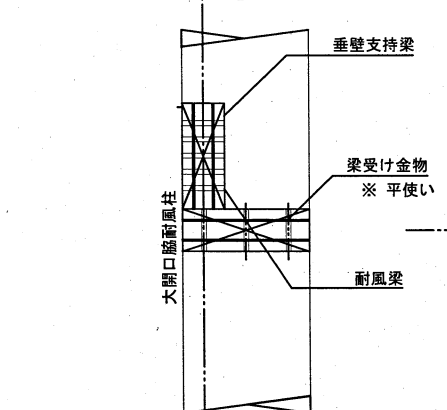


・大開口周辺部

C. 登り梁-大開口耐風柱_柱頭_接合部

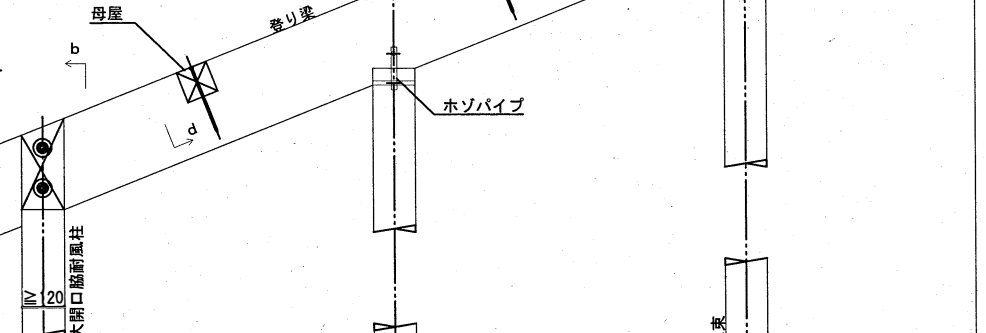


D. 耐風梁-大開口耐風柱_接合部



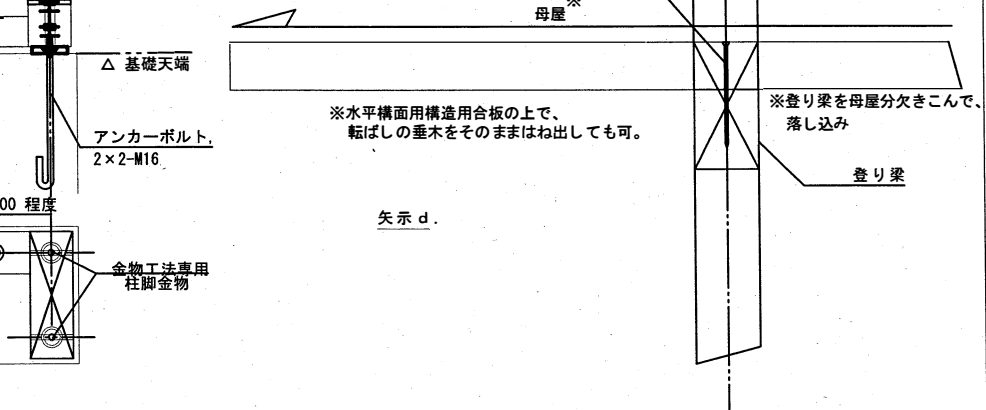
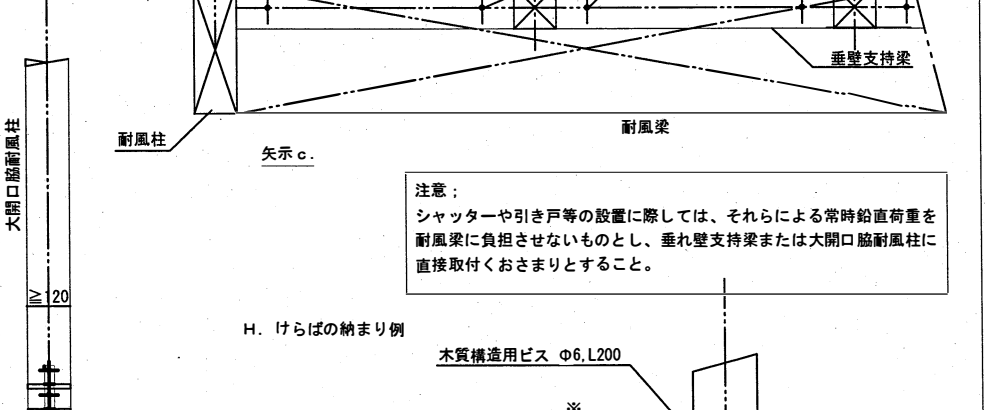
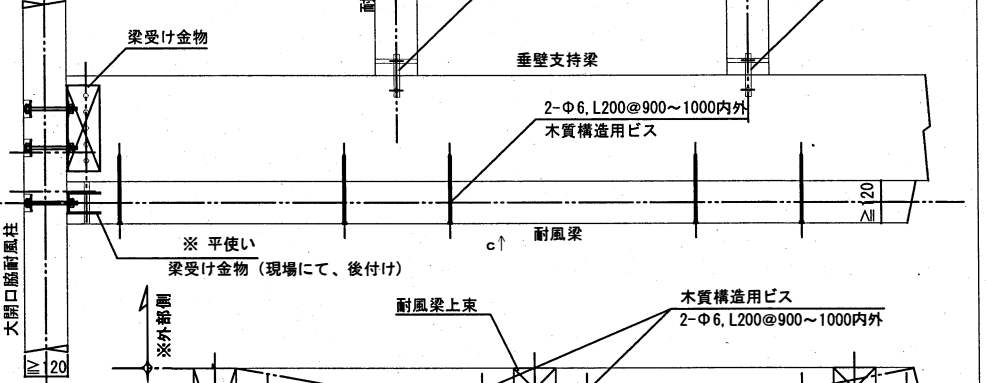
F. 登り梁-耐風梁上束_接合部

※登り梁を欠き込んだ上で、落込み。



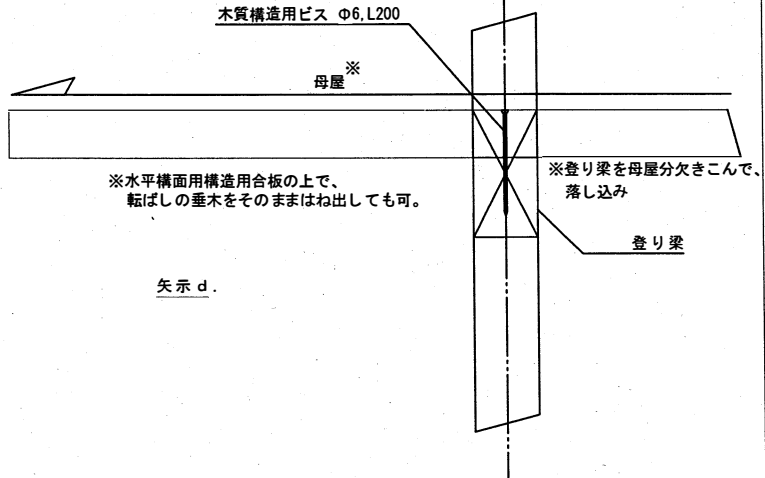
G. 耐風梁-耐風梁上束_接合部

および、耐風梁-垂壁支持梁_接合部



注意:
シャッターや引き戸等の設置に際しては、それらによる常時鉛直荷重を耐風梁に負担させないものとし、垂壁支持梁または大開口耐風柱に直接取付くこととする。

H. けらばの納まり例



平成30年4月5日改訂 一般社団法人 中大規模木造プレカット技術協会

発注者

新潟県 村上市

工事名称

道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事

図面番号

S-014

図面名称

木造軸組接合部標準図(5)

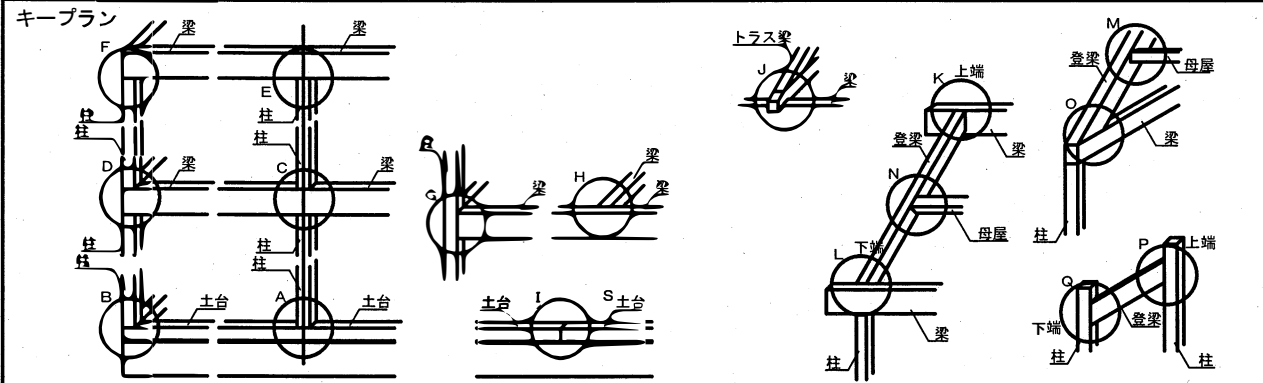
縮尺

A1: S=1/100
A3: S=1/200

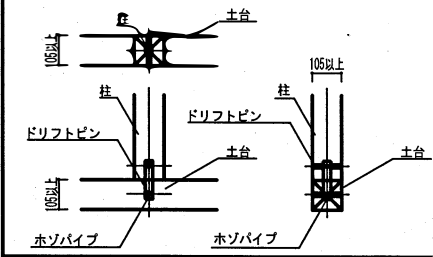
電

機

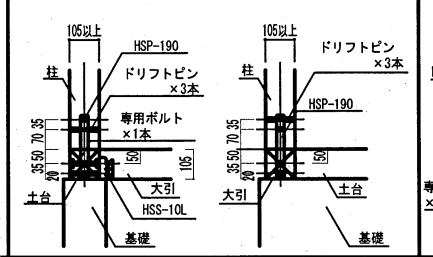
木造軸組接合部標準図 1 金物工法 Node.HSS (ストローグ) (1)



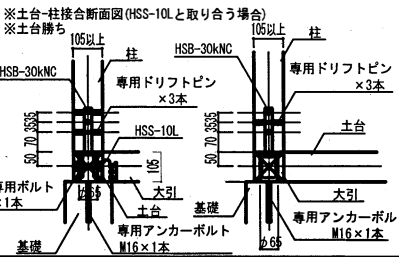
A: 柱脚-土台_中間柱 (HSP-100L)



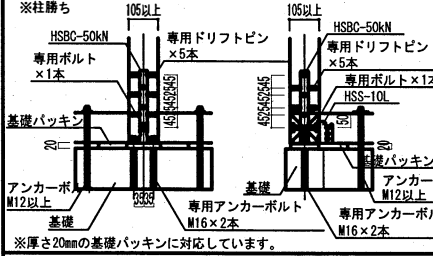
B: 柱脚-土台_隅柱 (HSP-190)



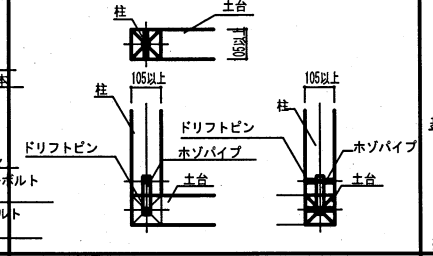
A, B: アンカーボルト直結_柱脚 (HSB-30kNC)



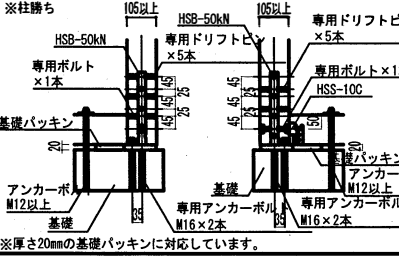
A: アンカーボルト直結_柱脚 (HSBC-50kN)



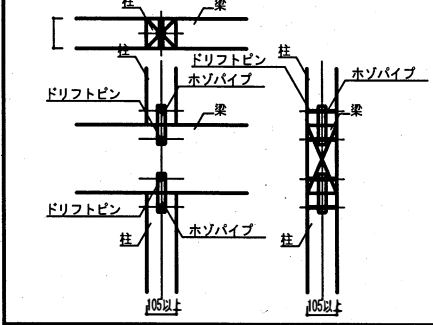
B: 柱脚-土台_隅柱 (HSP-100L)



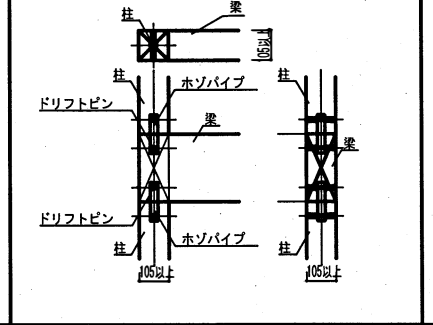
B: アンカーボルト直結_柱脚 (HSB-50kN)



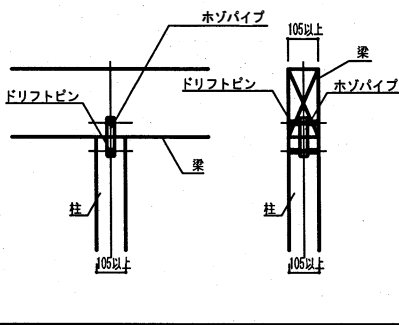
C: 柱頭-梁_柱脚_中間柱



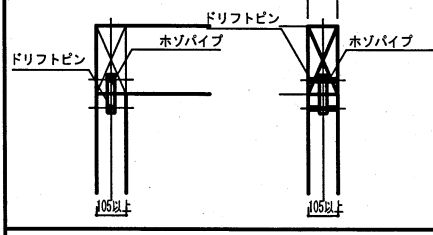
D: 柱頭-梁_柱脚_隅柱



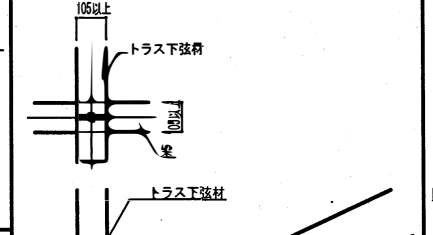
E: 柱頭-梁_中間柱



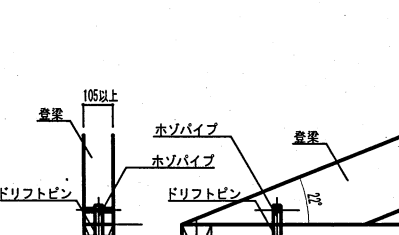
F: 柱頭-梁_隅柱



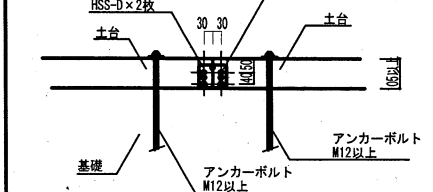
J: トラス-梁_仕口



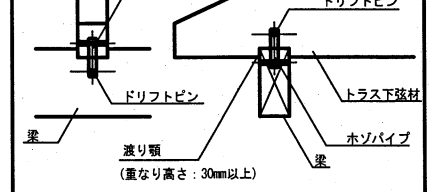
O: 梁-登梁_受け梁平行_合掌仕口



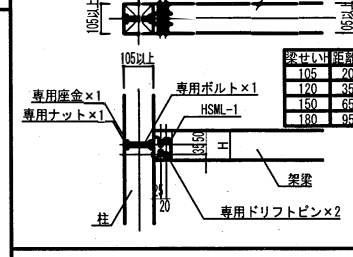
I: 土台継手



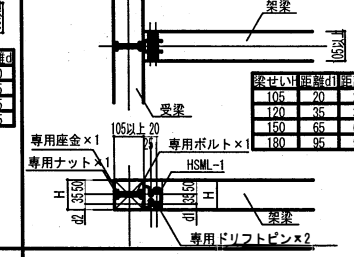
K: 登梁-母屋_母屋_※水平



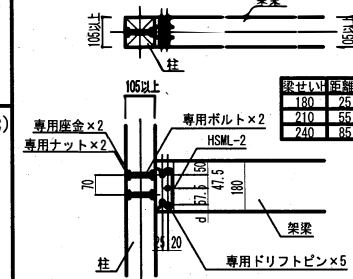
G: 通柱-胴差_仕口 (梁背105~180mm)



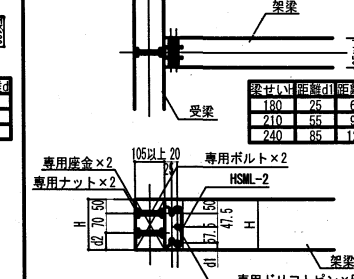
H: 梁-小梁_仕口 (梁背105~180mm)



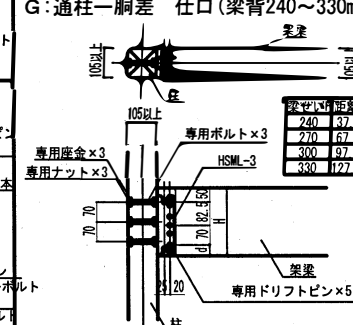
G: 通柱-胴差_仕口 (梁背180~240mm)



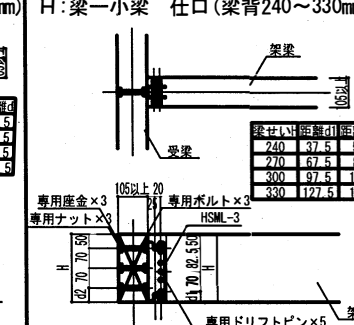
H: 梁-小梁_仕口 (梁背180~240mm)



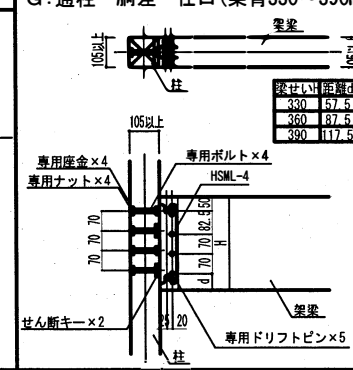
G: 通柱-胴差_仕口 (梁背240~330mm)



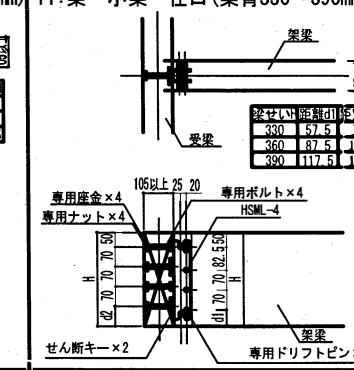
H: 梁-小梁_仕口 (梁背240~330mm)



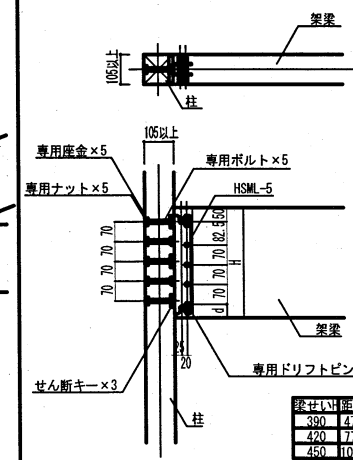
G: 通柱-胴差_仕口 (梁背330~390mm)



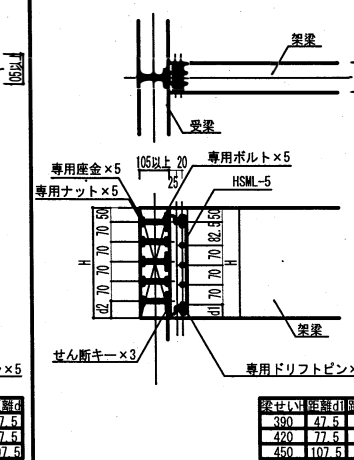
H: 梁-小梁_仕口 (梁背330~390mm)



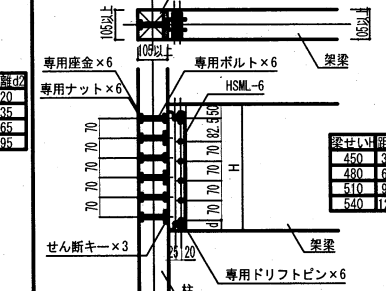
G: 通柱-胴差_仕口 (梁背390~450mm)



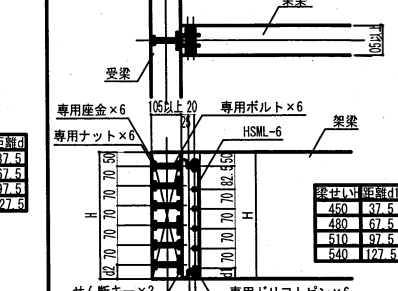
H: 梁-小梁_仕口 (梁背390~450mm)



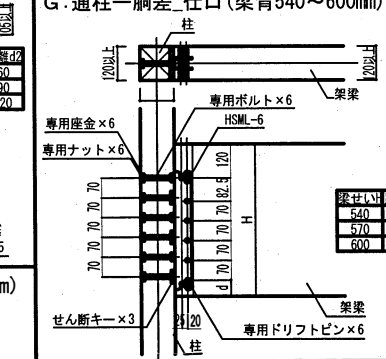
G: 通柱-胴差_仕口 (梁背450~540mm)



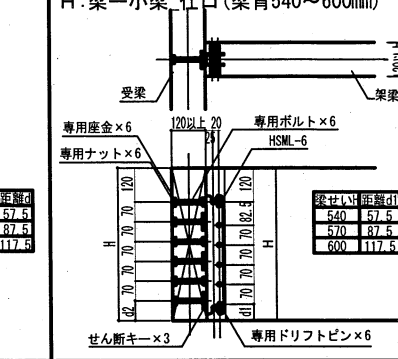
H: 梁-小梁_仕口 (梁背450~540mm)



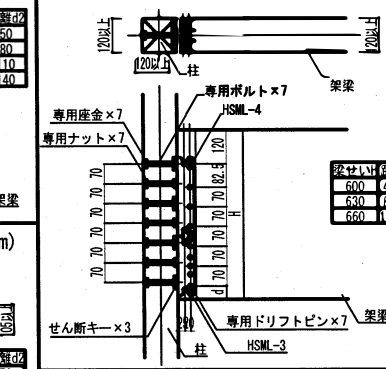
G: 通柱-胴差_仕口 (梁背540~600mm)



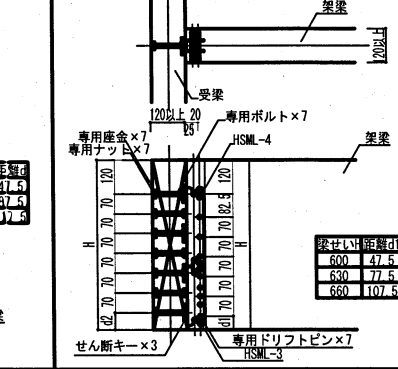
H: 梁-小梁_仕口 (梁背540~600mm)



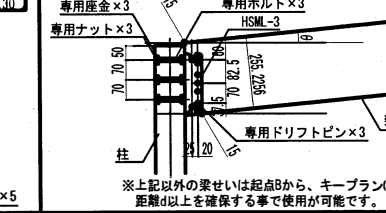
G: 通柱-胴差_仕口 (梁背600~660mm)



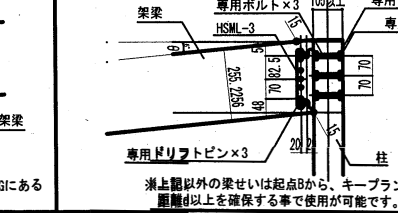
H: 梁-小梁_仕口 (梁背600~660mm)



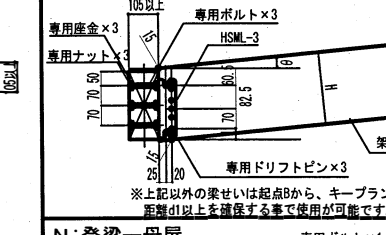
Q: 柱-登梁_胴差仕口 (下端)



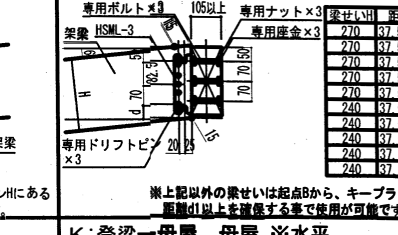
P: 柱-登梁_胴差仕口 (上端)



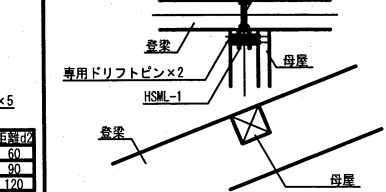
L: 梁-登梁_受梁直交_仕口 (下端)



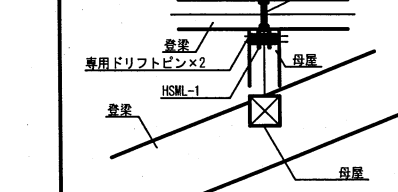
M: 梁-登梁_受梁直交_仕口 (上端)



N: 登梁-母屋

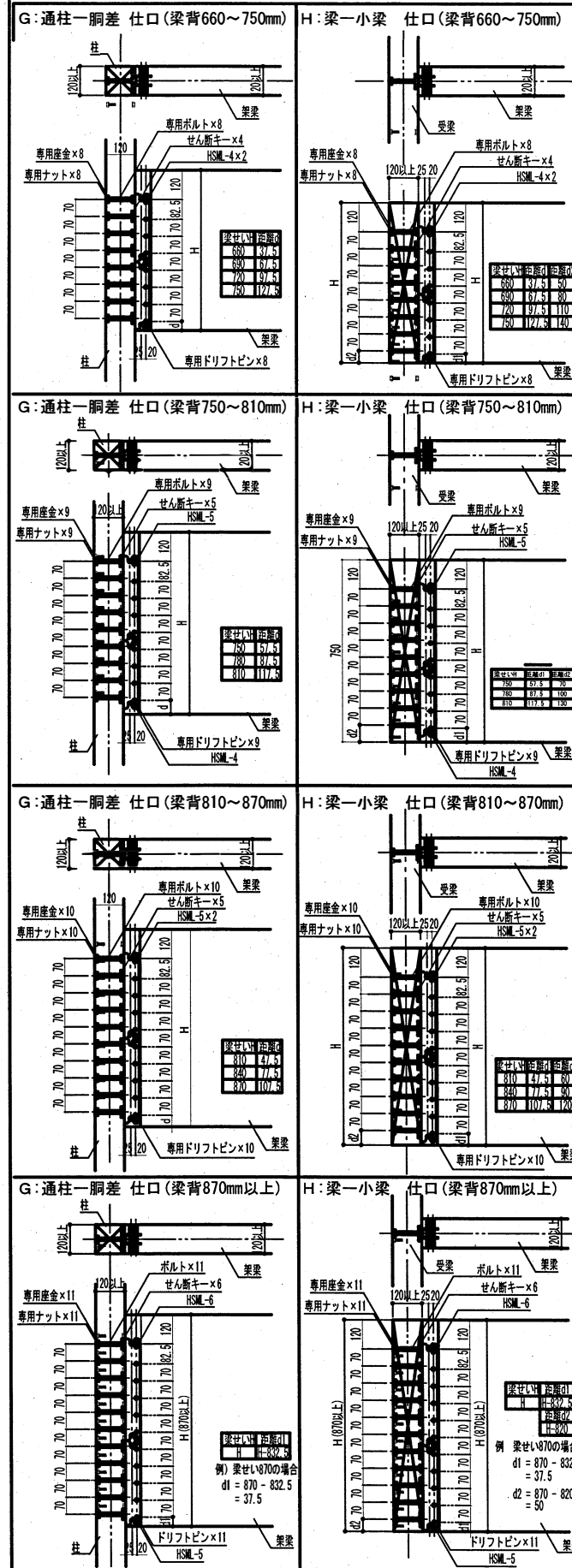


K: 登梁-母屋_母屋_※水平



平成29年5月15日発行 一般社団法人 中大規模プレカット技術協会

木造軸組接合部標準図2 金物工法 Node.HSS (ストローグ) (2) ■: 採用 □: 不採用



接合具	
種類・記号	形状
□HSML-1	
□HSML-2	
□HSML-3	
□HSML-4	
□HSML-5	
□HSML-6	
□HSS-D	
□HSB-30kNC	
□HSB-50kN	
□HSP-100L	
□HSP-100R	
□HSP-190	
□HSP-20kN	
□HSPT-20kN	
□HSDシリーズ(ドリフトピン)	
□HSFシリーズ(ボルト)	
□ZK-28×2.3 (専用座金)	
□フランジナイルンナット	
□せん断キー	
HSML-R60 (横架材用)	
HSML-S105 (柱用)	
HSML-S120 (柱用)	

アンカーボルト取り付け

①HSP-100L・R

②HSP-190

③HSB-30kNC

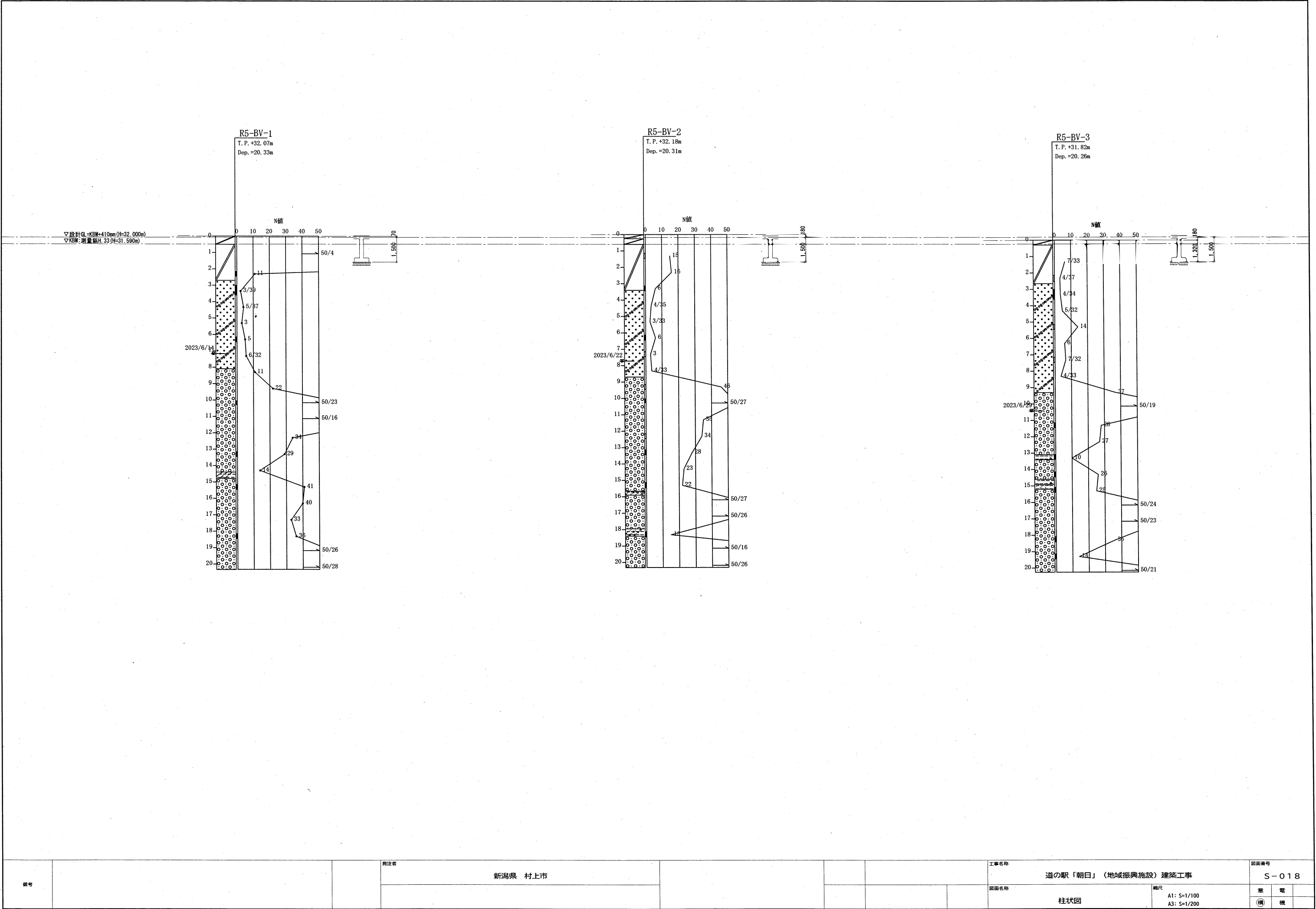
④HSB-50kN

ストローグ柱頭柱脚コネクタ (柱: E95-F315, 梁: E105-F300)

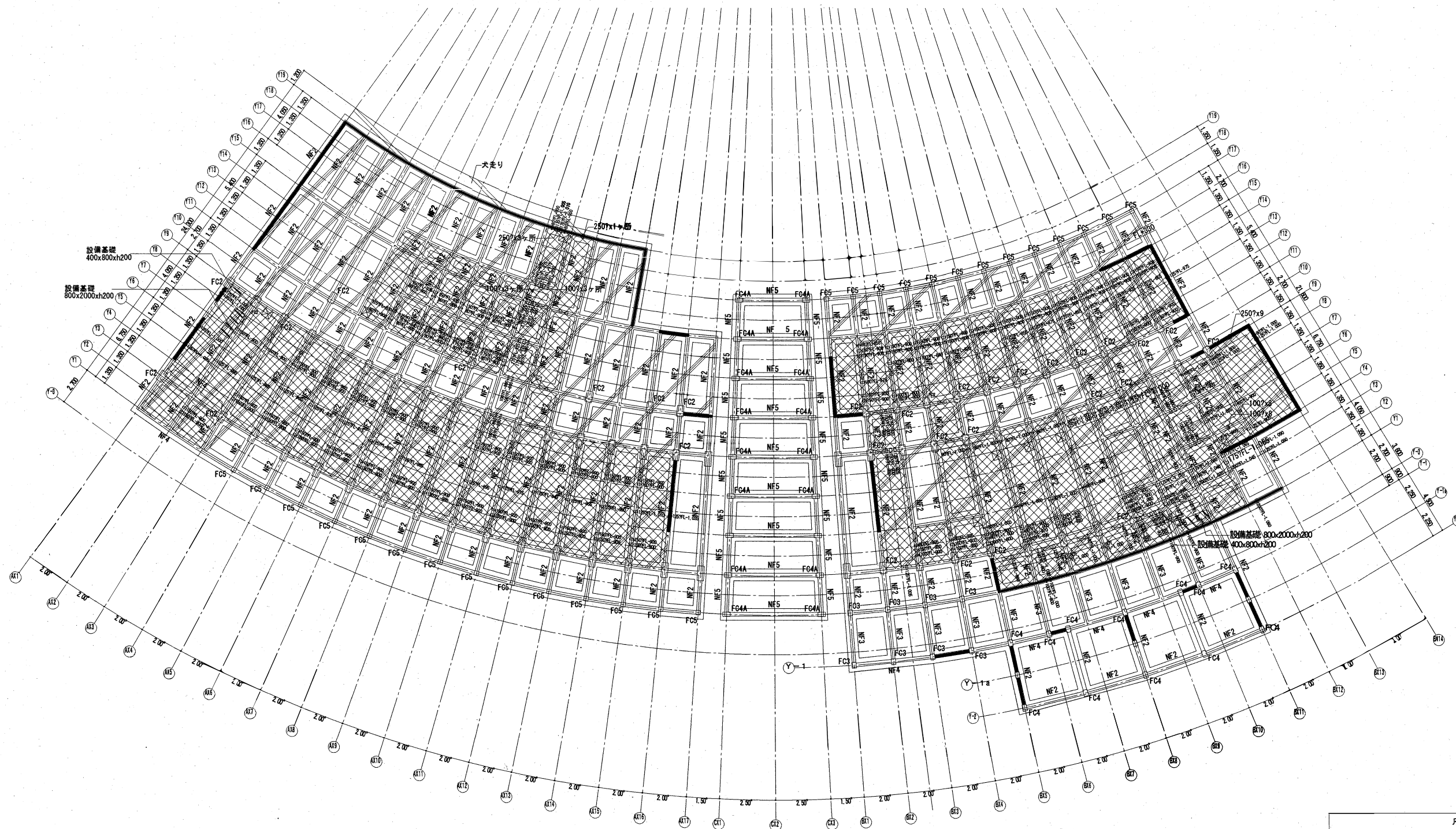
	HSP-100	HSP-190	HSP-20kN	HSPT-20kN
短期基準引張耐力 [kN]	(中柱型) 10.44 (隅柱型) 6.79	(中柱型) 21.57 (隅柱型) 14.29	(接合A) 22.56 (接合B) 25.80	21.64
短期基準剪断耐力 [kN]	(中柱型) 5.92 (隅柱型) 5.92	(中柱型) 8.70 (隅柱型) 8.70	(柱一梁) 13.65 (梁一梁) 13.65	13.65
	HSB-30kNC	HSB-50kN	備考	
短期基準引張耐力 [kN]	34.44	54.97	※集成材 (E65-F225)、スギ製材 (E50)、LVL (60E-225F) の耐力表は以下連絡先よりお問い合わせください。 http://www.stroog.com tel:076-471-2021	
短期基準剪断耐力 [kN]	13.39	22.03		

接合部耐力				
ストローグ梁受コネクタ (柱: E65-F255, 梁: E65-F225)				
	HSML-1	HSML-2	HSML-3	HSML-4
(対応材幅105mm以上)				
短期基準剪断耐力 [kN]	(柱一梁) 12.94 (梁一梁) 6.76	(柱一梁) 22.22 (梁一梁) 21.97	(柱一梁) 28.35 (梁一梁) 33.20	(柱一梁) 55.07 (梁一梁) 49.40
短期基準逆剪断耐力 [kN]	(柱一梁) 3.83 (梁一梁) 5.45	(柱一梁) 15.28 (梁一梁) 16.74	(柱一梁) 25.25 (梁一梁) 26.77	(柱一梁) 38.36 (梁一梁) 39.53
短期基準引張耐力 [kN]	(柱一梁) 4.50 (梁一梁) 4.12	(柱一梁) 11.06 (梁一梁) 11.09	(柱一梁) 7.50 (梁一梁) 17.25	(柱一梁) 20.50 (梁一梁) 28.25
(対応材幅105mm以上)				
短期基準剪断耐力 [kN]	(柱一梁) 46.59 (梁一梁) 54.30	(柱一梁) 64.76 (梁一梁) 74.36	(柱一梁) 67.80 (梁一梁) 69.43	(柱一梁) 69.00 (梁一梁) 92.57
短期基準逆剪断耐力 [kN]	(柱一梁) 40.13 (梁一梁) 42.80	(柱一梁) 58.50 (梁一梁) 68.17	(柱一梁) 58.50※ (梁一梁) 68.17※	(柱一梁) 80.73 (梁一梁) 92.48
短期基準引張耐力 [kN]	(柱一梁) 30.45 (梁一梁) 27.56	(柱一梁) 29.65 (梁一梁) 34.21	(柱一梁) 29.65※ (梁一梁) 34.21※	(柱一梁) 37.11 (梁一梁) 41.26
(対応材幅120mm以上)				
短期基準剪断耐力 [kN]	(柱一梁) 78.34 (梁一梁) 94.60	(柱一梁) 93.69 (梁一梁) 108.47	(柱一梁) 107.22 (梁一梁) 120.33	(柱一梁) 121.67 (梁一梁) 115.61
短期基準逆剪断耐力 [kN]	(柱一梁) 80.73※ (梁一梁) 92.48※	(柱一梁) 96.45 (梁一梁) 121.90	(柱一梁) 96.45※ (梁一梁) 121.90※	(柱一梁) 122.56 (梁一梁) 113.02
短期基準引張耐力 [kN]	(柱一梁) 37.11※ (梁一梁) 41.26※	(柱一梁) 37.97 (梁一梁) 55.99	(柱一梁) 37.97※ (梁一梁) 55.99※	(柱一梁) 28.10 (梁一梁) 66.98
備考	※下位サイズの試験データを流用しています。 ※上記耐力表の数値は、柱: スギ集成材 (E65-F255)、梁: スギ集成材 (E65-F225) で試験したものと、これらより強度区分の高い集成材が使用可能となります。			

平成29年5月15日発行 一般社団法人 中規模プレカット技術協会



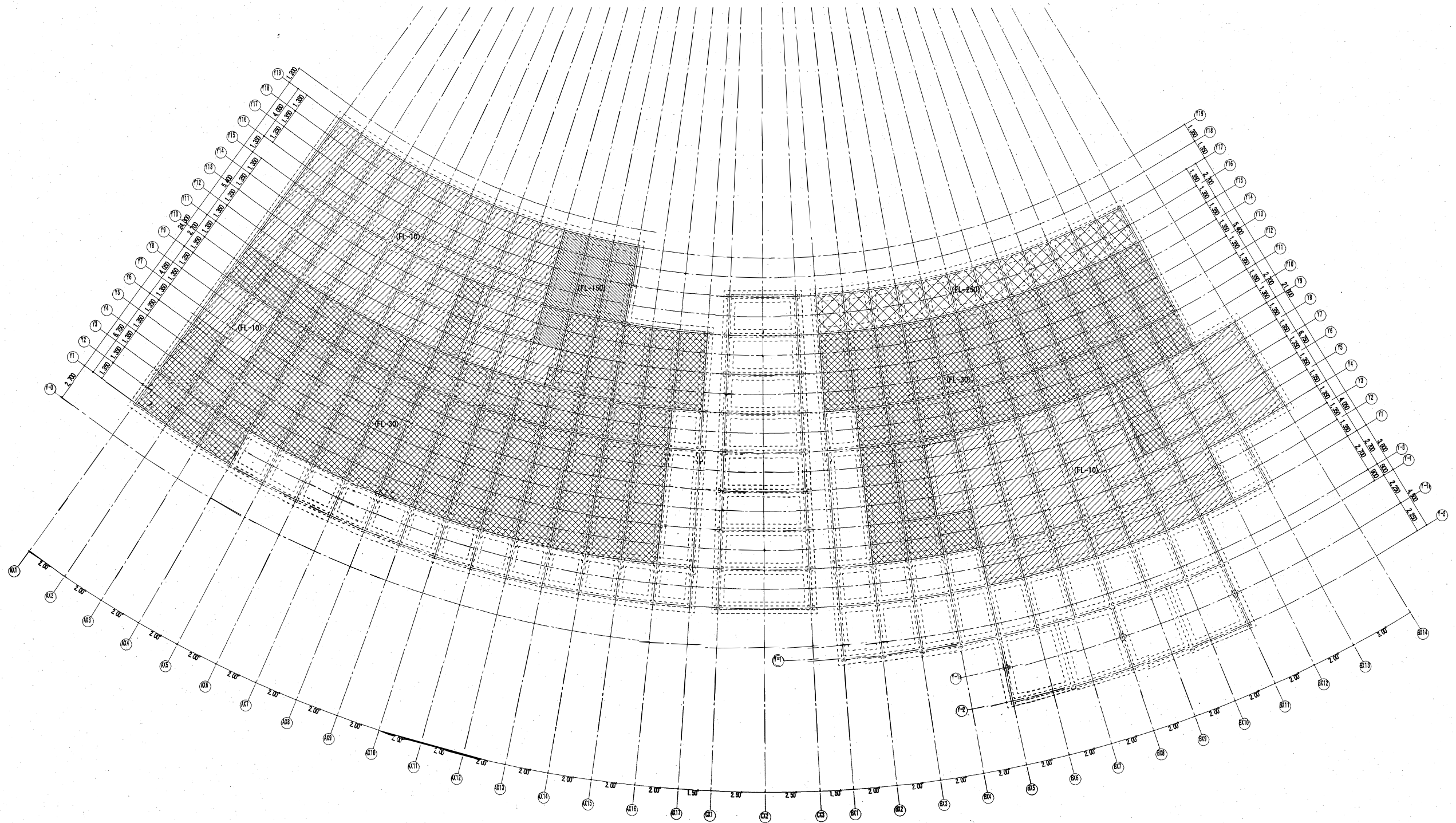
備考			発注者	新潟県 村上市				工事名称	道の駅「朝日」（地域振興施設）建築工事		図面番号	
			図面名称					縮尺	S-018			
								柱状図	A1: S=1/100 A3: S=1/200	意 機	電 機	



使用材料	
1. コンクリート設計強度	FC21
2. 使用鉄筋	SD295A (D10, D13, D16)
	SD345 (D19以上)

特記事項	
特記無き基礎はNF1とする。	
基礎下地GL-1.350	
特記無き基礎柱はFC1とする。	

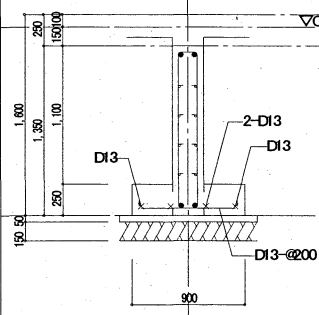
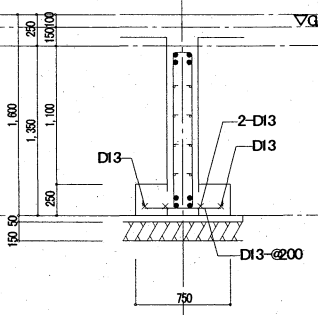
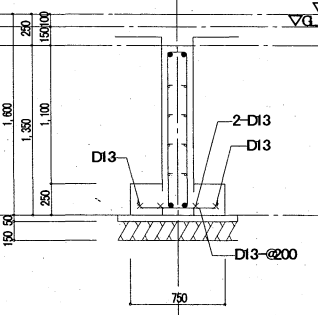
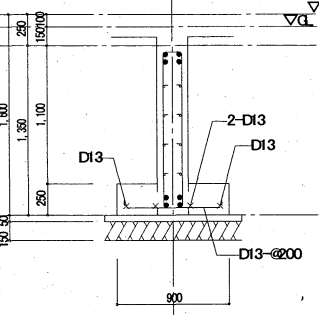
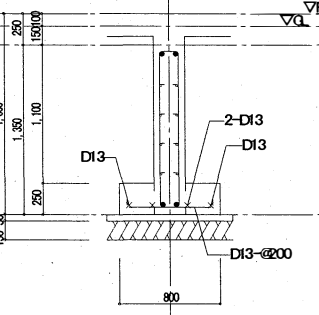
凡例	
	床下点検口600口
	スラブ: FS1
	ピット範囲を示す
	土間コンクリート
	布壁 H=FL+1.000
	人通り 600?
	床点検口 600x600
	機械設備用スリーブ (80?~200?)
	電気設備用スリーブ (100?~250?)



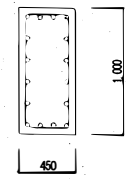
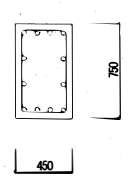
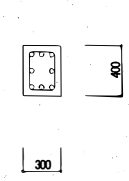
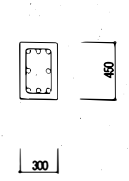
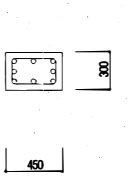
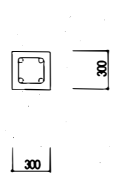
凡例	
	土間スラブレベル : FL-30
	土間スラブレベル : FL-10
	土間スラブレベル : FL-150
	土間スラブレベル : FL-250

備考		発注者 新潟県 村上市			工事名称 道の駅 朝日 (地域振興施設) 建築工事	図面番号 S-019A
					図面名称 土間スラブレベル図	縮尺 A: S-1/150 A3: S-1/300
						意 電 (機) 機

布基礎断面リ スト S=1/30

符 号	NF1	NF2	NF3	NF4	NF5
位 置					
断 面					
b x d	250 x 1,350	250 x 1,350	250 x 1,350	250 x 1,350	250 x 1,350
主 筋	上端筋 2-D19 下端筋 2-D19	4-D19	2-D19 4-D19	4-D19	2-D19
スターラップ	2-D10-φ200	2-D10-φ200	2-D10-φ200	2-D10-φ200	2-D10-φ200
腹筋	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10
幅止め筋	D10-φ1,000	D10-φ1,000	D10-φ1,000	D10-φ1,000	D10-φ1,000
備 考					

基礎柱型断面リ スト S=1/30 ※主筋は四隅7ヶ付とする。

符 号	FC1	FC2	FC3	FC4	FC4 A	FC5
断 面						
B x D	450 x 1,000	450 x 750	300 x 400	300 x 450	450 x 300	300 x 300
主 筋	16-D19	12-D19	8-D19	8-D19	4-D19	4-D19
HOOP	□-D13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100	□-D13-φ100
TOP HOOP	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13
備 考						

スラブ配筋リ ス ト				短辺方 向 (主筋)						長辺方 向 (配力筋)						備 考
符 号	版 厚	支持状態	層	中 央 部			両 端 部			中 央 部			両 端 部			
				端 部 (A)		中 央 (B)	全 域 (C) (D)		端 部 (E)	中 央 (B)	全 域 (A) (C)	端 部 (E)		中 央 (B)	全 域 (A) (C)	
				上	D13	-φ200	D13	-φ200	D13	-φ200	D13	-φ200	D13	-φ200	D13	
FS1	180	4 辺固 定	上													
			下													
			上													
			下													
			上													
			下													

Ⓒ

Ⓐ

Ⓒ

Ⓓ

Ⓑ

Ⓓ

Ⓒ

Ⓐ

Ⓒ

Lx

4

Ly (短辺)

Lx

4

Ly (長辺)

スラブ配筋区 分図

埋戻し部分については根切土 (良質) 又は山砂等を使用し、
埋戻す場合は300mm以内、壁際・基礎際・基礎梁際は200mm
以内毎に、十分転圧を行うこと。

スラブ段差処理

端 部

D13

L1

L2

20

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

D

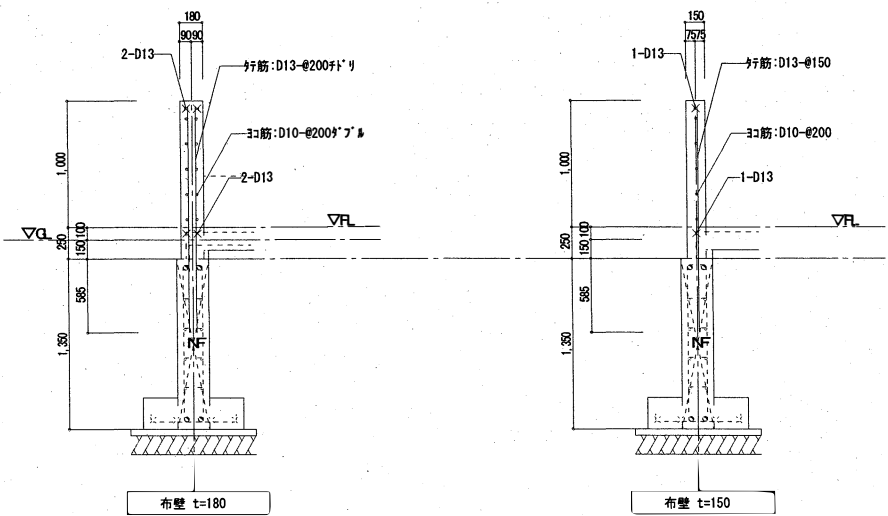
D

D

D

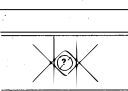

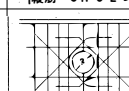
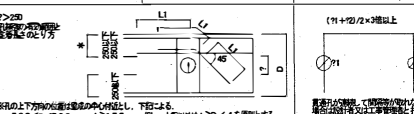
D

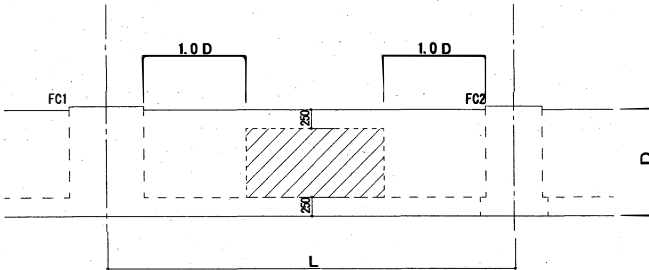
D



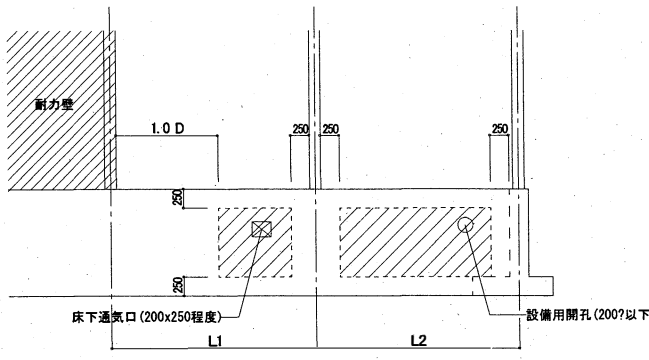
基礎梁布壁配筋詳 細図 S=1/30

梁貫通補強鉄筋標準配筋 (既製品を使用する場合は、設計者及び監督員と打ち合わせを監督員の承認を得ること)

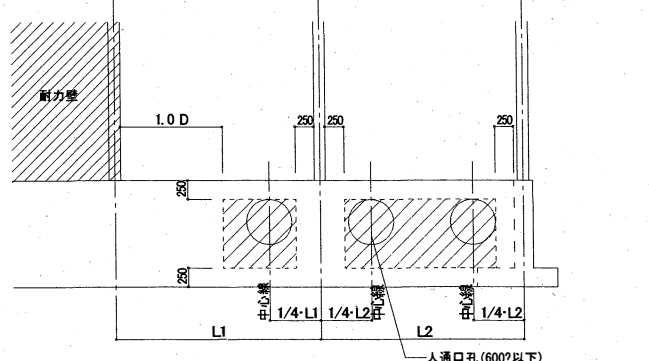
80<?≤100	100<?≤150	150>?>250
折筋 2-(2-D13) 縦筋 STP 2-D13-100φ	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 STP 2-2-D13 横筋 2-(2-D13) 縦筋 STP 2-2-D13	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 STP 2-2-D13 横筋 4-(2-D13) 縦筋 STP 3-2-D13
		
		



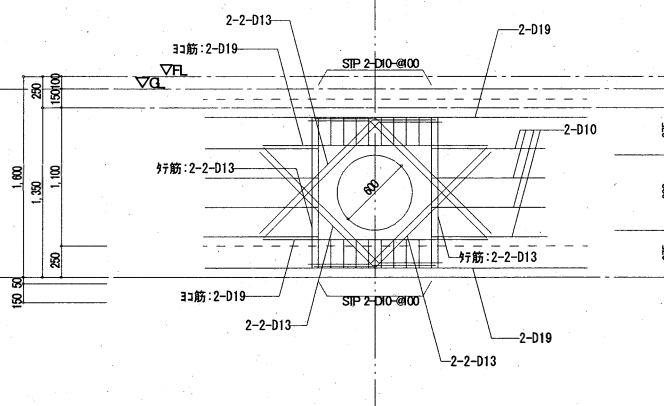
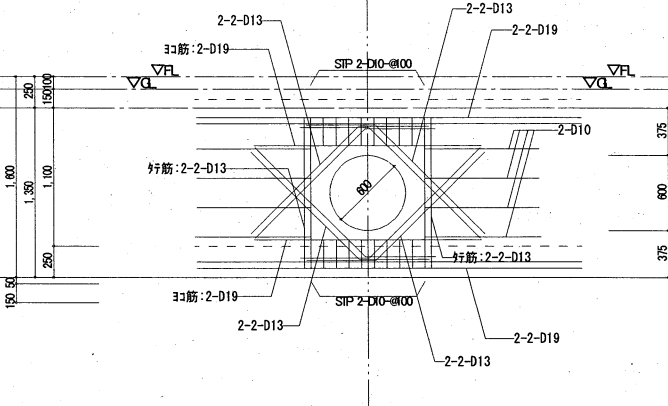
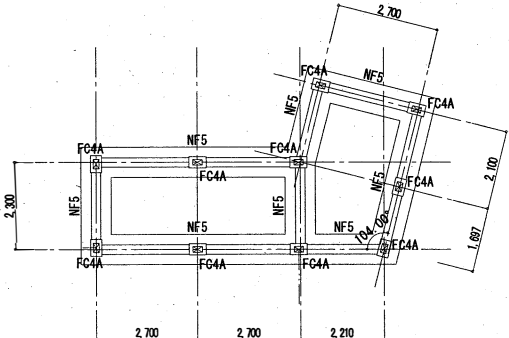
AX, BX 通りフレーム基礎柱廻り小開口範囲

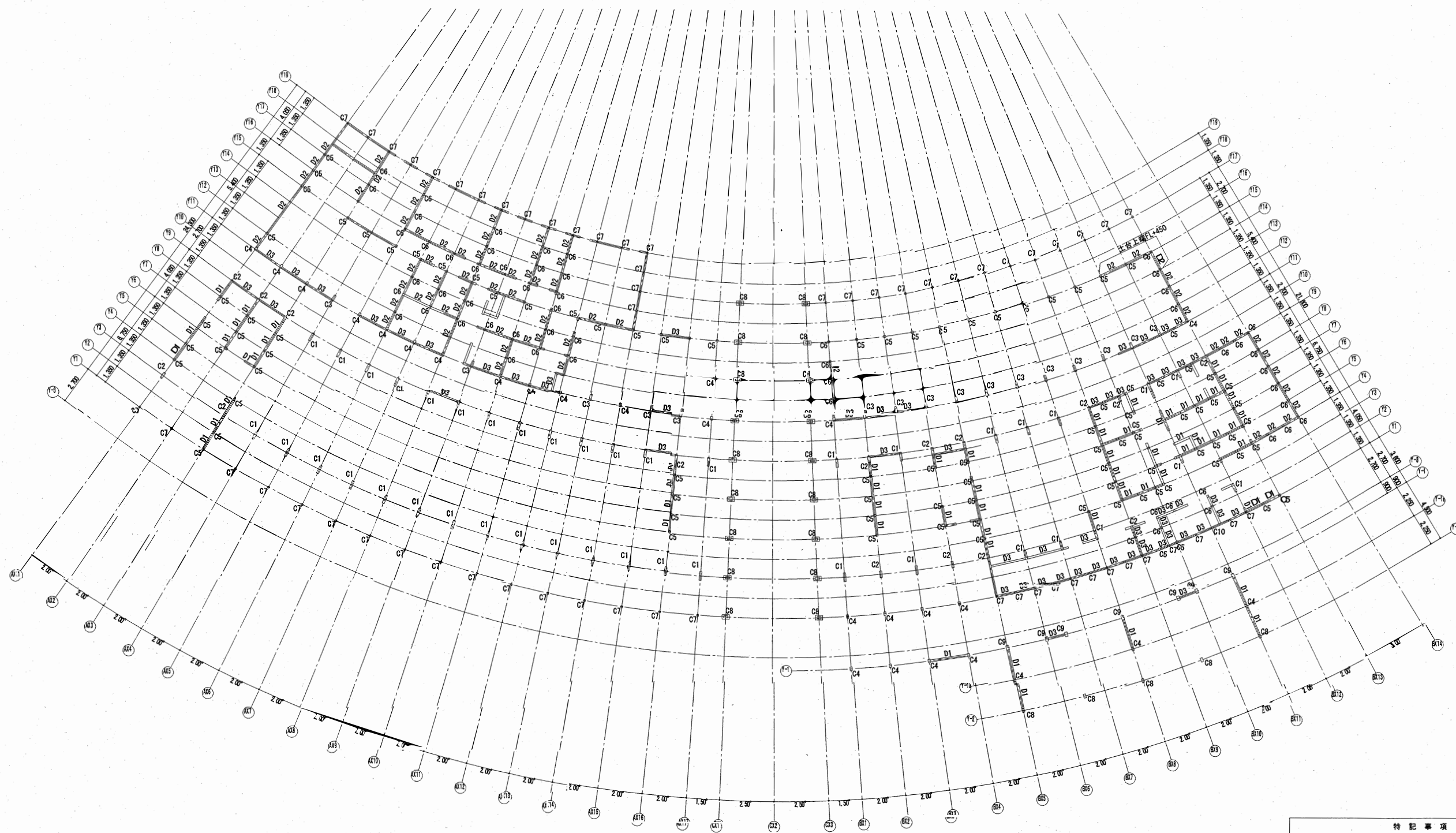


基礎梁一般部廻り小開口範囲



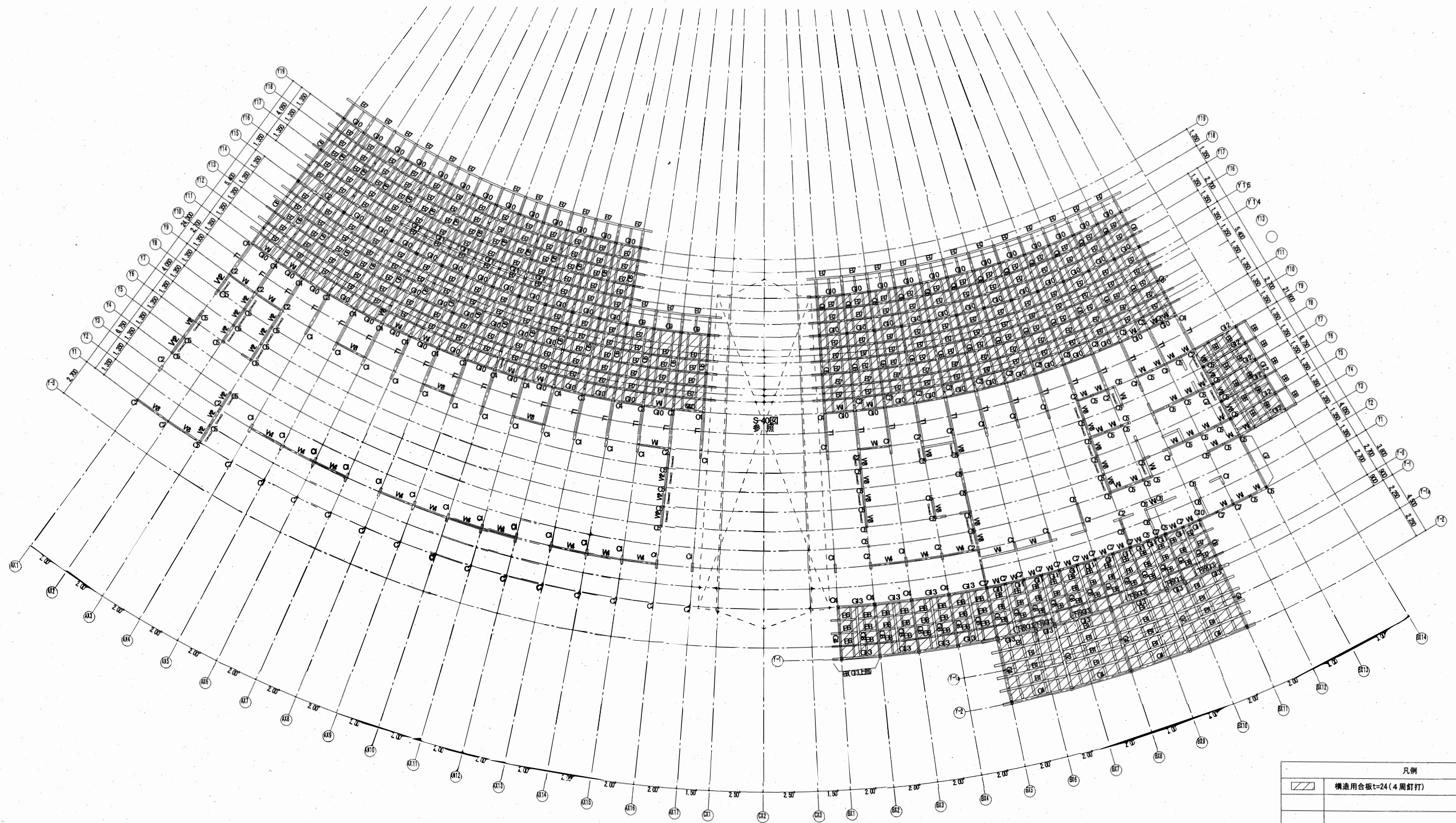
基礎梁一般部廻り人通口範囲

NF1, NF3, NF5 床下人通口開口配筋補強		NF2, NF4 床下人通口開口配筋補強						
								
キャンピー棟 基礎伏図 S=1/100								
								
備考		発注者 新潟県 村上市					工事名称 道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事	図面番号 S-020A
							図面名称 部分配筋詳細図	縮尺 A1: S=1/30 A3: S=1/60
								意 電 機 (備) 機



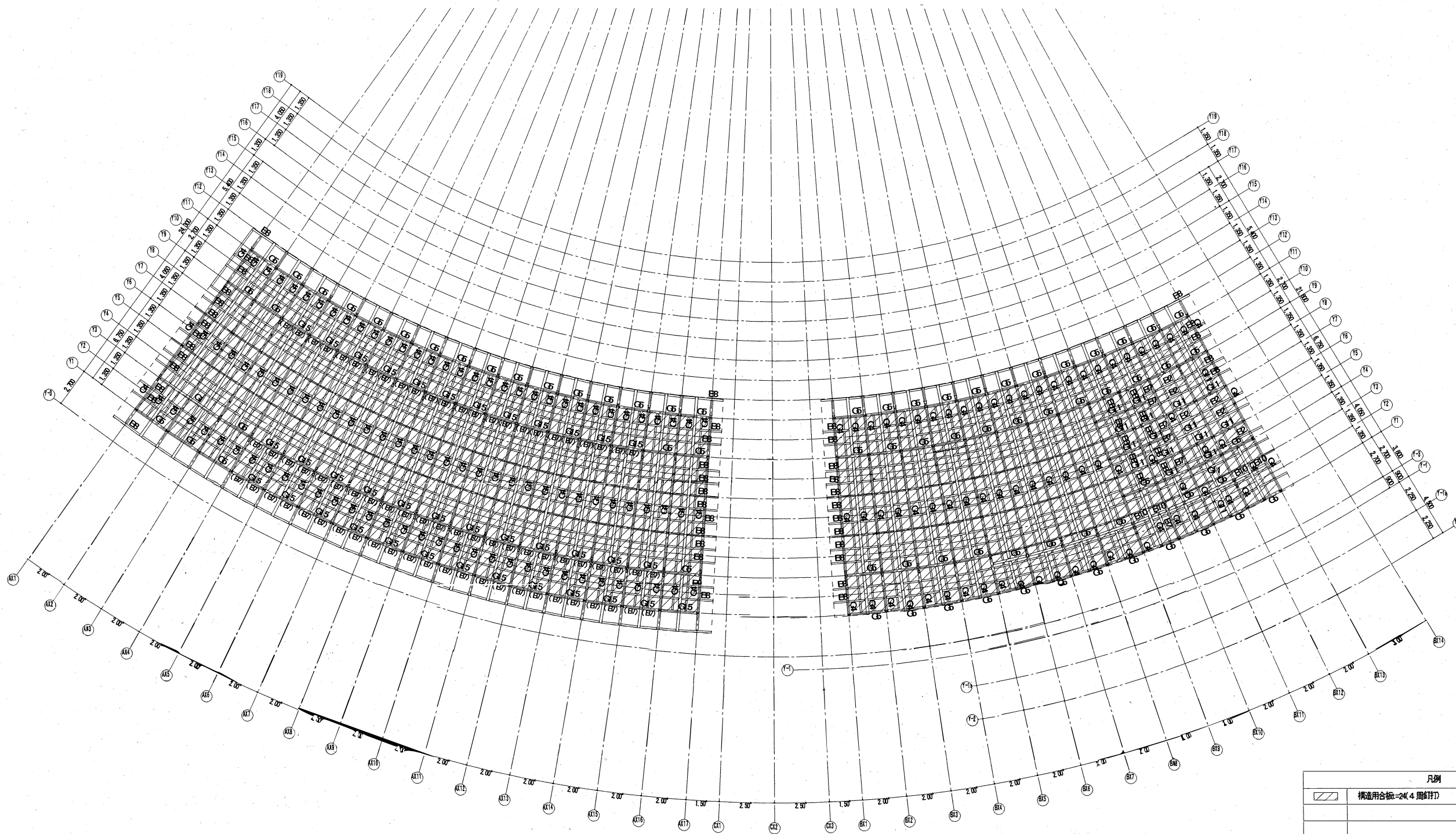
特記事項	
特記無き土台符号はD3材とする	


備考		発注者 新潟県 村上市		工事名称 道の駅 朝日 (地域交流施設) 建築工事	図面番号 S-021
				図面名称 1F土台・柱伏図	縮尺 A: S=1/150 B: S=1/300
					意 電 (構) 機



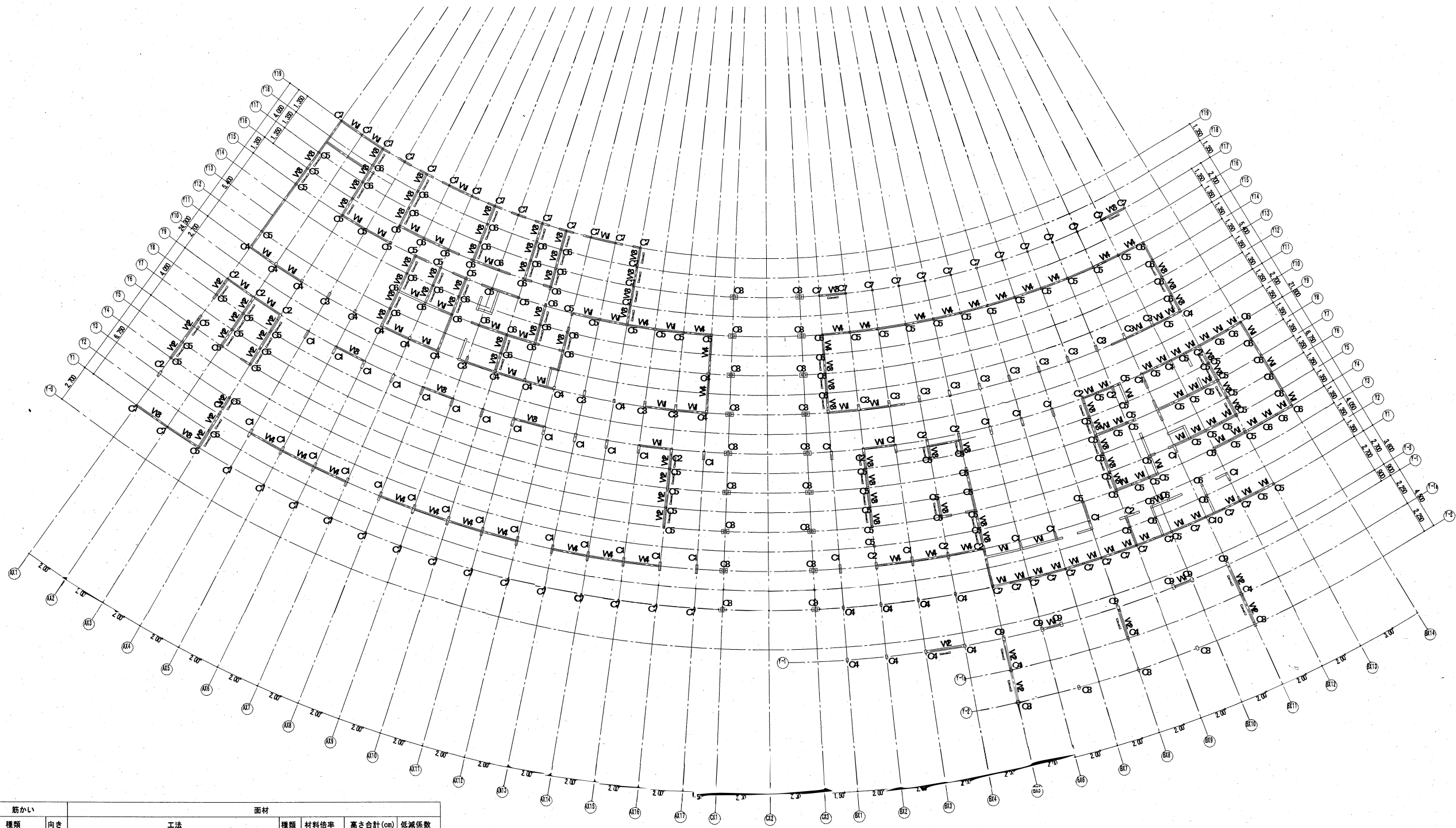
凡例	
	構造用合板t=24(4周釘打)
特記事項	
特記無き梁符号はB9材とする	

備考		製作者 新島県 村上市			工事名称 道の駅 朝日 (地域振興施設) 建築工事	図面番号 S-022	意 (機)	電 機
					図面名称 M1 F 梁・柱伏図	縮尺 A1: S-1/150 A3: S-1/300		



凡例	
	構造用合板=24(4周釘付)
特記事項	
特記なき梁符号はB9材とする	

備考			製作者	新潟県 村上市			工事名称		道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事		図面番号	
										S-023		
							図面名称	RF 梁・柱状図		縮尺	意	電
										A1: S=1/150 A3: S=1/300	(機)	機

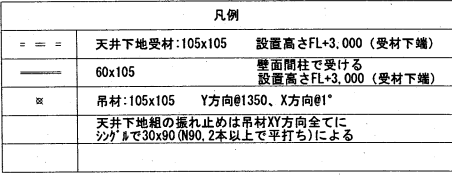


記号	壁倍率直接入力		筋かい		面材			
	種類	倍率	種類	向き	工法	種類	材料倍率	高さ合計 (cm)
W1	-	-	-	-	告 構造用ハ「ーティクルホ「ート」 (受材仕様 @75)	1	4.00	-
W2	-	-	木材 150 x 150	X	告 構造用ハ「ーティクルホ「ート」 (受材仕様 @75)	1	4.00	-
W3	-	-	木材 120 x 120	X	-	-	-	-
W4	-	-	径 1-M16	X	-	-	-	-

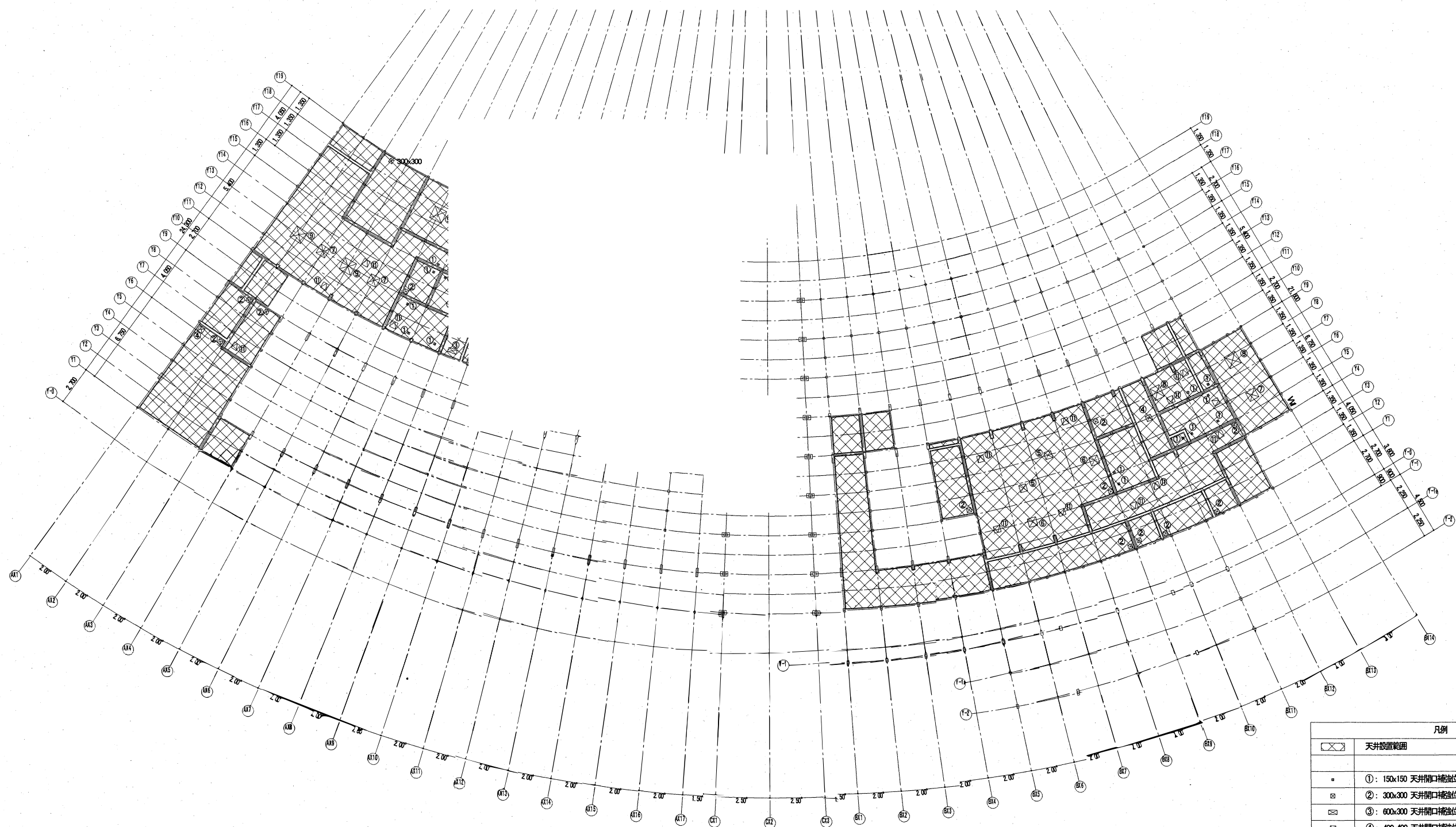
種類：1＝剛性計算用せん断変形角（1／150） 2＝剛性計算用せん断変形角（1／120）

特記なき限り下記とする		凡 例	
柱	: C7 120 x 120	■	柱
		—	筋違による耐力壁
		—	面材による耐力壁

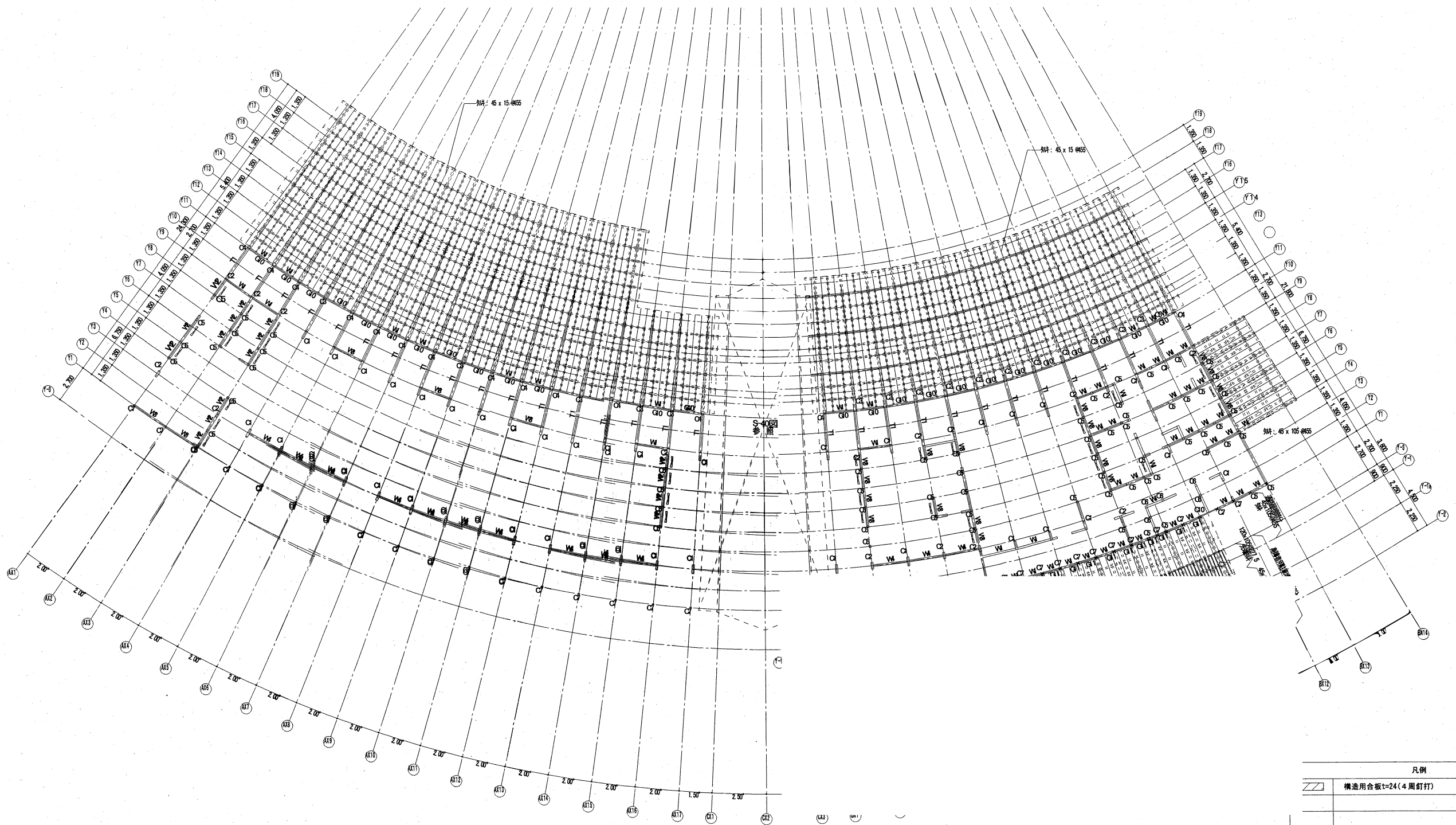
備考		発注者 新潟県 村上市		工事名称 道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事	図面番号 S-024
				図面名称 柱・筋違伏図	縮尺 A: S=1/150 B: S=1/300
					意 電 (機)



備考				発注者	新潟県 村上市					工事名称		道の駅「朝日」(地味振興施設) 建築工事		図面番号		S-024A	
											図面名称	縮尺	A1: S=1/150 A3: S=1/300	意	電		
									天井地下受材伏図			(補)	機				

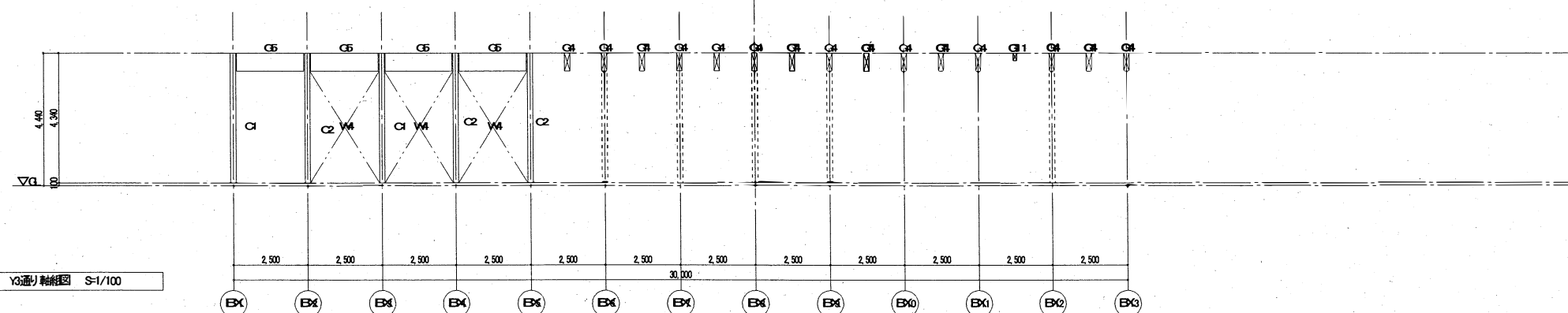
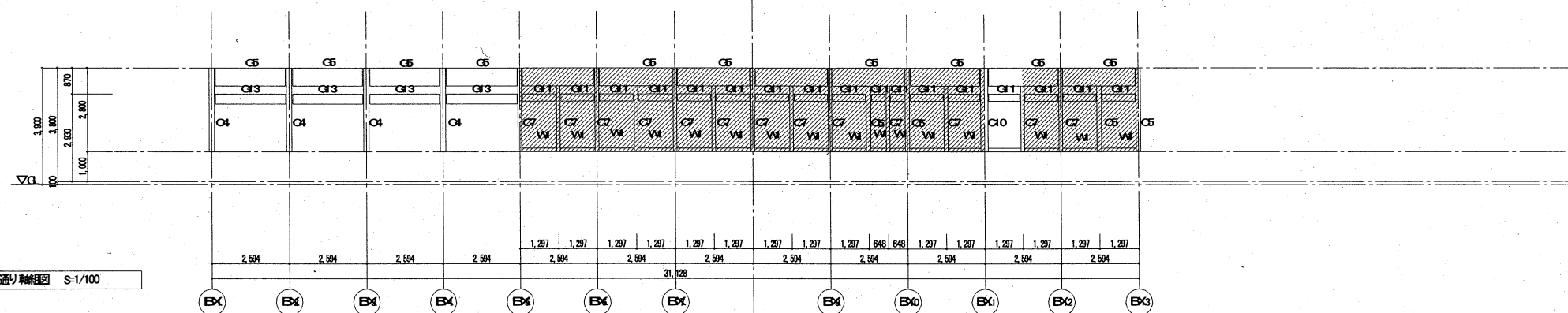
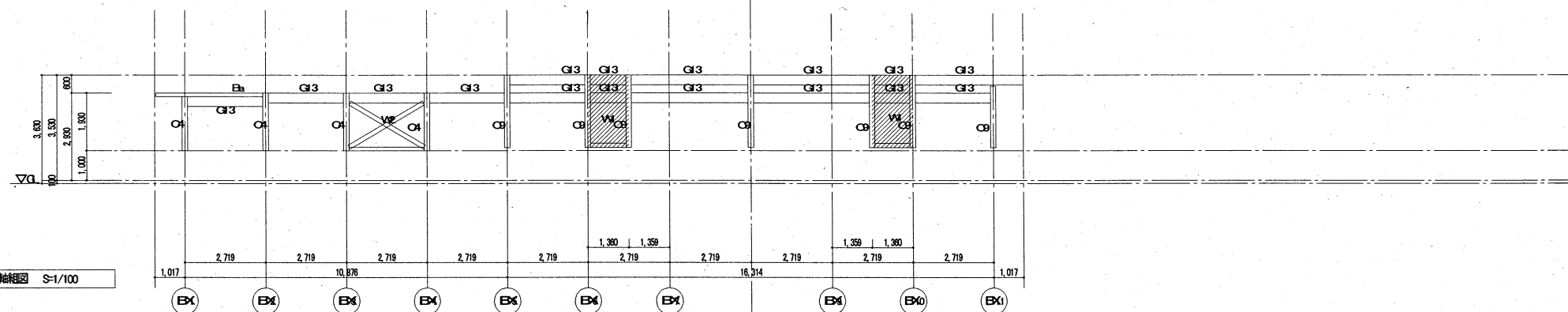
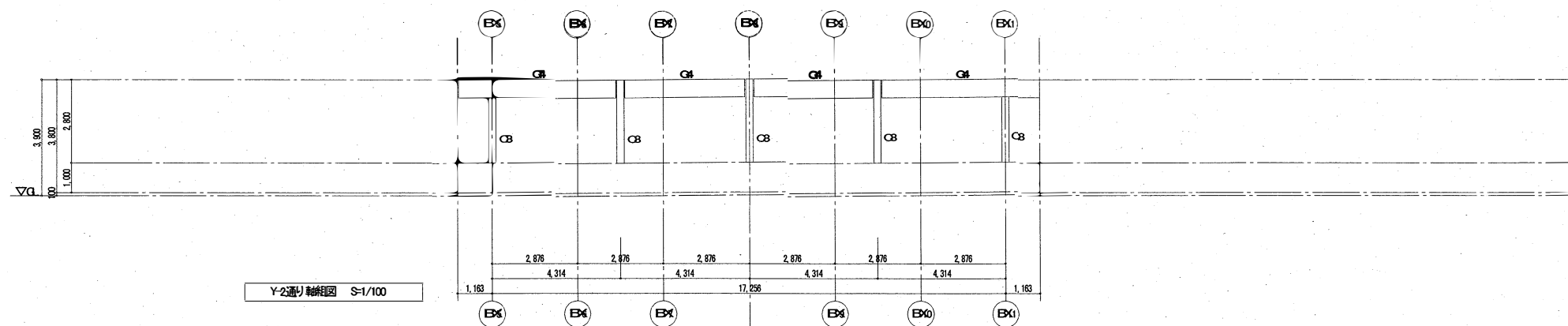


凡例	
	天井設置範囲
	①: 150x150 天井開口補強位置
	②: 300x300 天井開口補強位置
	③: 600x300 天井開口補強位置
	④: 400x400 天井開口補強位置
	⑤: 500x500 天井開口補強位置
	⑥: 600x600 天井開口補強位置
	⑦: 700x700 天井開口補強位置
	⑧: 900x700 天井開口補強位置
	⑨: 900x900 天井開口補強位置
	⑩: 550? 天井開口補強位置
	⑪: 450x450 天井点検口開口補強位置



凡例	
	構造用合板 t=24 (4周釘打)

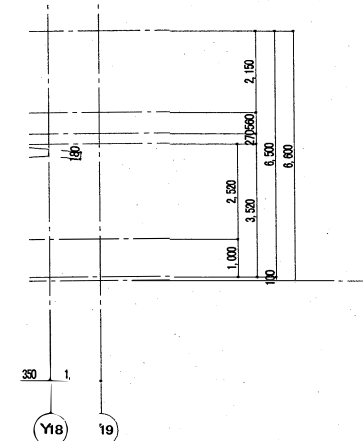
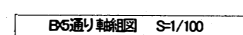
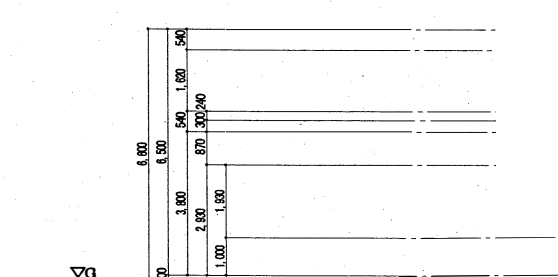
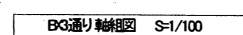
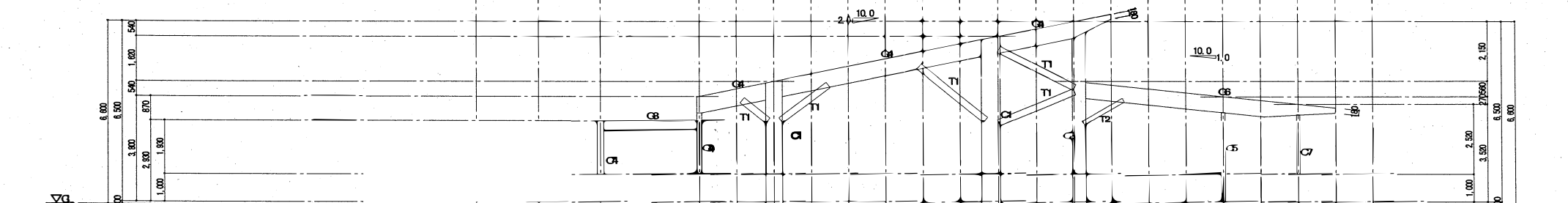
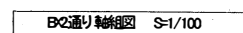
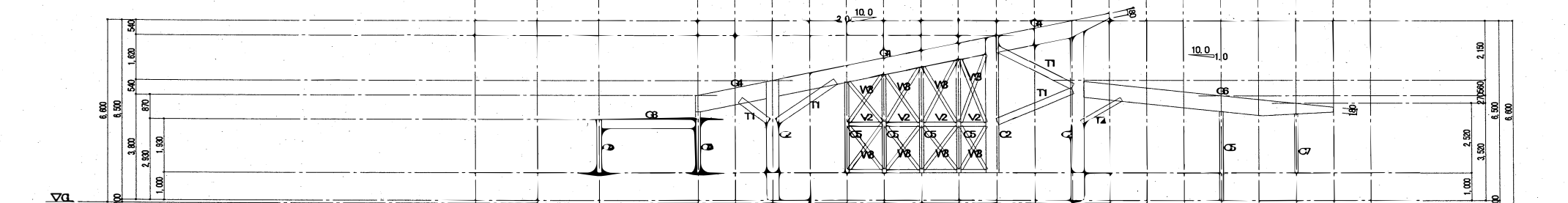
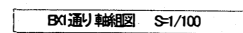
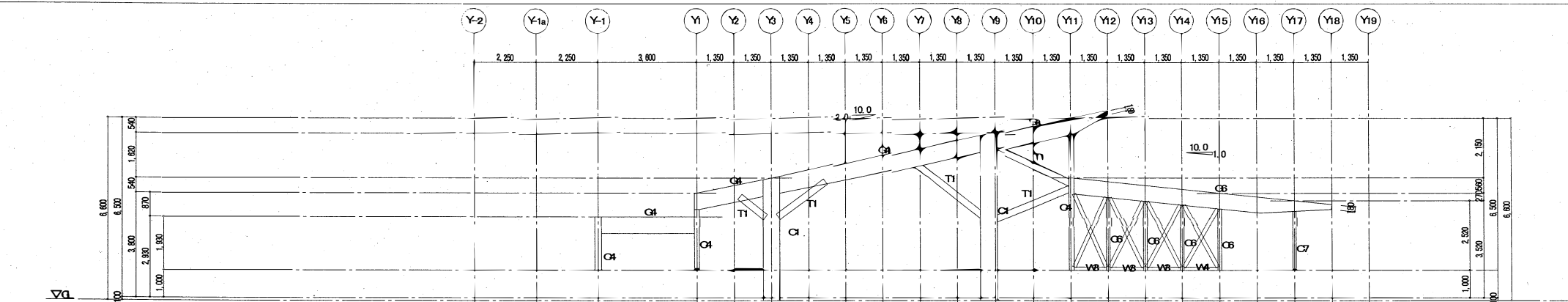
備考		発注者 新潟県 村上市				工事名称 道の駅 朝日 (地域振興施設) 建築工事	図面番号 S-025	意 (構)	電 機
						図面名称 M1Fタリキ・柱伏図	縮尺 A: S=1/150 B: S=1/300		



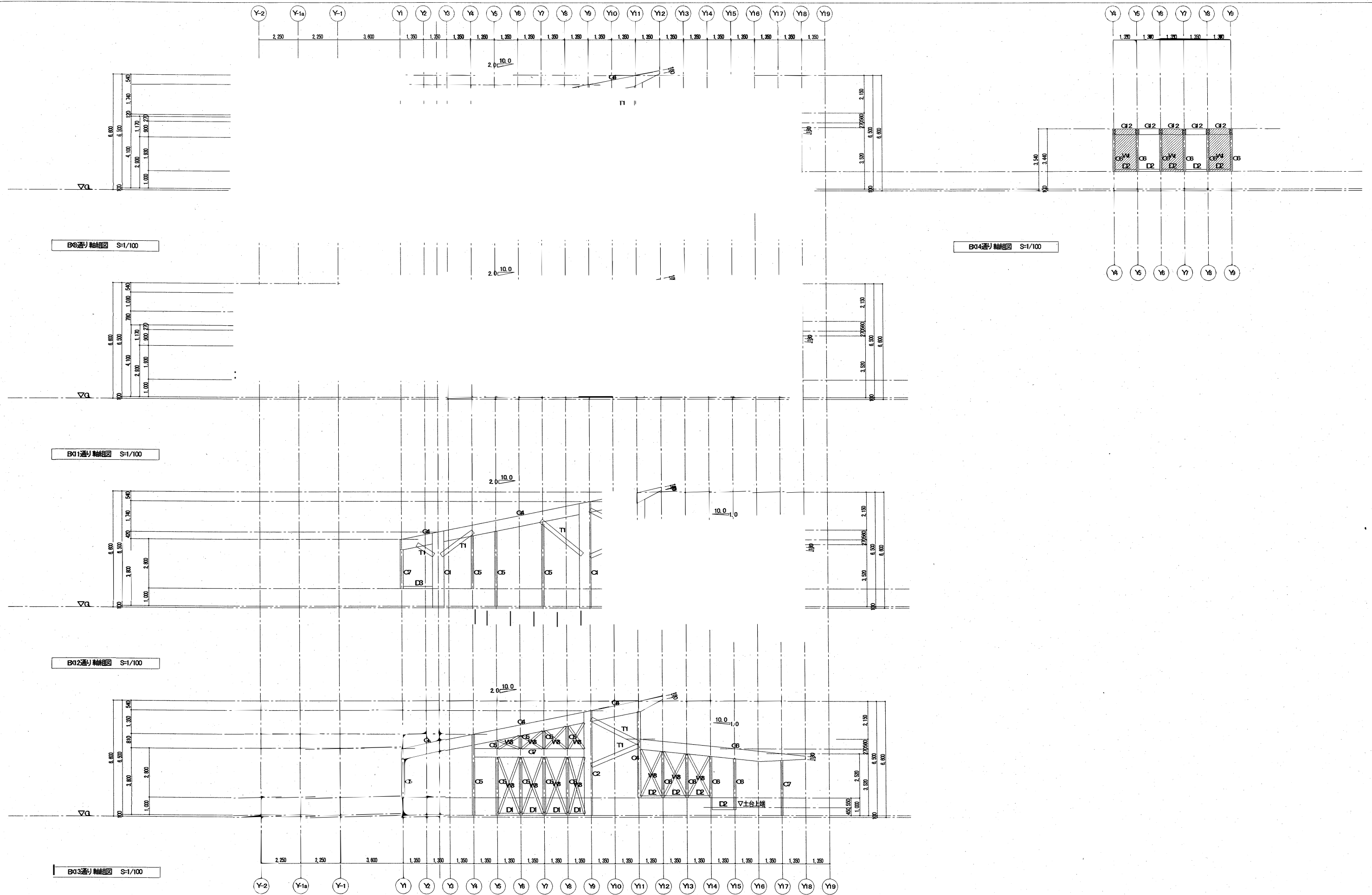
備考		発注者 新潟県 村上市				工事名称 道の駅 朝日（地域振興施設）建築工事		図面番号 S-027	
						図面名称 軸組図1	縮尺 A1: S=1/100 A3: S=1/200	意 (機)	電 機



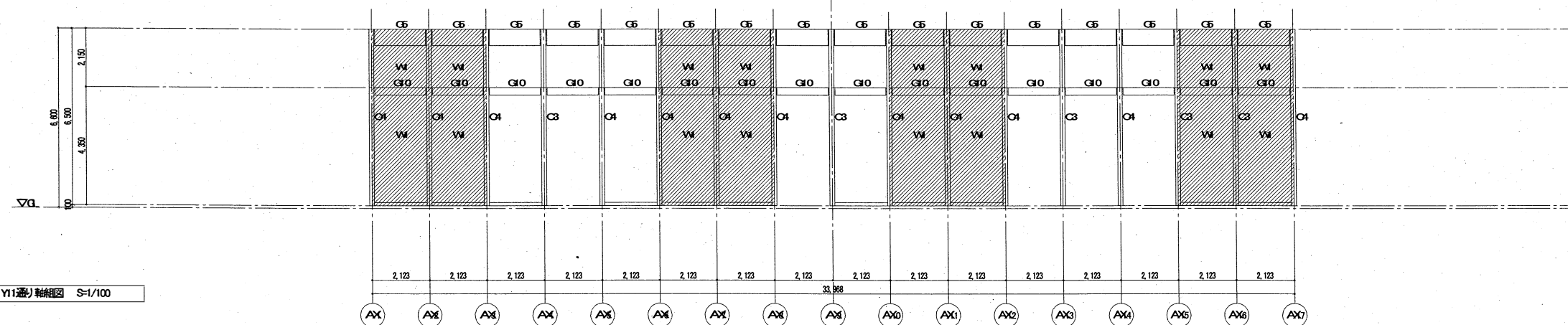
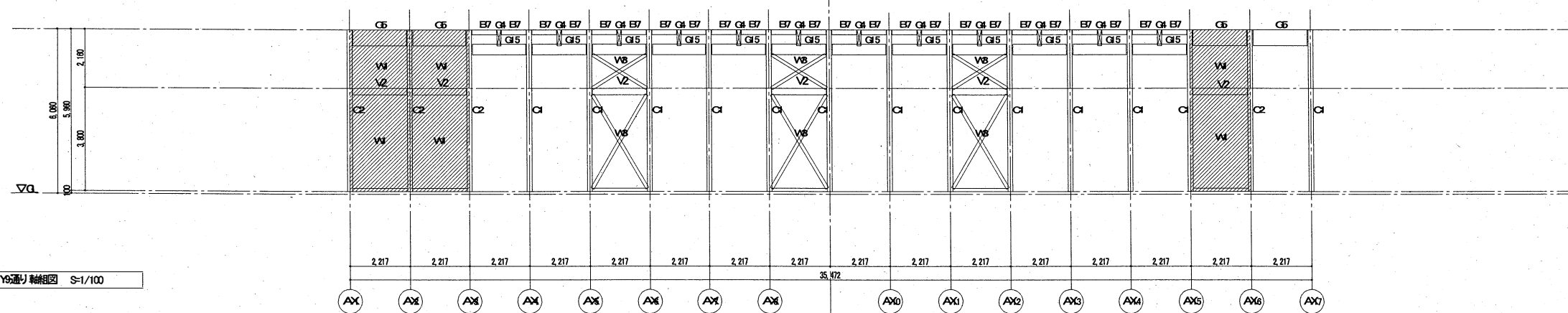
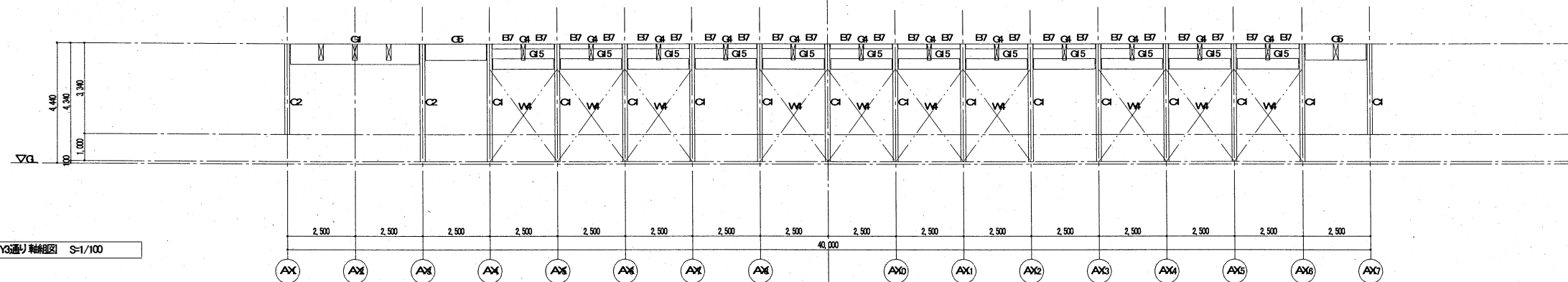
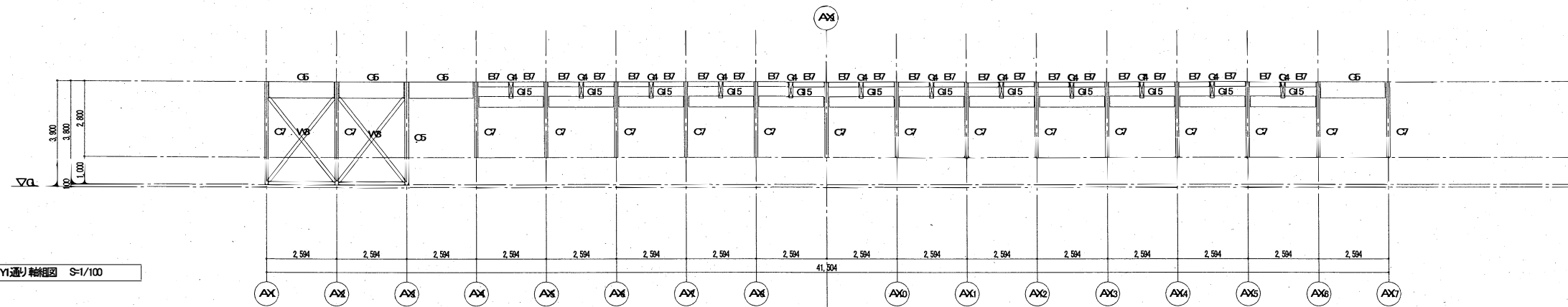
備考	図面番号	新堀県 村上市	工事名称	道の駅「朝日」(地味展開施設) 建築工事		図面番号	S-028	
				図面名称	縮尺		意	電
				軸組図2	A1: S=1/100 A3: S=1/200		機	



備考		新嘉坡 村上市				工事名称	道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事		図面番号	S-029		
						図面名称	軸組図3	縮尺	A1: S=1/100 A3: S=1/200	意	電	
									(構)	機		

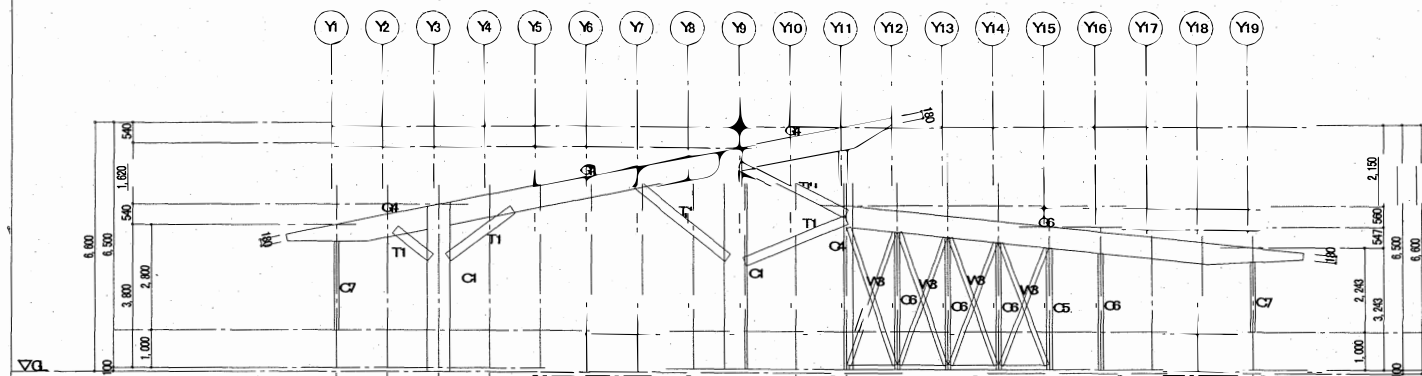


備考			新潟県 村上市					工事名称	道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事	図面番号	S-030	
								図面名称	軸組図4	図尺	意	電
									AI: S-1/100 A3: S-1/200		機	

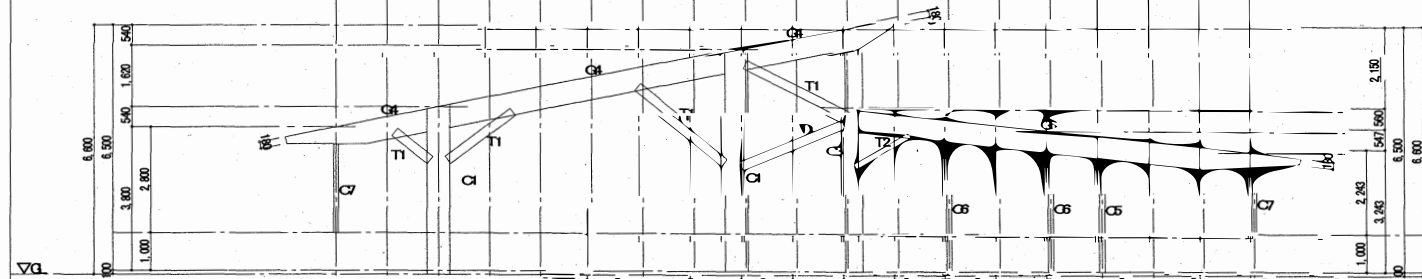


備考	新潟県 村上市	新潟県 村上市	工事名称 道の駅 朝日 (地蔵庵施設) 建築工事 図面名称 軸組図5	図面番号 S-031 意 電 (構) 機
----	---------	---------	---	-------------------------------

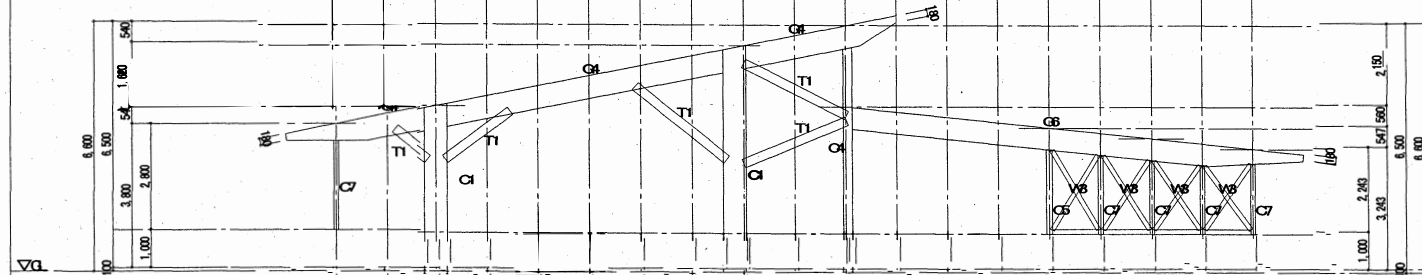
備考			発注者 新潟県 村上市				工事名称		図面番号
							道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事		S-033
							図面名称	縮尺	意 電 構 機
							軸組図7	A1: S=1/100 A3: S=1/200	



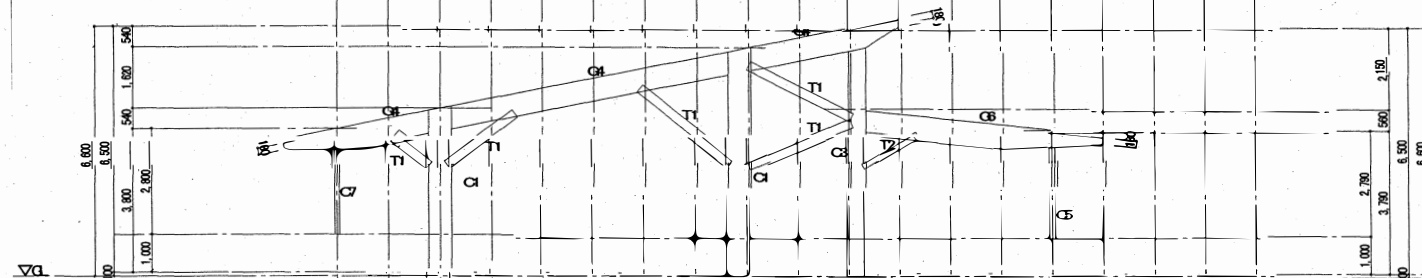
A6通り軸組図 S-1/100



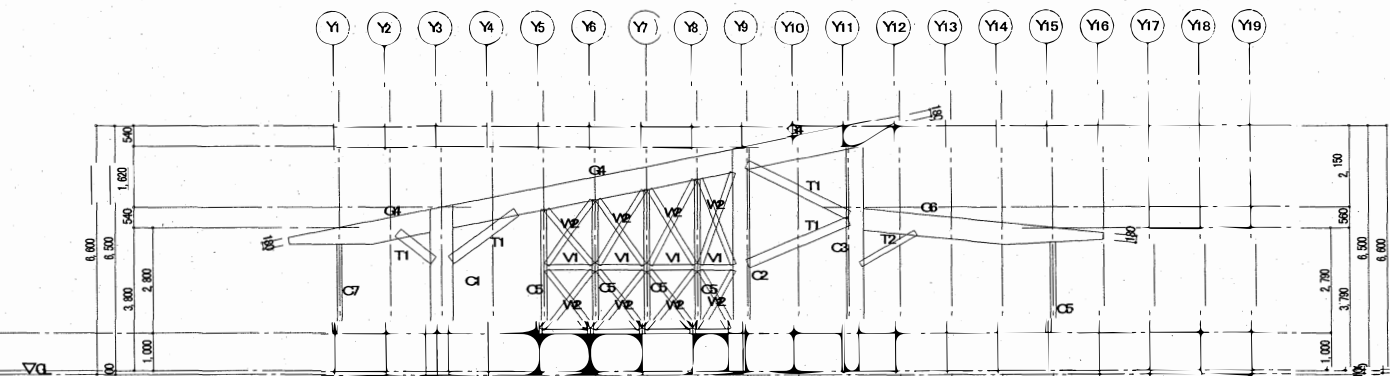
A9通り軸組図 S-1/100



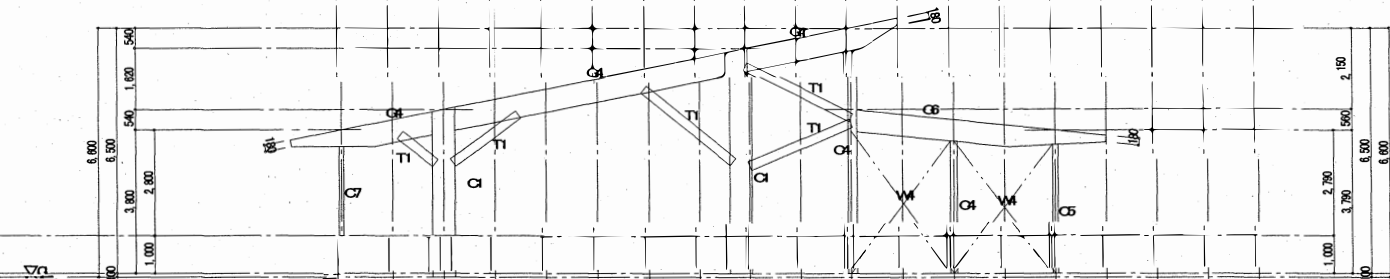
A14通り軸組図 S-1/100



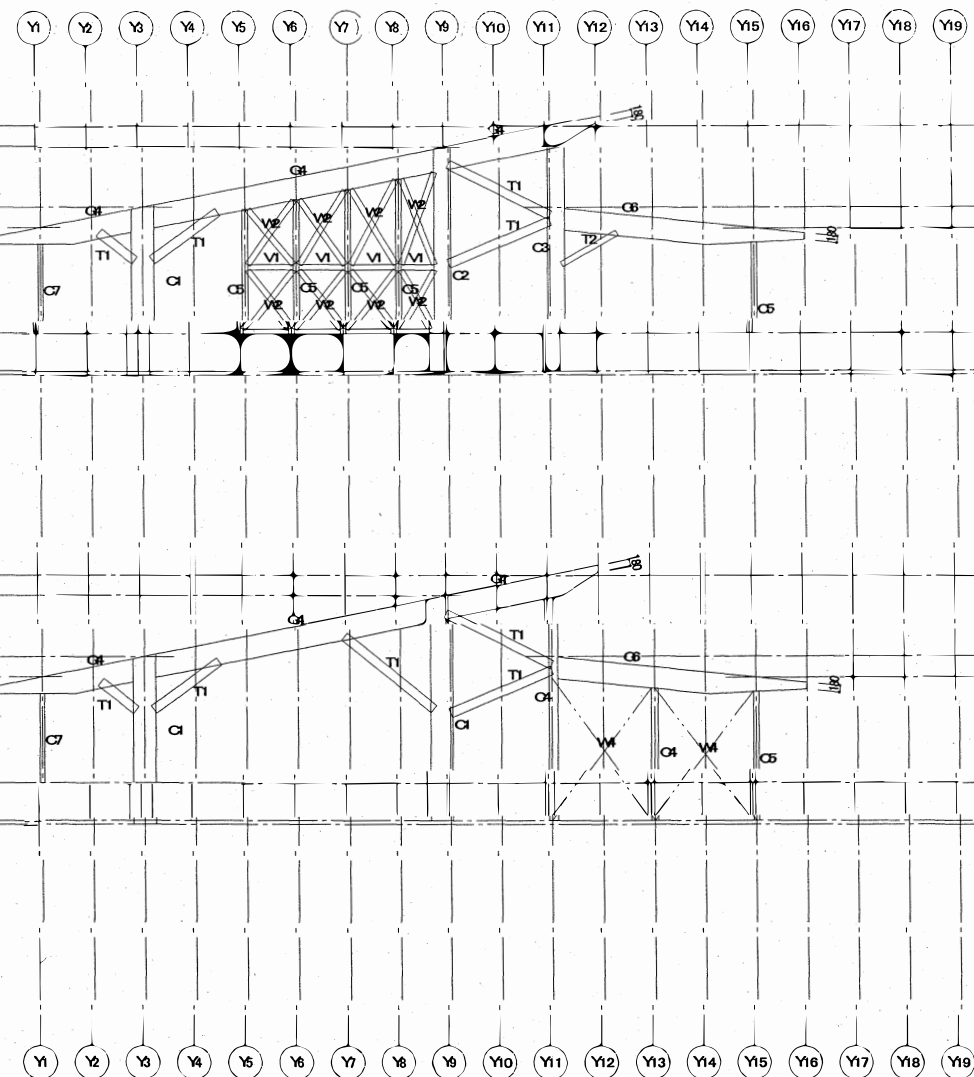
A15通り軸組図 S-1/100



A16通り軸組図 S-1/100



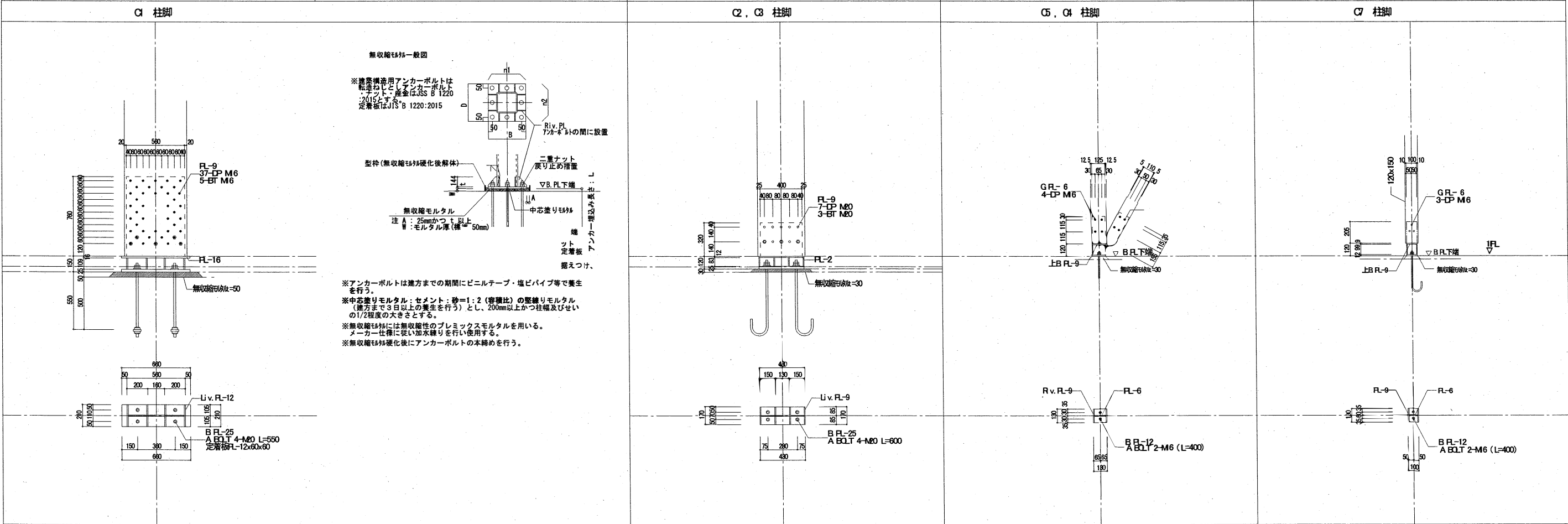
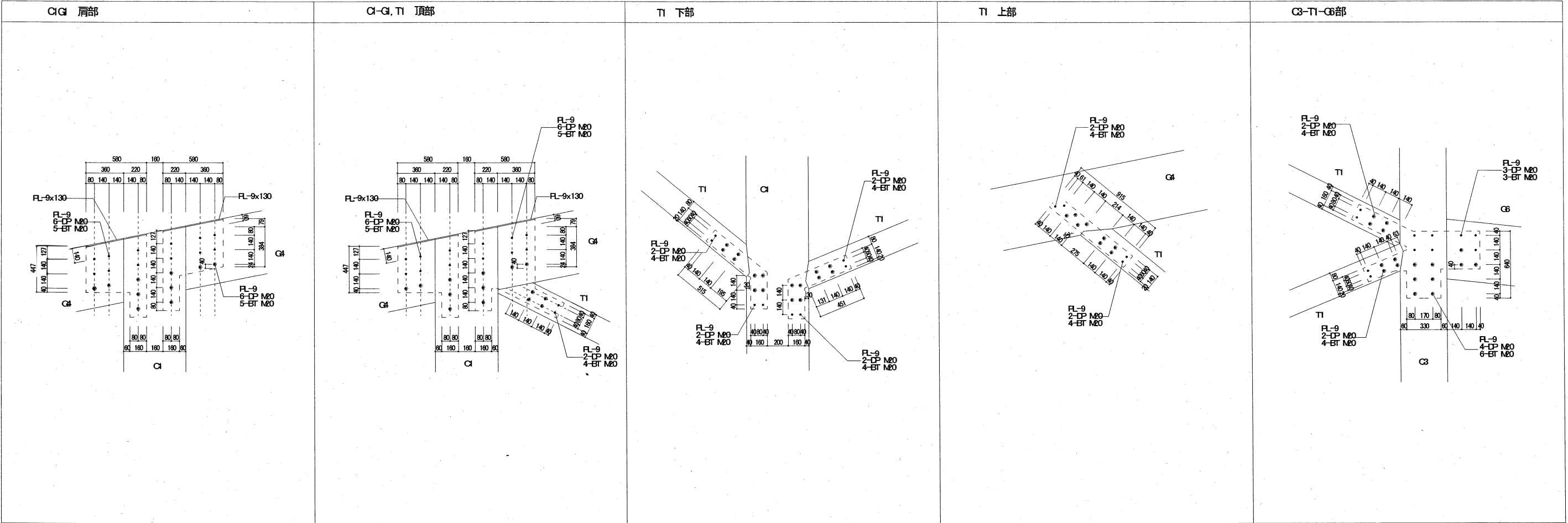
A17通り軸組図 S-1/100



備考		発注者 新潟県 村上市			工事名称 道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事 図面名称 軸組図B	図面番号 S-034 縮尺 A: S-1/100 A3: S-1/200 意 電 (構) 機
----	--	----------------	--	--	--	--

軸 組			床 組			小 屋 組			小 屋 組		
部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考
柱 C 1	1 5 0 × 6 0 0	E75-F240 有効細長比＝	土台：D 1	1 5 0 × 1 2 0	ひのきK D	G 1	1 5 0 × 7 8 0	E75-F240	B 1	1 5 0 × 3 0 0	E75-F240
柱 C 2	1 5 0 × 4 5 0	E75-F240 有効細長比＝	土台：D 2	1 3 5 × 1 2 0	ひのきK D	G 2	1 5 0 × 6 9 0	E75-F240	B 2	1 5 0 × 2 4 0	E75-F240
柱 C 3	1 5 0 × 4 5 0	E75-F240 有効細長比＝	土台：D 3	1 2 0 × 1 2 0	ひのきK D	G 3	1 5 0 × 6 3 0	E75-F240	B 3	1 5 0 × 2 1 0	E75-F240
柱 C 4	1 5 0 × 2 4 0	E75-F240 有効細長比＝				G 4	1 5 0 × 6 0 0	E75-F240	B 4	1 5 0 × 1 8 0	E75-F240
柱 C 5	1 5 0 × 1 5 0	E75-F270 有効細長比＝				G 5	1 5 0 × 6 0 0	E75-F240	B 5	1 3 5 × 3 3 0	E75-F240
柱 C 6	1 3 5 × 1 3 5	E75-F270 有効細長比＝				G 6	1 5 0 × 5 7 0	E75-F240	B 6	1 2 0 × 2 1 0	E75-F240
柱 C 7	1 2 0 × 1 2 0	E75-F270 有効細長比＝				G 7	1 5 0 × 4 8 0	E75-F240	B 7	1 2 0 × 1 8 0	E75-F240
柱 C 8	1 5 0 × 2 7 0	E75-F240 有効細長比＝				G 8	1 2 0 × 3 3 0	E75-F240	B 8	1 2 0 × 1 2 0	E75-F240
柱 C 9	1 5 0 × 3 0 0	E75-F240 有効細長比＝				G 9	1 2 0 × 3 0 0	E75-F240	B 9	1 0 5 × 1 0 5	E75-F270
柱 C 1 0	2 4 0 × 1 2 0	E75-F240 有効細長比＝				G 1 0	1 2 0 × 2 7 0	E75-F240	B 1 0	1 5 0 × 1 0 5	すぎ
						G 1 1	1 2 0 × 2 4 0	E75-F240	B 1 1	1 5 0 × 1 2 0	E75-F240
						G 1 2	1 3 5 × 3 3 0	E75-F240			
						G 1 3	1 5 0 × 3 3 0	E75-F240			
筋違 W2	1 5 0 × 1 5 0	E75-F270				G 1 4	1 5 0 × 2 4 0	E75-F240			
筋違 W3	1 2 0 × 1 2 0	E75-F270				G 1 5	1 5 0 × 3 9 0	E75-F240	屋根下地	屋根下地構造用合板t=24	四周釘打ち
						方杖 1 T1	1 5 0 × 2 4 0	E75-F240	タルキ	4 5 × 1 0 5 @ 4 5 5	すぎ
									軒先タルキ	1 2 0 × 1 0 5 @ 2 2 7 . 5	すぎ
						方杖 2 T2	1 5 0 × 1 5 0	E75-F270			
									野地板	構造用合板t=12	
						方杖 3 T3	1 5 0 × 1 5 0	E75-F270			
共 通 事 項											
仕様は全て共通事項による			集成材は全てすぎとする			耐力壁ツナギ材 V1	1 5 0 × 1 5 0	E75-F270			
図面中特記亡きはすべて本リスト表による。			各所柱・梁・方杖等の接合部における接合要領の優先順位は下記とする 第1優先：接合詳細図1・2及び架構詳細図と同様の接合の場合は、 接合詳細図1・2及び架構詳細図の接合要領に倣う 第2優先：木造軸組接合部標準図1・2の金物工法の接合要領 第3優先：木造軸組接合部標準図（1）～（5）の接合要領			耐力壁ツナギ材 V2	1 3 5 × 1 5 0	E75-F240			
工事の仕様はJ A S S 1 1 木工事による。											
構造耐力上主要な部分は地面から＋1, 0 0 0 までを防腐・防蟻剤を塗布する。											
			構造材含水率は15%以下とする。								

備考			発注者	新潟県 村上市			工事名称			道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事			図面番号		
										S-035					
							図面名称			縮尺			意	電	
							部材リスト表			AI: S=1/100 A3: S=1/200			(構)	機	



無収縮モルタル一般図

※建築標準用アンカーボルトは標準ねじとしアンカーボルト・ナット・座金はJIS B 1220・2015とする。定着板はJIS B 1220:2015

型枠(無収縮モルタル硬化後解体)

二重ナット
戻り止め措置

△B.P.L下端

中芯塗りモルタル

無収縮モルタル

注 A: 25mmかつ以上
W: モルタル厚(標準50mm)

アンカー埋込み長さ: L

定着板

掘りつけ

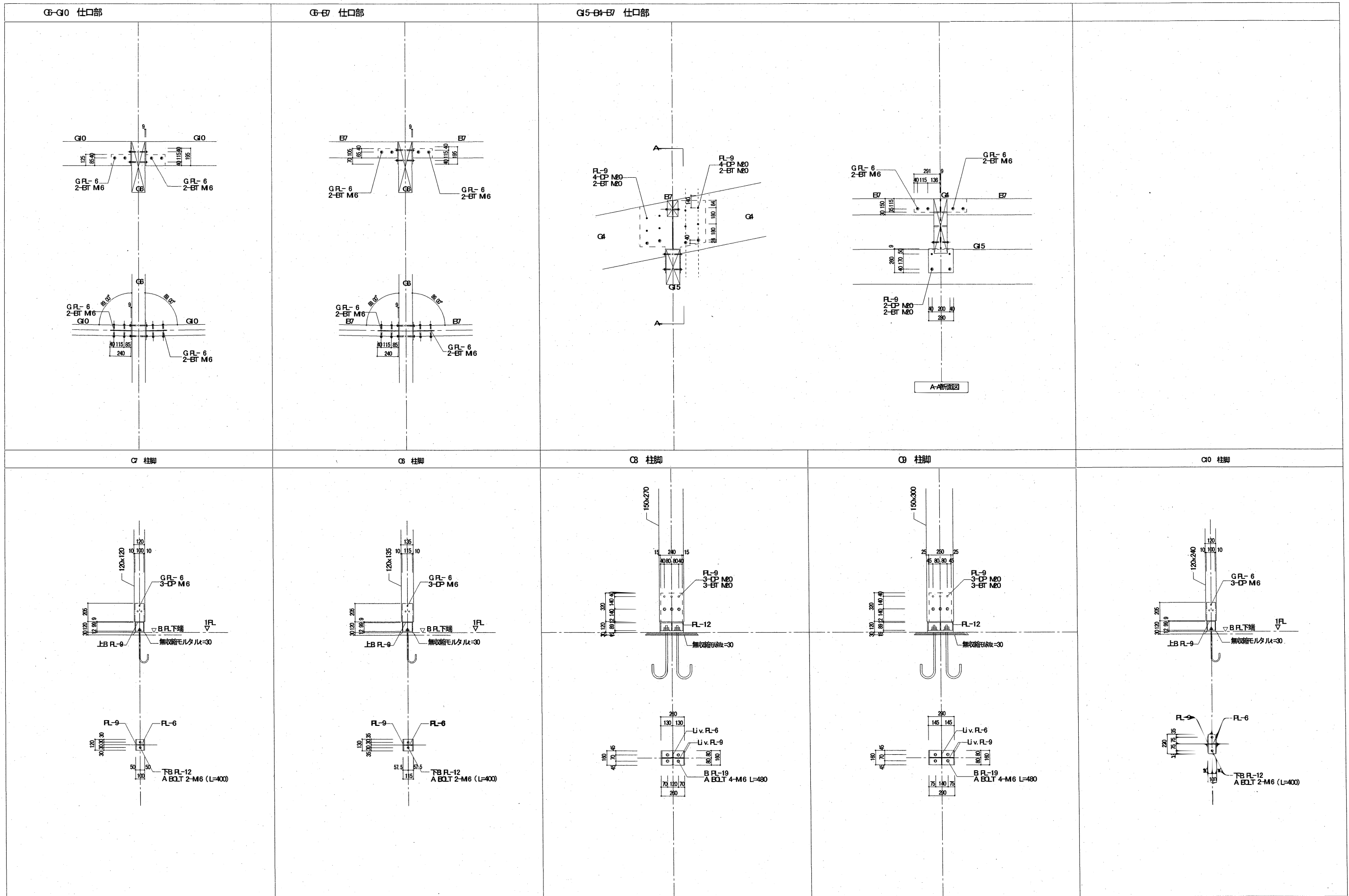
※アンカーボルトは建方までの期間にビニルテープ・塩ビパイプ等で養生を行う。

※中芯塗りモルタル: セメント: 砂=1:2(容積比)の堅練りモルタル(建方まで3日以上養生を行う)とし、200mm以上かつ柱幅及びせい1/2程度の大ききとする。

※無収縮モルタルには無収縮性のプレミックスモルタルを用いる。

メーカー仕様に従い加水練りを行い使用する。

※無収縮モルタル硬化後にアンカーボルトの本締めを行う。



発注者

新潟県 村上市

工事名称

道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事

図面番号

S-037

図面名称

接合詳細図(2)

縮尺

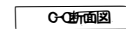
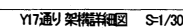
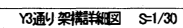
A1: S=1/20
A3: S=1/40

意

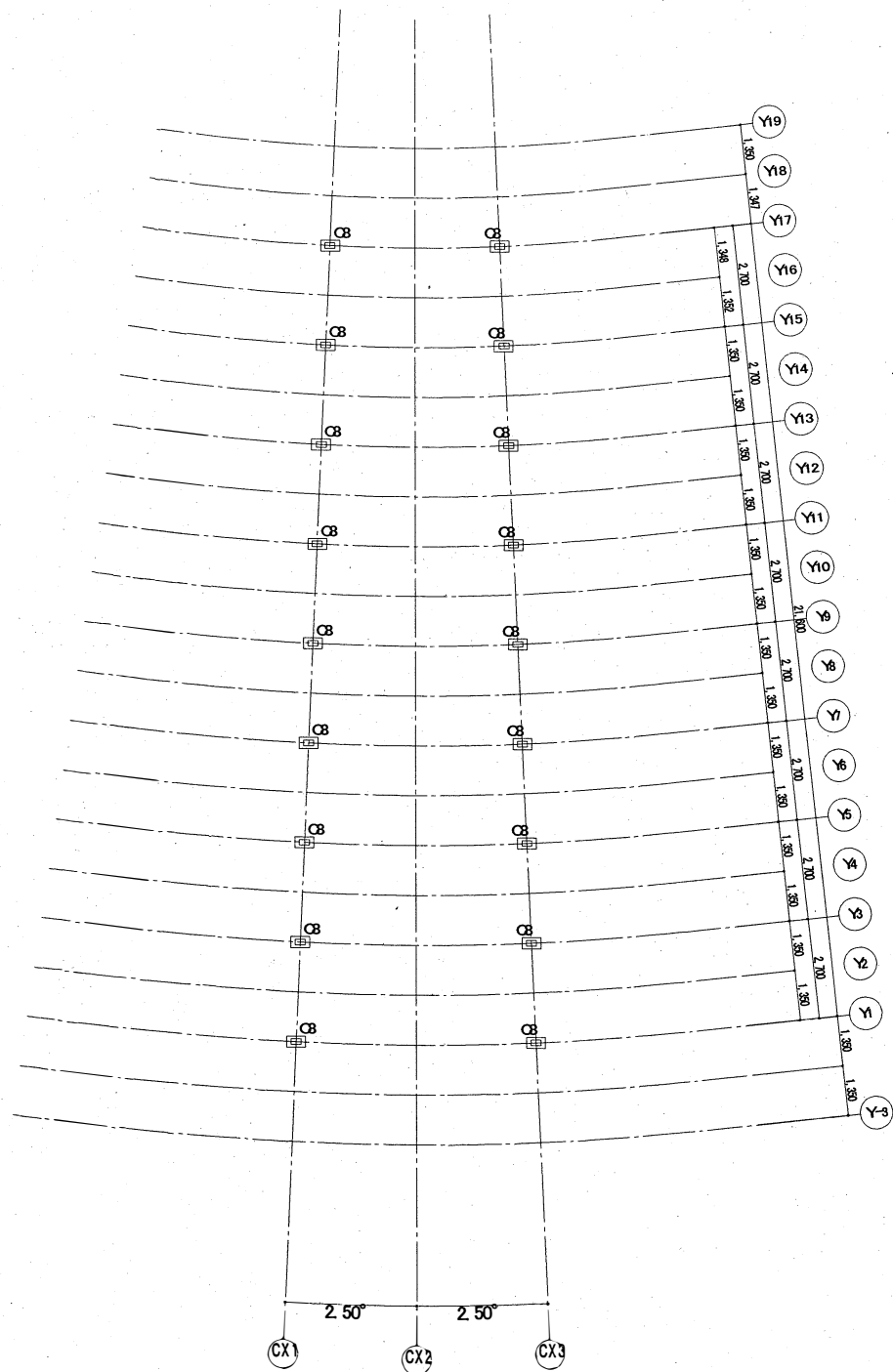
電

(構)

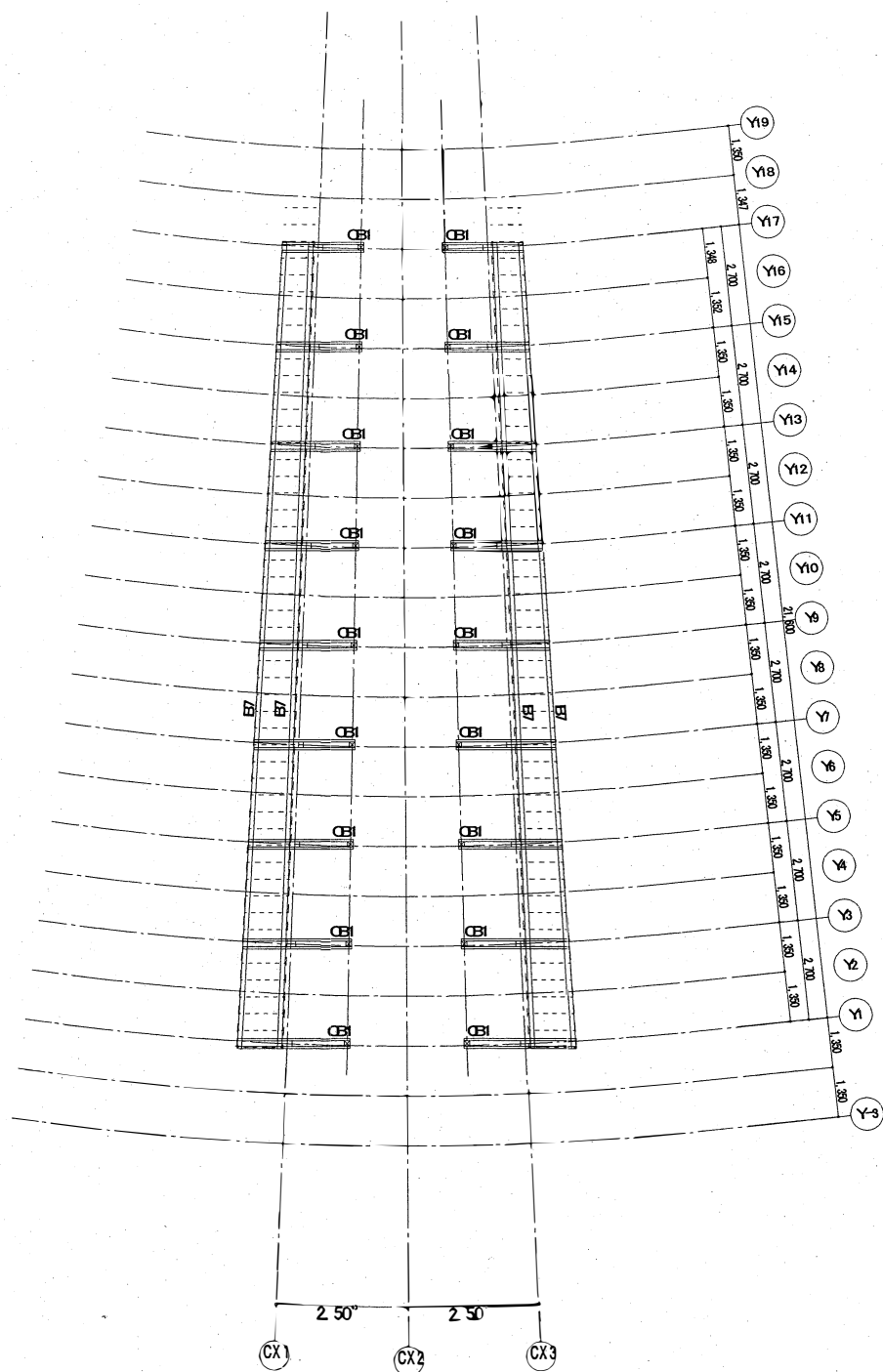
機



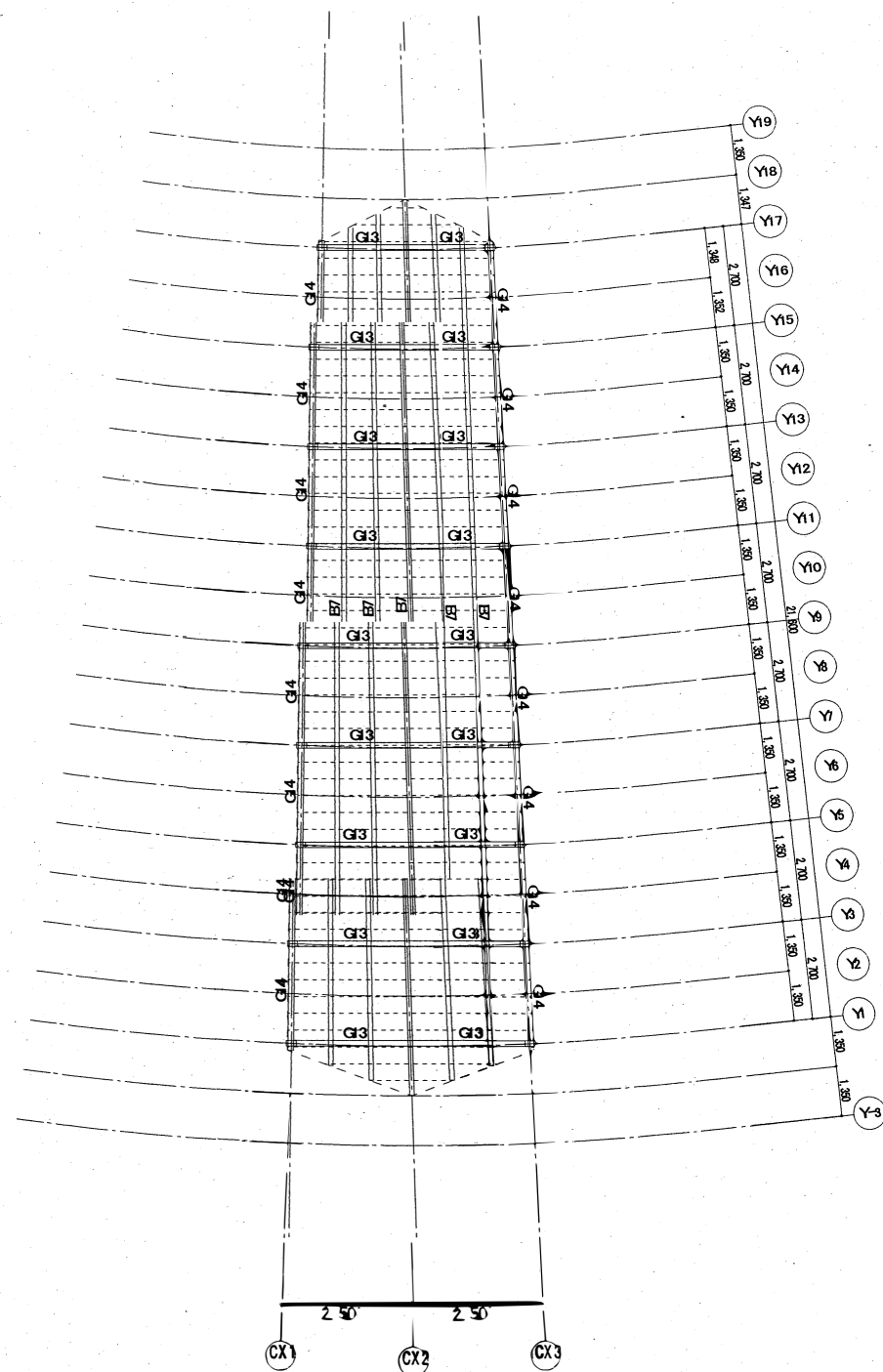
備考	新潟県 村上市					工事名称	道の駅 朝日 (地域振興施設) 建築工事		図面番号	S-039	
						図面名称	架設詳細図 (B3通り)		縮尺	意 電 (構) 機	



柱伏図 S-1/100

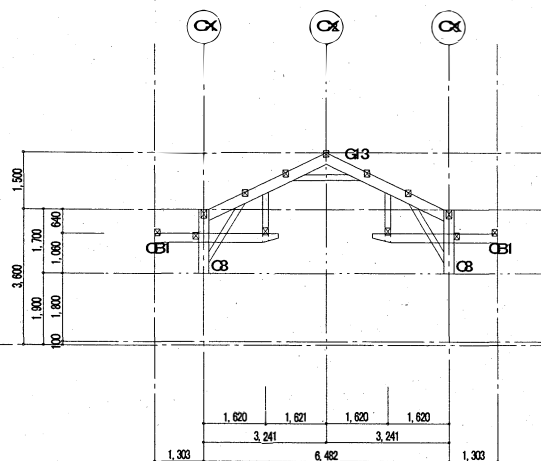


梁伏図 S-1/100

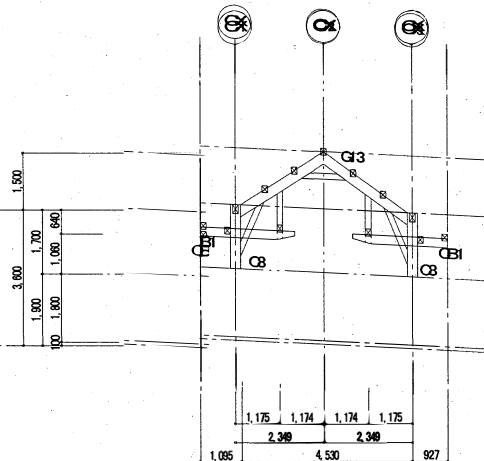


屋根伏図 S-1/100

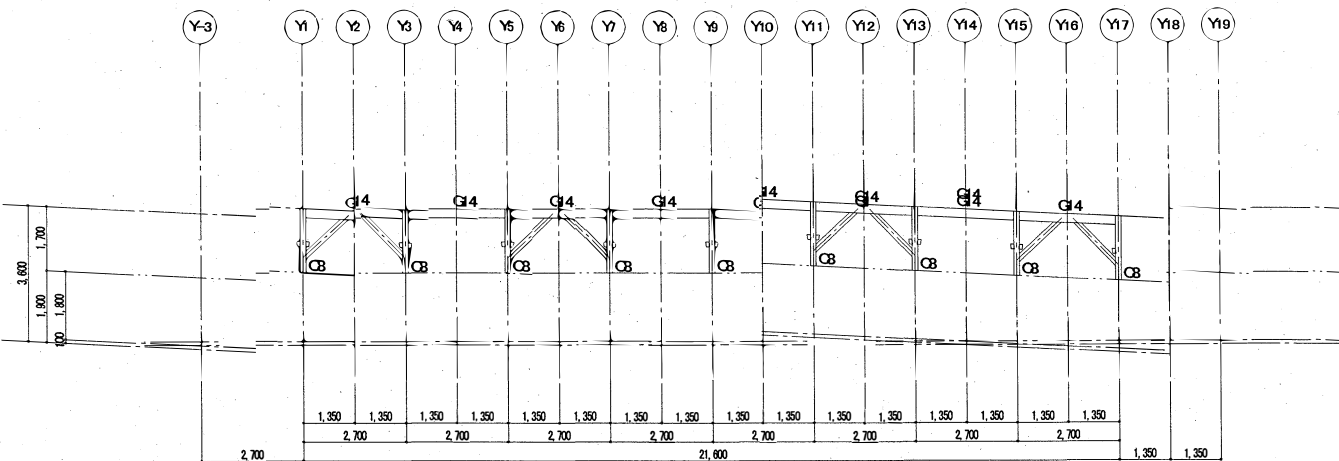
備考		施注者 新潟県 村上市		工事名称 道の駅 朝日(地域振興施設) 建築工事	図面番号 S-040
				図面名称 雁木広場 柱・梁伏図	縮尺 A: S-1/100 B: S-1/200
					意 電 (備 機)



Y1通り軸組図 S=1/100

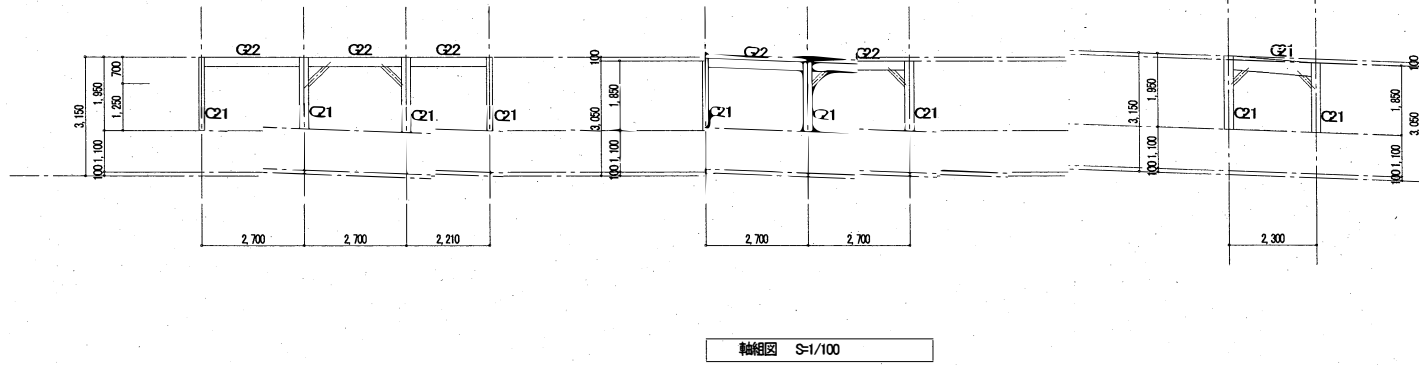
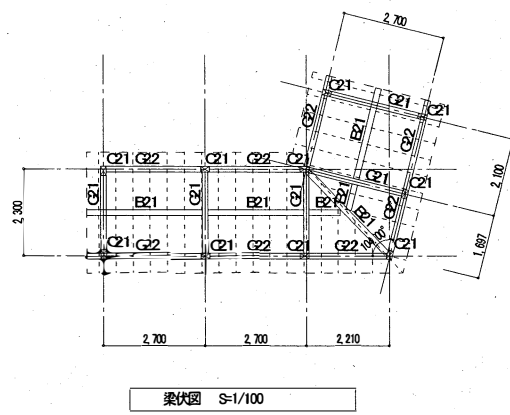
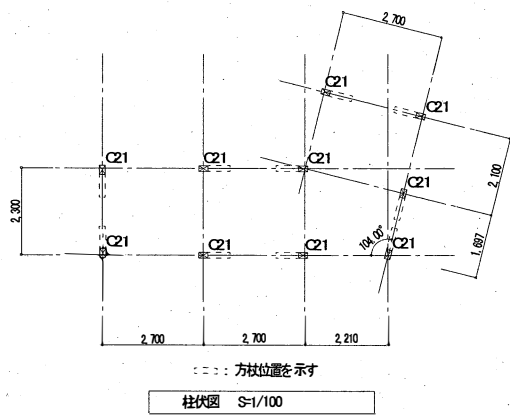


Y17通り軸組図 S=1/100

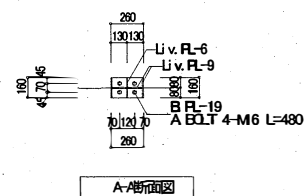


Y1-Y19通り軸組図 S=1/100

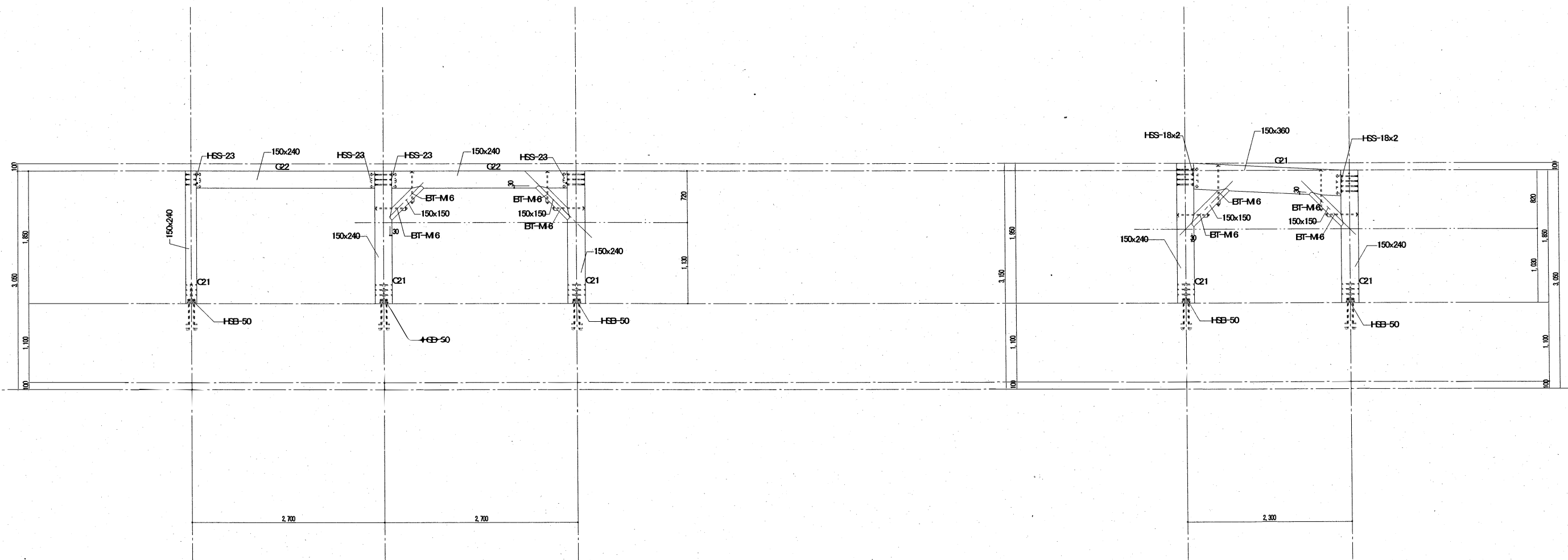
軸 組			床 組			小 屋 組			小 屋 組		
部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考
柱 C8	150×270	E75-F240 有効細長比=				G13	150×270	E75-F240	B7	120×180	E75-F240
						G14	150×240	E75-F240			
									タルキ	45×105 @455	すぎ
P11	150×150	E75-F270 有効細長比=									
						方杖3	150×150	E75-F270	野地板	構造用合板t=12	
						CB1	2-60×240	E75-F240			
						同上受材	120×270 L=150				
共 通 事 項											
仕様は全て共通事項による			集成材は全てすぎとする								
図面中特記亡きはすべて本リスト表による。											
工事の仕様はJASS11木工事による。											
構造耐力上主要な部分は地面から+1,000までを防腐・防蟻剤を塗布する。											
			構造材含水率は15%以下とする。								



軸 組			床 組			小 屋 組			小 屋 組		
部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考	部 位	部材リスト	備 考
柱 C 2 1	1 5 0 × 2 4 0	E75-F240 有効細長比=				G 2 1	1 5 0 × 3 6 0	E75-F240	B 2 1	1 5 0 × 2 4 0	E75-F240
						G 2 2	1 5 0 × 2 4 0	E75-F240			
									タルキ	4 5 × 7 5 @ 4 5 5	すぎ
						方杖 3	1 5 0 × 1 5 0	E75-F270	野地板	構造用合板t=12	
共 通 事 項											
仕様は全て共通事項による			集成材は全てすぎとする								
図面中特記亡きはすべて本リスト表による。											
工事の仕様はJASS11木工事による。											
構造耐力上主要な部分は地面から+1,000までを防腐・防蟻剤を塗布する。											
			構造材含水率は15%以下とする。								



備考			発注者						工事名称		図面番号
			新潟県 村上市						道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事		S-043
									図面名称	縮尺	意 電
									雁木広場 詳細図	A1: S=1/30 A3: S=1/60	(構) 機



備考		発注者	新潟県 村上市				工事名称		道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事		図面番号	
							図面名称		縮尺		S-044	
							キャノピー 詳細図		A1: S=1/30 A3: S=1/60		意	電
											(機)	機

鉄筋コンクリート 構造配筋標準図 1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

2. 記号

d…異形鉄筋の呼び名に用いた数値 (径) D…部材の成、又は鉄筋内法直径
e…間隔 r…半径 Q…中心線 l₀…部材間の内法距離 h₀…部材間の内法高さ
ST…あばら筋 HOOP…帯筋 S.HOOP…補強帯筋

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

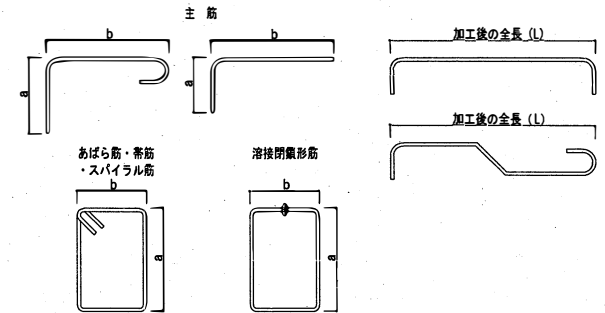
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径 (D)
180°	180°	SD295	D16以下	3d以上
135°	135°	SD345	D19~D41	4d以上
90°	90°	SD390	D41以下	5d以上
90°	90°	SD490	D25以下	6d以上
90°	90°	SD490	D29~D41	6d以上

- 【注】(1) dは呼び名に用いた数値とする。
(2) スパイラル筋の重ね継手部に90° フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
(3) 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
(4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
(5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障のないことを確認した上で、工事監督者の承認を得ること。
(6) SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障のないことを確認した上で、工事監督者の承認を得ること。

(2) 加工寸法の許容差

項目	符号	許容差
各加工寸法 ⁽¹⁾		
主筋	D25以下	a, b ± 15
	D29以上D41以下	a, b ± 20
あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	± 5
加工後の全長	L	± 20

【注】(1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



(3) 鉄筋のあき

異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値

異形鉄筋

あき

(4) 鉄筋のフック

- a~eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
a. あばら筋、帯筋、および幅止メ筋
b. 煙突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
c. 柱、梁 (基礎梁を除く) の出すみ部分
および下端の両端にある場合の鉄筋 (右図参照)
d. 単純梁の下端筋
e. その他、本配筋標準に記載する箇所

図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要

柱

梁

小梁・スラブの下端筋の室内

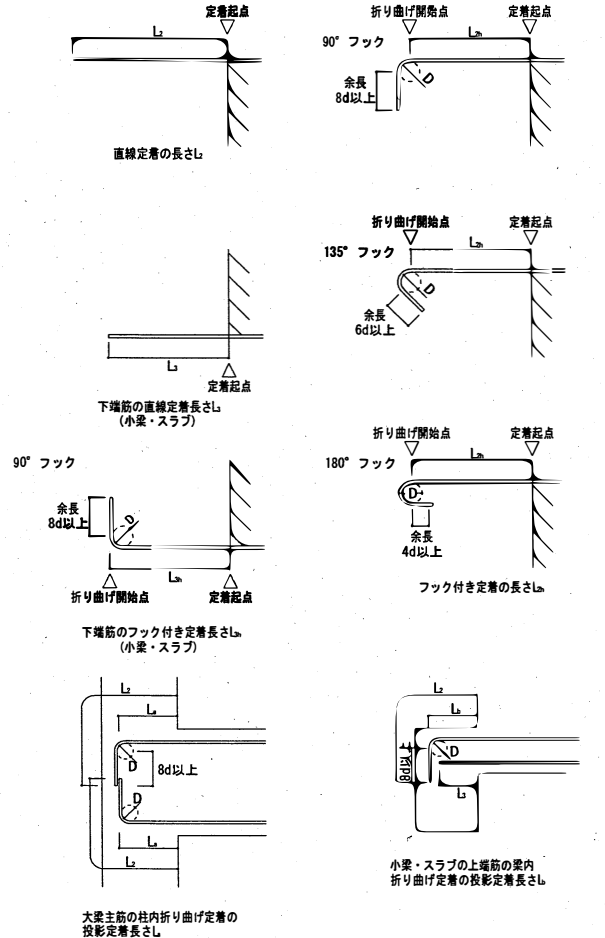
折り曲げ定着の投影定着長さ

大梁主筋の柱内折り曲げ定着の投影定着長さ

(5) 定着長さ

鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度 $F_{cd} (N/mm^2)$	定着の長さ					
		一般				小梁・スラブ	スラブ下端筋
		L ₁ (フックなし)	L ₂ (フックあり)	L ₃ ⁽³⁾	L ₄	L ₅ (フックなし)	L ₆ (フックあり)
SD295	18	40d	30d	20d	15d		
	21	35d	25d	15d	15d		
	24~27	30d	20d	15d	15d		
	30~36	30d	20d	15d	15d		
	39~45	25d	15d	15d	15d		
	48~60	25d	15d	15d	15d		
SD345	18	40d	30d	20d	20d	20d	10d
	21	35d	25d	20d	20d	20d	10d
	24~27	35d	25d	20d	15d		
	30~36	30d	20d	15d	15d		
	39~45	30d	20d	15d	15d		
	48~60	25d	15d	15d	15d		
SD390	21	40d	30d	20d	20d		
	24~27	40d	30d	20d	20d		
	30~36	35d	25d	20d	15d		
	39~45	35d	25d	15d	15d		
	48~60	30d	20d	15d	15d		
	24~27	45d	35d	25d	—		
SD490	30~36	40d	30d	25d	—		
	39~45	40d	30d	20d	—		
	48~60	35d	25d	20d	—		

- 【注】(1) フック付き鉄筋の定着長さL₁は、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
(2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
(3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さL₃確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長をL₃以上とする。水平投影長さをL₃以上とし、余長を8d以上とする。尚、L₃の値は原則として柱せいみの3/4倍以上とする。
(4) 耐力スラブの下端筋の定着長は一般定着L₁とする。



(6) 継手

■ 重ね継手

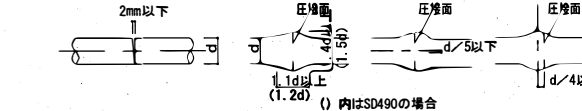
鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度 $F_{cd} (N/mm^2)$	重ね継手長さ	
		L ₁ (フックなし)	L ₂ (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24~27	35d	25d
	30~36	35d	25d
	39~45	30d	20d
	48~60	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24~27	40d	30d
	30~36	35d	25d
	39~45	35d	25d
	48~60	30d	20d
SD390	21	50d	35d
	24~27	45d	35d
	30~36	40d	30d
	39~45	40d	30d
	48~60	35d	25d
	24~27	55d	40d
SD490	30~36	50d	35d
	39~45	45d	35d
	48~60	40d	30d
	48~60	40d	30d

- 【注】(1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
(2) 直線の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
(3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

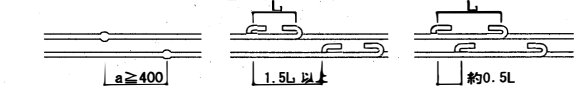
■ 継手に関する注意

- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
- 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
- ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

・ガス圧接形状 (平成12年建設省告示1463号下図のほかに、折れ曲り、焼き割れ、へこみ、垂れ下がり及び内部欠損がないもの)



・圧接継手



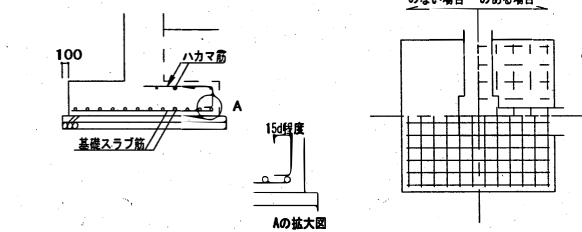
- 溶接継手および機械式継手を用いる場合は信頼できる機関の評定等を受けたA級継手工法とする。
- 非破壊検査は工事監督者が承認した信頼できる検査機関で行うこと。

3. 杭・基礎

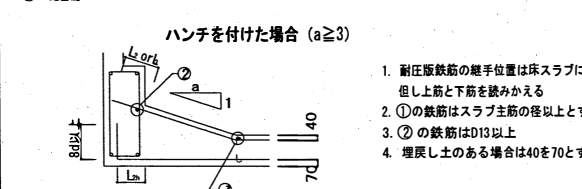
(配筋については地震力等の水平力を考慮して別途検討すること)

(1) 直接基礎

① 独立基礎



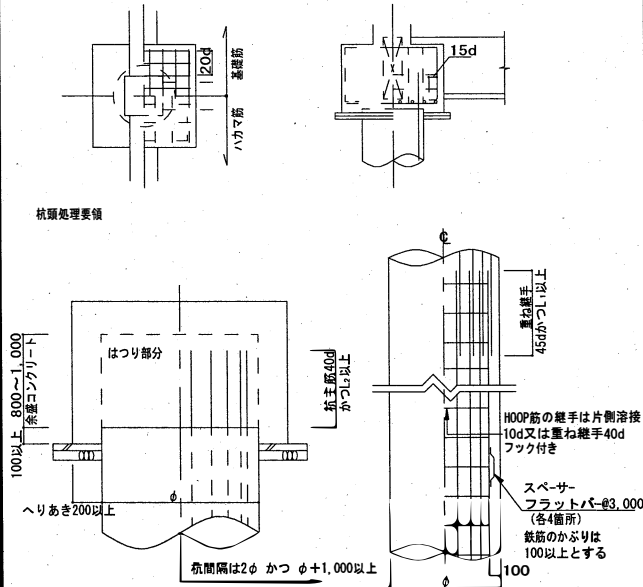
② べた基礎



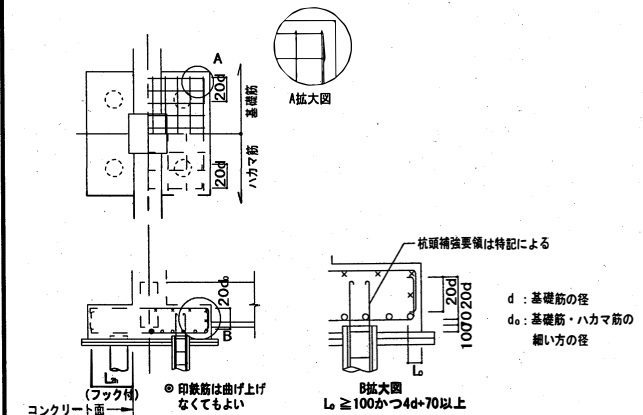
- 耐力鉄筋の継手位置は床スラブにならう。但し上筋と下筋を読みかえる。
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする。
- ②の鉄筋はD13以上。
- 埋戻し土のある場合は40を70とする。

(2) 杭基礎

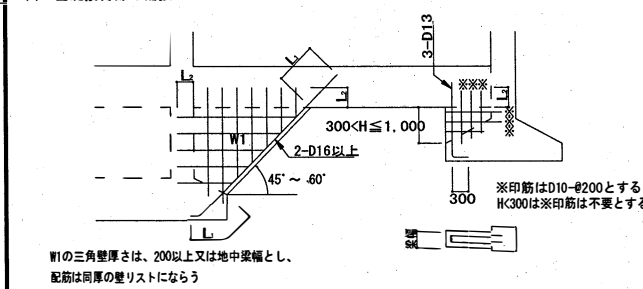
① 場所打ち杭



② PHC杭



(3) 基礎接合部の補強



備考

図面番号

新潟県 村上市

工事名称

道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事

図面番号

S-103

図面名称

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) 【付属図】

縮尺

A1: -
A3: -

電

機

4. 耐久性 (防腐·防蟻·耐候處理)

4. 耐久性 (防腐·防蟻·耐候處理)

- ・塗布 ・吹付 ・浸漬
- 特記無き場合は、処理量： 300ml/m²、処理回数：2回
- 使用薬剤：日本しるあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。

使用部位	高耐久材	工場処理材	現場処理
土台	■ ひのき	■ K3 □ ()	■ 塗布
外周柱下部1m	■ すぎ	■ K3 □ ()	■ (塗布、吹付)
水周り	□ ()	□ K3 □ ()	□ ()
その他	□ ()	□ K4 □ ()	□ ()

□防蟻薬剤による処理：薬剤（ ）
 特記なき場合は、日本しるしあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等以上の効力を有するものとする
 □防蟻薬剤による処理と同等以上の対策（ ）
 □土庫処理省略 □北海道 □東北 □北 陸 □（ ）
 注：処理範囲は、外周部基礎の内側、内周部基礎の周辺20cm、東石等の周辺20cmを標準とし、処理方法は日本しるしあり対策協会の標準仕様書に準じる。

部位	塗料の種類	色の有無
	・造膜型 ・含浸型	・着色（色） ・透明
	・造膜型 ・含浸型	・着色（色） ・透明
	・造膜型 ・含浸型	・着色（色） ・透明
	・造膜型 ・含浸型	・着色（色） ・透明

(1) 刻み時の注意

- ## 6. 接合

- ・打接合部の項目について2.2検査員に記載された仕様での施工を確認する。
 - ・接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、耐力を低減する、接合部の本数を増加するなど監理者と協議して承認を得る。
- ④ 釘接合
- ・釘材の繊維に対して互に打ち、割れを生じないように端距離、縁距離、釘間隔を大きく取る。
 - ・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。
 - ・1ヶ所の釘の本数は2本以上とする。
 - ・釘に割れを生じそれのある場合は、適切な防錆処理を施す。
 - ・自動釘打ち機を使用する場合は、面材に釘がめり込まないようにする。そのために、釘打ち機の力を弱めるが、最後は手打ちを用いるなどの方法による。
 - ・構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は「昭和56年建設省告示第110号」による。
 - ・構造耐力上主要部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。
 - ・開口部に打たれた釘は、引き抜き方向に抵抗させることはできない。

- ・構造耐力上主要な部分において、木ノジを引張り抵抗方向に抵抗させることは避ける
- ・木ノジ面にねじ込まれた木ノジは、引張り方向に抵抗させることはできない
- ・木ノジの先径の径：針葉樹・主材 0.6d、側材 0.8d
広葉樹・主材 0.8d、側材 1.0d (dは木ノジ径)

(先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2/3程度とする。

- ・ねじ込みには適切な道具を使い、ハンマーなどで打ち込んでもよい。
- ・ねじ込みを容易にするため、指撥させないために潤滑剤等を用いてもよい。

- ・組み付けに立ち入り、ボルトの長さ、材質、呼び径、産地等が施工箇所に適合しているものであることを確認する。
- ・ボルトの締め付けは2回以上に分けて行い、1群のボルトの締め付けは一様となるように行う。
- ・ボルトの締め付けは、産地が都府県によりまち渡りとし、めり込み音が発生した時点で締め付けを完了する。
- ・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。
- ・一度締め付けの完了したものは、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

- ・構造耐力上主要な部分において、ラグスクリューを引抜き方向に抵抗させることは避ける。
- ・座金の厚さと大きさは、同じ鋼種のボルト接合部における規定値を用いる。
- ・締め付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径等が施工箇所に適しているものであることを確認する。
- ・ネジ部の先孔の径：比重 0.5以上の樹種・・・ネジ径の 60～75%
 その他樹種・・・ネジ径の 40～70%
 （長さはネジ部の長さと同様に与える。）

- ・ラグスクリューは先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んではいない。
- ・ねじ込みを容易にするためや、損傷させないために潤滑油などをを用いてもよい。
- ・胴部の先孔の径は胴部と同径とし、長さも胴部と同等とする。
- ・一度ねじ込んだラグスクリューを抜き直し、再びねじ込むことは避ける。

- ・ドリフトピンは孔に密着させる。
- ・一度締め付けた併用ボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。

- ・木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点がないよう注意し、影込み・打ち込みまたは匠に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。
- ・接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものについては再度締め直しを行う。
- ・特殊ジベルは使用箇所、使用方法を確認する。

- ・羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取り付けは、それぞれの仕様に基づき、接合両材の間に密着するように締め付ける。
- ・大断面材用の接合金物に関しては、それぞれの仕様に基づく。

- ・接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。
- ・接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験によって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合はその際の作業条件を標準とする。

・使用材料および使用方法是構造図によるものとし、監理者の承認を得る。

(1) 輸送計画

- (6) 建方精度

 - ・建方の精度基準は下記による。

■建物の割れ	: ■ $e \leq H/2500 + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$	□ ()
■梁の水平度	: ■ $e \leq L/700 + 5\text{mm}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$	□ ()
■梁の（節点間のレベル差）	: □ ()	□ ()
■柱梁のわん曲	: ■ $e \leq L/2500\text{mm}$ かつ $e \leq 25\text{mm}$	□ ()
■柱梁受け付け面の高さ及びアンカーボルトの位置		
柱梁受け付け面の基準高さからの誤差	: ■ $\pm 3\text{mm}$ 以下	□ ()
通りおからの誤差	: ■ $\pm 3\text{mm}$ 以下	□ ()
階高	: ■ $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$	□ ()

 - ・建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応を協議する。

アンカーボルト施工時の立会い検査

■ 目標による精度確認 □ 計測機器による精度確認 ■ アンカーボルト径、間隔

■ 施工者自主検査記録の提出 ()

・地組み時の立会い検査

■ 目標による精度確認 □ 計測機器による精度確認 □ 材料の加工寸法検査

■ 施工者自主検査記録の提出 ()

・遣方時の立会い検査

■ 目標による精度確認 □ 計測機器による精度確認 □ 材料の加工寸法検査

■ 施工者自主検査記録の提出 ()

・遣方後の施工状況の検査

■ 防塵・防塵処理 □ 材料の加工寸法検査 □ 接合部の施工状況

■ 接合金物の施工状況

□ その他 ()

■ 施工者自主検査記録の提出 ()

・最終確認

工事中に発生するボルトの緩み、接合部および接合金物に影響する材の割れ、接合面のはがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

■ 施工者自主検査記録の提出 ()

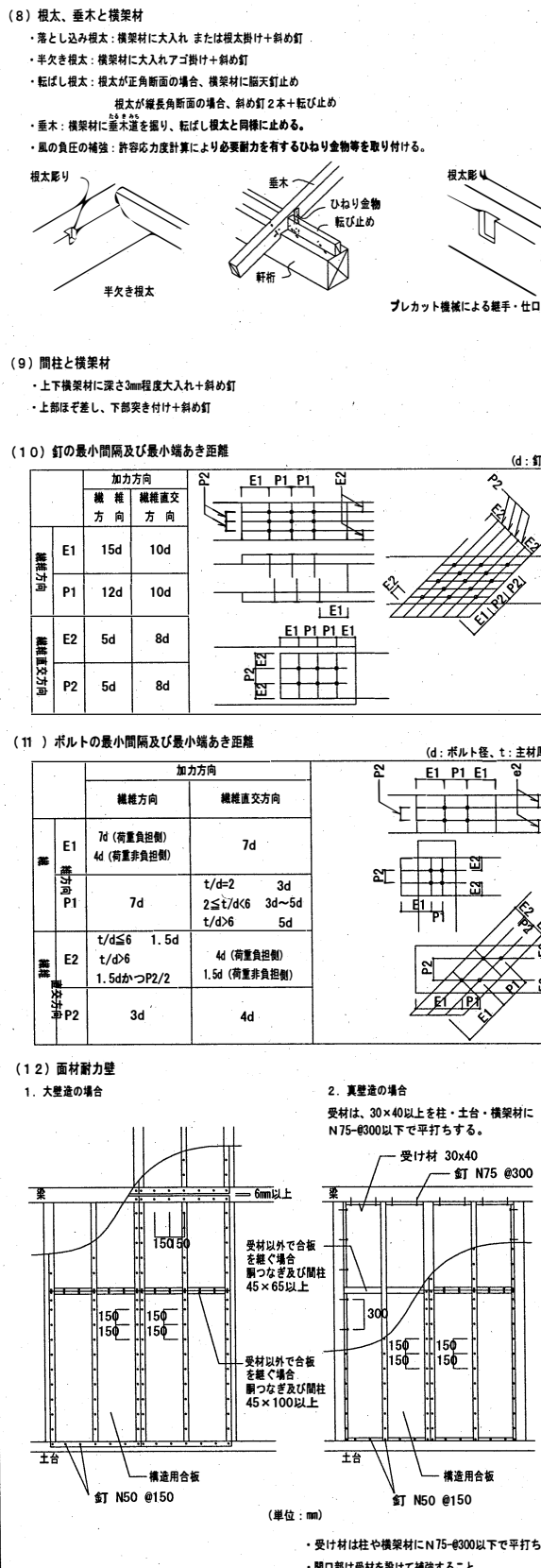
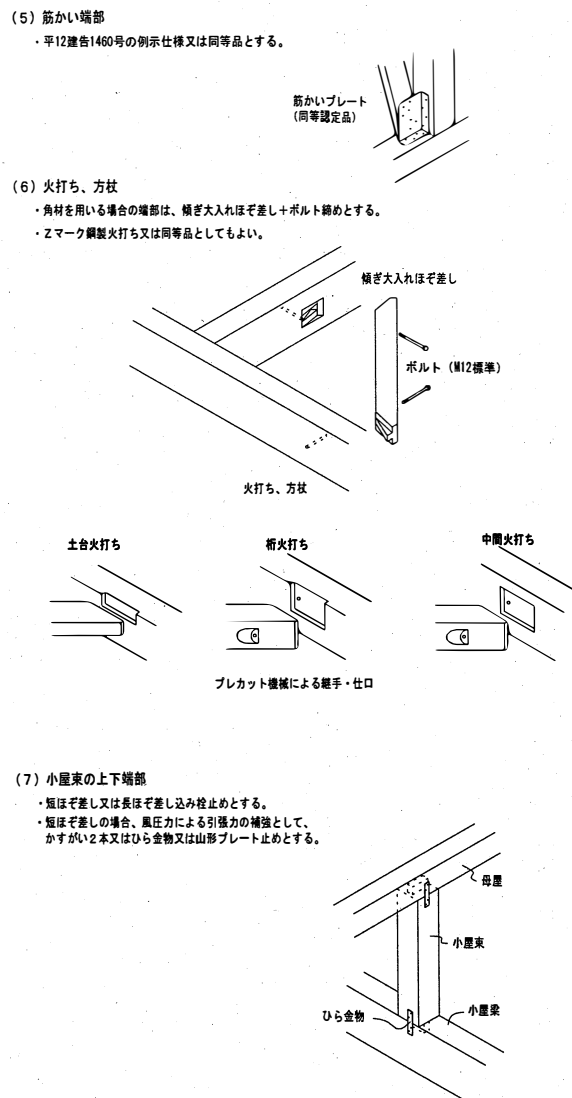
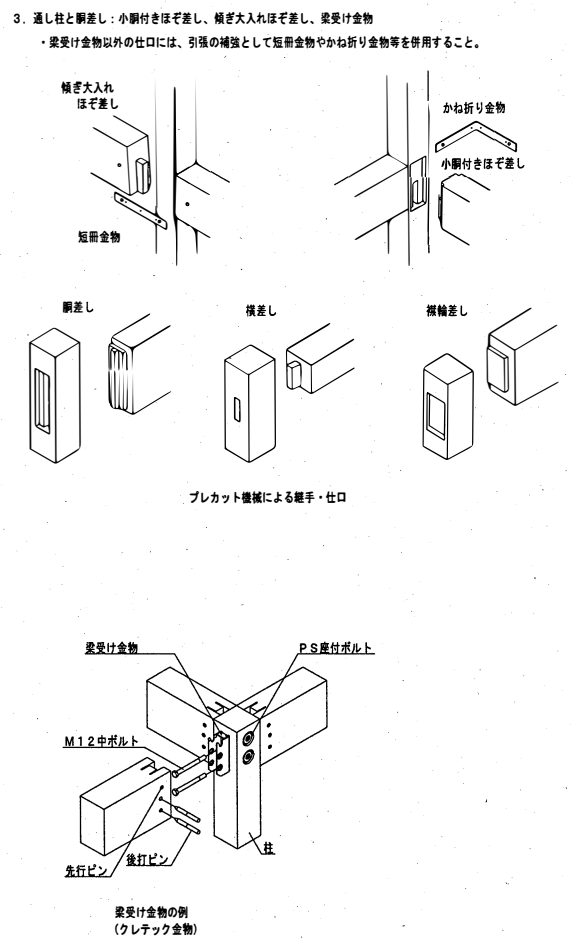
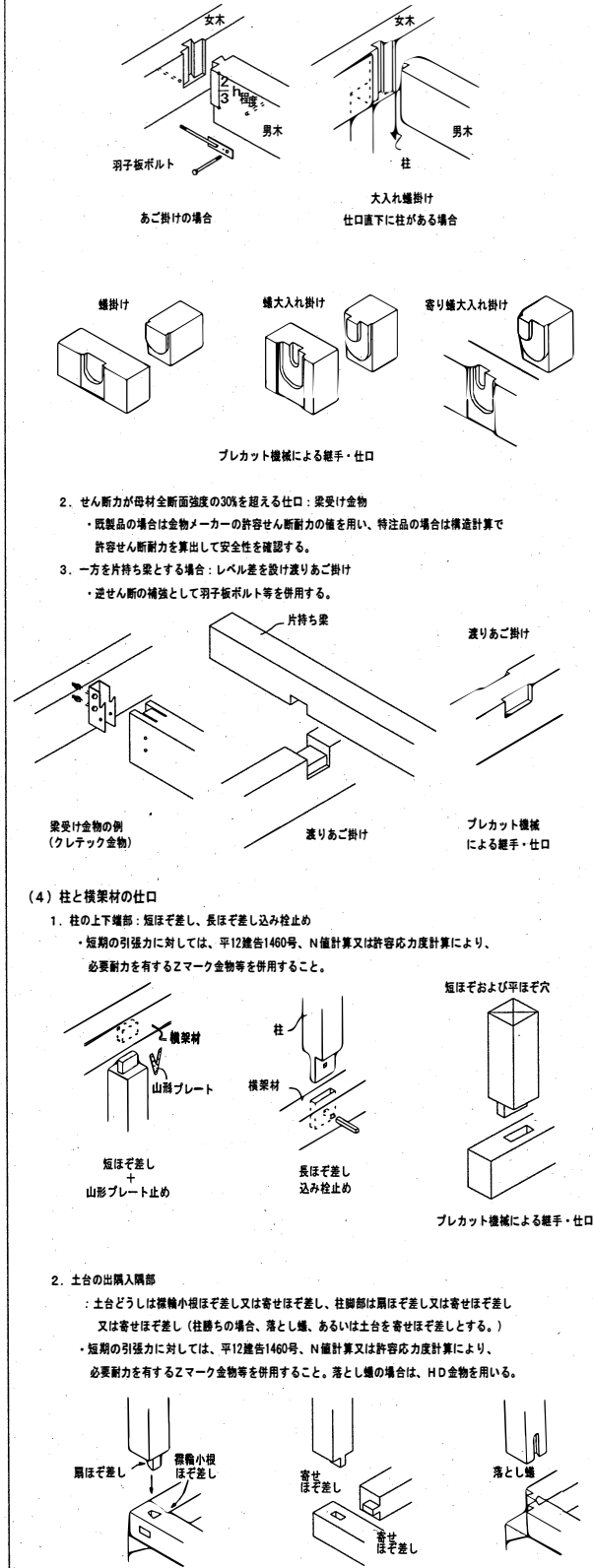
各接合部共通：プレカット製品を使用する場合はその形状および許容耐力に及ぼす影響を確認する。

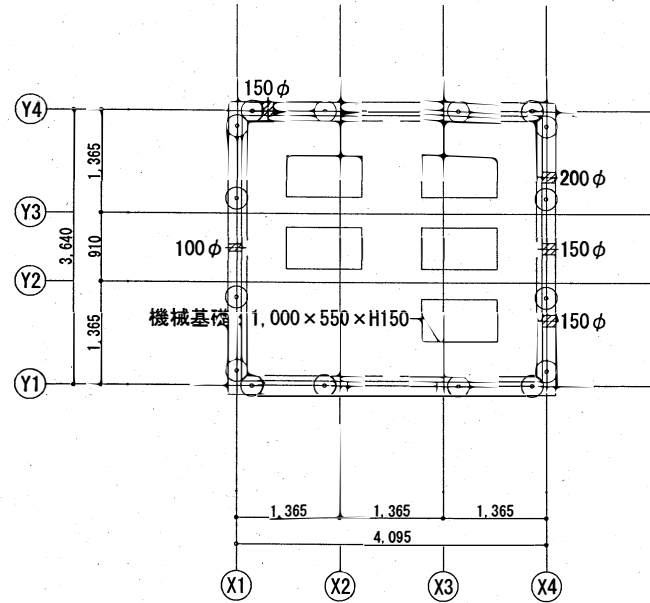
-

-

- | | | | |
|-----------------------------|----------------------|---------------|---|
| 工事名称
道の駅「朝日」（地域振興施設）建築工事 | | 図面番号
S-106 | |
| 図面名称
木質工事特記仕様書（２）【付属棟】 | 縮尺
A1: -
A3: - | 意 | 電 |
| | | 機 | 機 |

木質工事特記仕様書(3)





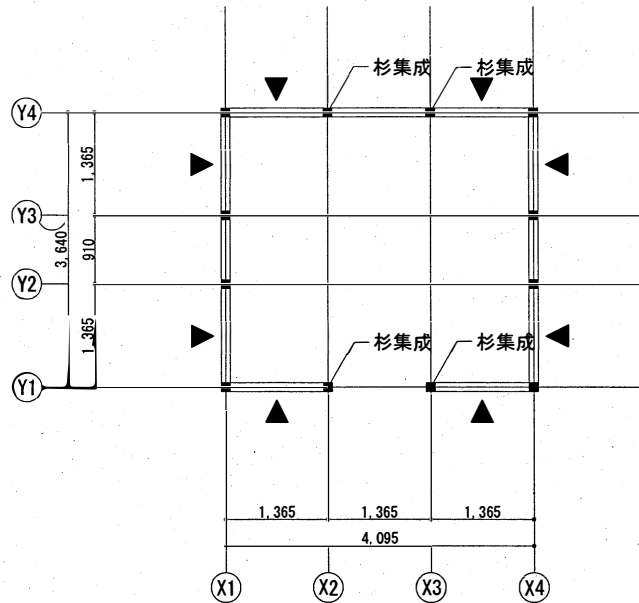
基礎伏図

特記なき限り下記による
・耐圧版はFS1とする
耐圧版レベルは1FL-20とする
・HD金物は柱・壁伏図による
・はスリーブ (RC外壁) 位置を示す

〈凡例〉	
○	アンカーボルト φ13 L=400 (Z金物 M12)

耐圧版リスト

符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向
FS1	180	上端筋	D10・D13-@200	D10・D13-@200
		下端筋	D10・D13-@200	D10・D13-@200



土台伏図

〈凡例〉	
■	管柱 120×120
□	土台 120×120
▲	構造用合板両面 (面材張り大壁)

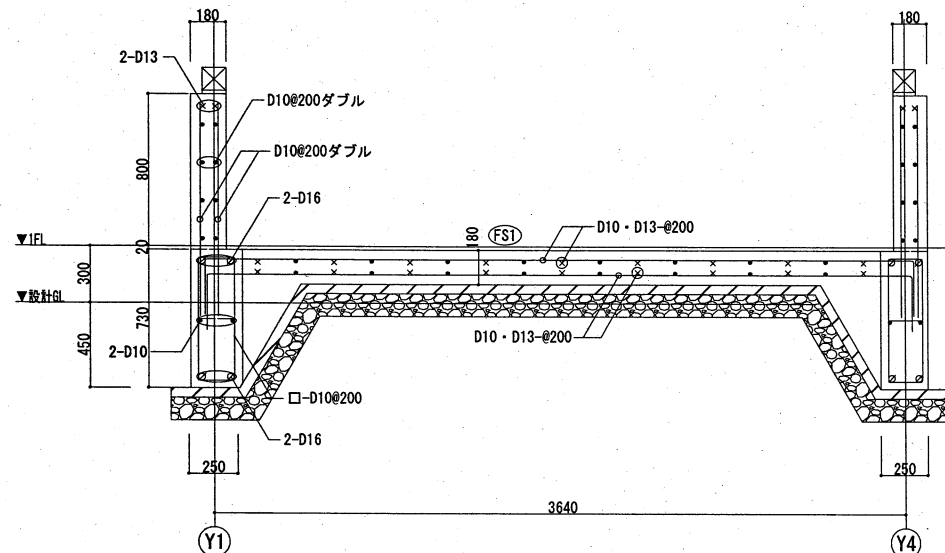
使用材料表

部位	材質	断面サイズ
土台	櫟KD	120×120
柱	杉KD	120×120
柱	杉集成	120×120
梁	杉KD	120×150～
梁	杉集成	120×390
母屋	杉KD	120×120～

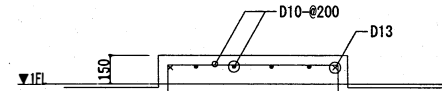
※県産材使用

ベタ基礎 S=1/20

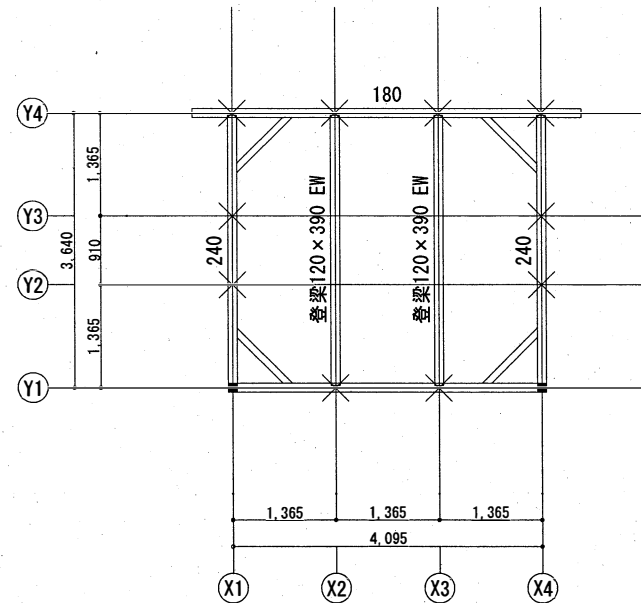
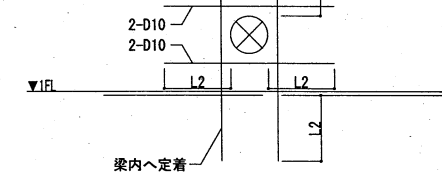
コンクリート : FC=21N/mm² 以上
鉄筋 : SD295



機械基礎



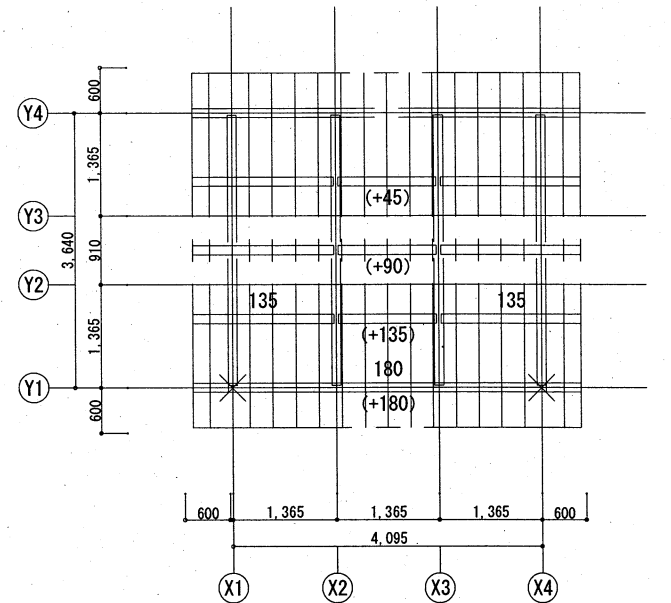
開口補強要領図



小屋伏図

特記なき限り下記による
・梁は120×150とする
・妻の出は化粧材とする
・妻の出はH120とする

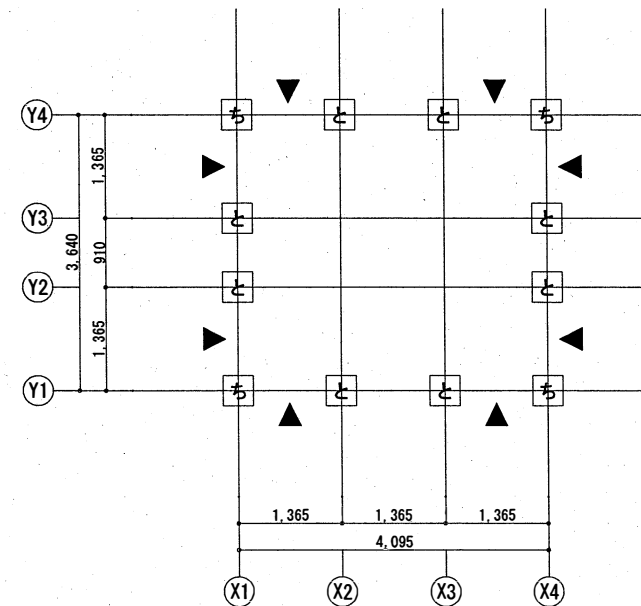
〈凡例〉	
×	下階柱
□	桁・梁 120×150
／	火打梁 90×90 φ13BOLT(通し)止め



母屋伏図

特記なき限り下記による
・母屋は120×120とする
・妻の出は化粧材とする
・妻の出はH120とする
・ (+) 内は小屋桁レベルからのレベルを示す

〈凡例〉	
□	母屋 120×120
—	垂木 45×90 @303



柱・壁伏図

〈凡例〉	
▲	構造用合板両面 (面材張り大壁)

※構造面材が段差などで切れる部分は間柱若しくは半柱同寸の地下材にて補強し、必ず面材の四周を固定してください。

※構造用合板使用部分の間柱は@910でW45を使用すること。

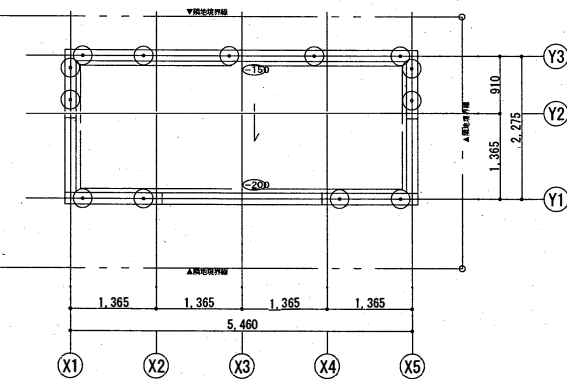
柱頭柱脚の使用		
告示表三	Nの値	継手・仕口の仕様
特記なし	N0.0以下	短ほぞ差しまたはかすがい打ち
ろ	N0.65以下	長ほぞ差し込みまたはかど金物CP-L
は	N1.0以下	かど金物CP-L、山形プレートVP
に	N1.4以下	羽子板ボルトまたは短冊金物 (スクリーナ釘無)
ほ	N1.6以下	羽子板ボルトまたは短冊金物 (スクリーナ釘併用)
へ	N1.8以下	引寄金物HD-B10 (S-HD10)
と	N2.8以下	引寄金物HD-B15 (S-HD15)
ち	N3.7以下	引寄金物HD-B20 (S-HD20)
り	N4.7以下	引寄金物HD-B25 (S-HD25)
ぬ	N5.6以下	引寄金物HD-B15 (S-HD15×2個)

※耐力壁以外の軸組の柱と仕口は下記のいずれかとする。

- ・短ほぞ差し、山形プレート (VP) 当て釘打ち
- ・短ほぞ差し、かど金物 (CP・T) 当て釘打ち
- ・短ほぞ差し、ひら金物 (SM-12) 当て釘打ち

※W16 : HDアンカーボルトのコンクリート基礎へのHD25kN以下定着長さ 360mm以上、HD25kN超え35.5kN以下定着長さ 510mm以上、座金t=9.0×80角

伏図



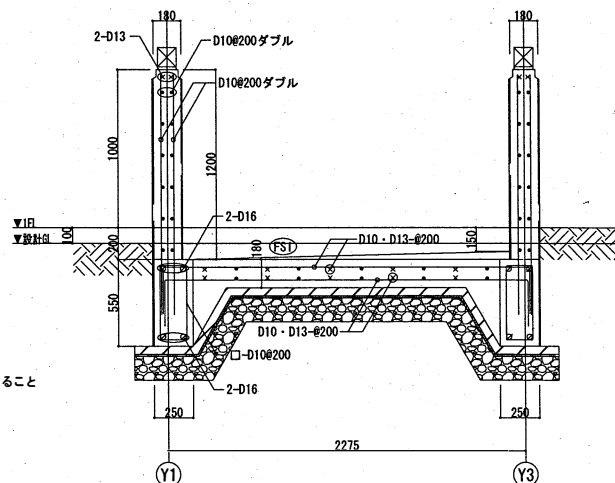
基礎伏図

特記なき限り下記による
・耐圧版はFS1とする
・耐圧版レベルはIFL-200とする
・HD金物は柱・壁伏図による
・○は増打レベルを示す

凡例	
○	アンカーボルト φ13 L=400 (Z金物 #12)

耐圧版リスト

符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向
FS1	180	上端筋	D10・D13-#200	D10・D13-#200
		下端筋	D10・D13-#200	D10・D13-#200

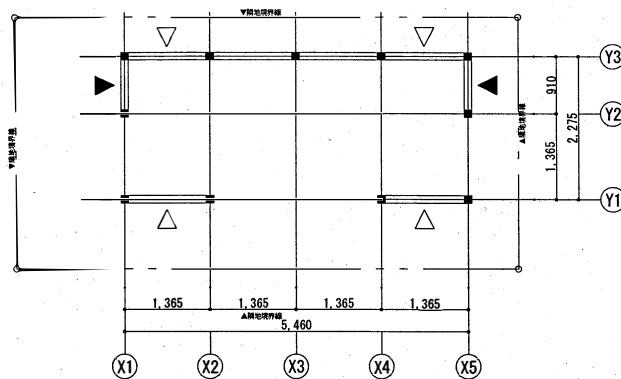


ベタ基礎 S=1/20

コンクリート: FC=21N/mm²以上
鉄筋: SD295

造成工事で実施される載荷試験を元に
地耐力20kN/m2以上が確保されていることを確認すること

土台伏図

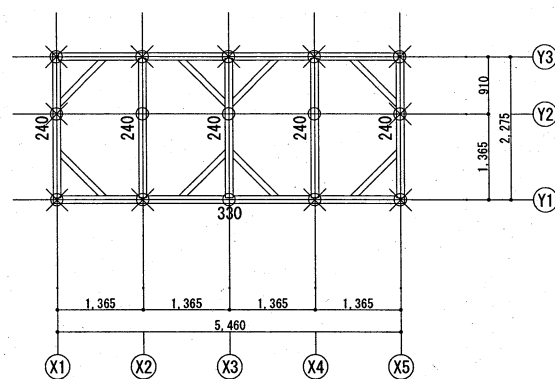


凡例	
■	管柱 120×120
□	土台 120×120
△	構造用合板片面 (面材張り大壁)
▲	構造用合板両面 (面材張り大壁)

使用材料表

部位	材質	断面サイズ
土台	樟KD	120×120
柱	杉KD	120×120
梁	杉KD	120×150～
母屋	杉KD	120×120
小屋束	杉KD	120×120

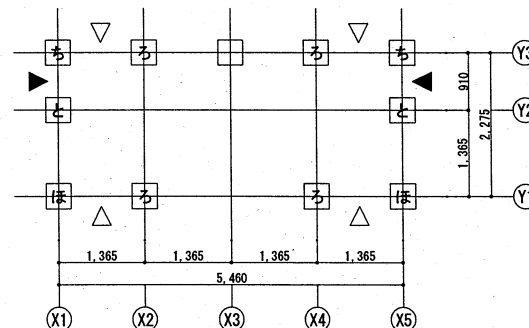
※県産材使用



小屋伏図

特記なき限り下記による
・梁は120×150とする
・壁以外は化粧材とする

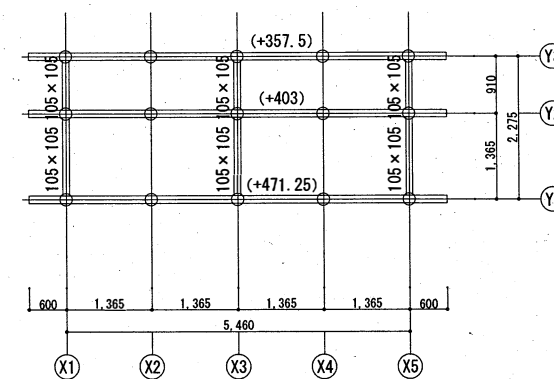
凡例	
×	下階柱
□	桁・梁 120×150
○	小屋束 120×120
／	火打梁 90×90 φ13BOLT (通し) 止め



柱・壁伏図

凡例	
△	構造用合板片面 (面材張り大壁)
▲	構造用合板両面 (面材張り大壁)

※構造面材が段差などで切れる部分は間柱若しくは半柱同寸の下地材にて補強し、必ず面材の四周を固定してください。
※構造用合板使用部分の間柱はφ910で#45を使用すること。



母屋伏図

特記なき限り下記による
・母屋は120×120とする
・母屋、束は化粧材とする
・(*)内は小屋桁レベルからのレベルを示す

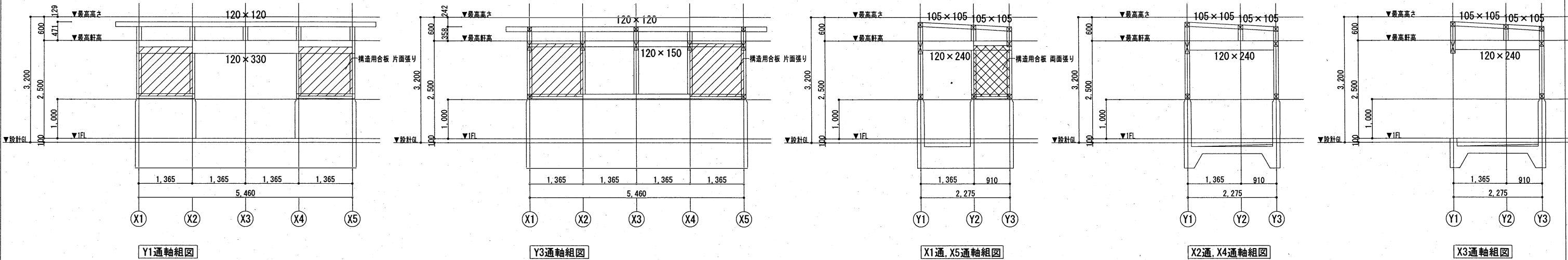
凡例	
○	小屋束 120×120
□	母屋 120×120

柱頭柱脚の使用	
告示表三	Nの値
特記なし	N0.0以下
ろ	N0.65以下
は	N1.0以下
に	N1.4以下
ほ	N1.6以下
へ	N1.8以下
と	N2.8以下
ち	N3.7以下
り	N4.7以下
ぬ	N5.6以下

※耐力壁以外の軸組の柱と仕口は下記のいずれかとする。
・短ほぞ差し、山形プレート (VP) 当て釘打ち
・短ほぞ差し、かど金物 (CP・T) 当て釘打ち
・短ほぞ差し、ひら金物 (SM-12) 当て釘打ち
※M16: HDアンカーボルトのコンクリート基礎へのHD25kN以下定着長さ 360mm以上、HD25kN超え35.5kN以下定着長さ 510mm以上、座金t=9.0×80角

備考		施注者	新潟県 村上市	工事名称	道の駅「朝日」(地域振興施設) 建築工事	図面番号	S-201
				図面名称	喫煙所 伏図	備考	A1: S=1/50 A3: S=1/100
						意	電
						機	

軸組図



〈部材〉	
土台	120×120
管柱	120×120
母屋	120×120
小屋束	120×120

壁量計算表

木造壁量計算表（建築基準法施行令第46条）

施行令第46条 表一		設計壁量の小計（×単位壁長×箇所＝）	
軸組の種類	倍率	X方向	Y方向
		1階	1階
(4) 厚さ4、5センチメートルで幅9センチメートルの木材又はこれと同等以上の耐力を有する筋かいを入れた軸組	2.0		
(8) その他（1）から（7）までに掲げる軸組と同等以上の耐力を有するものとして国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたもの	2.5	136.5× 4	
	5.0		91× 2
設計壁量の合計 c m		1,365.00	910.00

※上の数値が必ず下の数値以上であること。

VII VII

必要壁量 c m	782.46	782.46
----------	--------	--------

or： いずれか大きい数値 ② or ④ ② or ⑥

1.74 1.16

1階平面必要壁量

1階床面積 m² 表二の数値 必要壁量 c m

12.42 × 63 = 782.46 ②

X面立面必要壁量

1階見付面積 m² 表三の数値 必要壁量 c m

4.19 × 50 = 209.50 ④

Y面立面必要壁量

1階見付面積 m² 表三の数値 必要壁量 c m

10.22 × 50 = 511.00 ⑥

木造壁量計算表（平成12年建設省告示第1352号に基づく軸組みの配置チェック） 施行令第46条 表二地震力によって定まる壁量

施行令第46条 表一		設計壁量の小計（×単位壁長×箇所＝）			
軸組の種類	倍率	1階			
		X方向		Y方向	
		側端部（上）	側端部（下）	側端部（左）	側端部（右）
(4) 厚さ4、5センチメートルで幅9センチメートルの木材又はこれと同等以上の耐力を有する筋かいを入れた軸組	2.0				
(8) その他（1）から（7）までに掲げる軸組と同等以上の耐力を有するものとして国土交通大臣が定めた構造方法を用いるもの又は国土交通大臣の認定を受けたもの	2.5	136.5× 2	136.5× 2		
	5.0			91× 1	91× 1
設計（存在）壁量（LD）の合計 c m		682.50	682.50	455.00	455.00

必要壁量（LN） c m	195.30	195.30	195.30	195.30
--------------	--------	--------	--------	--------

壁量充足率（ $\gamma = LD/LN$ ）	3.49	3.49	2.33	2.33
上下・左右各々で $\gamma > 1$ の場合 OK	OK	OK	OK	OK

$\gamma \leq 1$ の場合 壁率比のチェック

壁率比（ γ 小/ γ 大）	1.00	1.00
γ 小/ γ 大 ≥ 0.5 の場合 OK	OK	OK

1階側端部必要壁量

X方向側端部（上）

床面積 m² 表二の数値 必要壁量 c m

3.10 × 63 = 195.30

X方向側端部（下）

床面積 m² 表二の数値 必要壁量 c m

3.10 × 63 = 195.30

Y方向側端部（左）

床面積 m² 表二の数値 必要壁量 c m

3.10 × 63 = 195.30

Y方向側端部（右）

床面積 m² 表二の数値 必要壁量 c m

3.10 × 63 = 195.30

建築物	階の床面積に乘ずる数値 単位 c m / m ²
	階数が1の建築物
屋根：金属板 外壁：サイディング 積雪：2.2m	⑬

施行令第46条 表三 風圧力によって定まる壁量

区域	見付面積に乘ずる数値 単位 c m / m ²
	50を越え、75以下の範囲内において特定行政庁がその地方における風の状況に応じて規則で定める数値
1 特定行政庁がその地方における過去の風の記録を考慮してしばしば強い風が吹くと認めて規則で指定する区域	⑮
2 （1）に掲げる区域以外の区域	⑮

